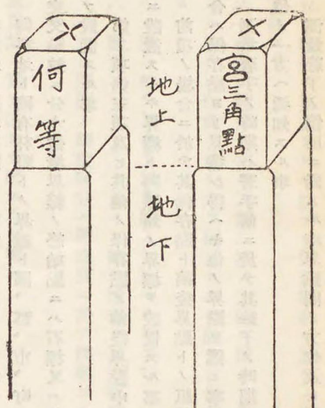

兼候ニ付以後ハ左記ノ通前面ニ宮三角點裏面ニ等級ヲ彫刻致シ可然哉

○國有林野内ヘ御料地測量標設置手續

明治三十三年四月二十四日第一一六三ノ三號局長ヨリ地方部局ヘ達

今般其筋ト協議ノ末左ノ通一定相成候條自今右ニ據リ施行スヘシ但シ御料地内ヘ國有林野測量標ヲ設置スル場合モ右手續ニ準シ施行ノ義ト心得ヘシ

第一　國有林野内ヘ御料地測量標ヲ設置シ又ハ其ノ障碍ノ木竹ヲ伐採セントスルトキハ御料局地方部局又ハ御料局測量員ヨリ豫メ其ノ作業ノ地域及期日ヲ當該小林區署ヘ通知スル事

第二　前項御料地測量標ノ設置又ハ障碍木ノ伐採ニハ林區署員ノ立會ヲ要セス施行ノ後其ノ數量及積置場所ヲ當該小林區署ニ通知スル事

但シ目通三尺廻以上ノ樹幹拾本以上ヲ伐採セントスルトキハ當該小林區署ノ立會ヲ求ムル事

第三　前項障碍木竹ノ伐採ニ要スル費用ハ御料局之ヲ負擔シ其ノ伐採ノ木竹ハ當該大林區署ニ於テ賣却シ收入金見込高ニ不足ヲ生シタルトキハ其ノ不足分丈御料局ヨリ之ヲ補償スル事

第四　御料地測量標ニシテ永ク保存スルノ必要アルトキハ設置後御料局地方部局又ハ御料局測量員ヨリ遲滯ナク其ノ箇所ヲ當該小林區署ヘ通知スル事

第五　御料地測量標設置ニ要スル敷地ハ其ノ標ノ保存期間無借地料ニテ使用シ得ル事

第六　御料地測量標ハ國有林野ノ測量ノ爲之ヲ使用シ得ル事

但シ使用ヲ要スル場合ニ於テハ當該御料局地方部局ヘ通知スル事

第七　御料局ニ於テ第四項ニ依リ通知ヲ爲シタル御料地測量標ノ廢止又ハ改設ヲ爲サントスルトキハ豫メ當該小林區署ヘ通知スル事

●御料地測量ノ爲メ國有林野内ニ於ケル障碍木伐採ノ件

明治三十八年三月二日第六八七ノ二號局長ヨリ本局及地方部局ヘ達

御料地測量ノ爲メ國有林野内ニ於ケル障碍木伐採ノ義ニ付テハ明治三十三年四月廿四日第一一六三號ノ三ヲ以テ國有林野内ヘ御料地測量標設置手續相達置候所其障碍木ヲ伐採スヘキ國有林野ニシテ保安林タル場合ニハ該手續第二項ニ據ラス豫メ當該小林區署ノ承諾ヲ得タル上伐採スヘキ義ト心得ヘシ

○御料地内ニ陸地測量標建設ノ件

明治二十五年六月十四日送甲第一三八七號陸軍大臣ヨリ大臣ヘ協議

（沿革）廿五年四月十八日發丙第四六號ヲ以テ陸地測量部ヨリ御料地内ニ陸地測量標建設ノ義本局ヘ照會五月七日第一〇八五ノ二號ヲ以テ承知ノ旨回答、六月十四日本文ノ通リ測量標建設手續設定

陸地測量部ニ於テ廿三年法律第廿三號陸地測量標條例ニ依リ各種ノ測量實施候處該條例第二條外ノ地種ニ測量標ヲ建設セントスルトキハ總テ協議若ハ示談ニ依ルノ外致方無之而シテ皇宮地附屬地ノ義モ條例第二條外ノ地種ニシテ其地區タル數方里ニ渉リ且高山森林等ヲ包括スルヲ以テ場合ニ依リ右地區ニモ測量標ヲ設置セサレハ全國測量ヲ爲ス上ニ就テ困難ヲ感スルコト不少就テハ別紙ノ手續ニ依リ皇宮地附屬地ニモ諸測量標設置シ得ル樣致希望候

官有地第一種皇宮地附屬地ヘ陸地測量標建設手續

第一項　皇宮地附屬地内ニ於テ陸地測量標ヲ建設セントスルトキハ陸地測量部派出測量主任官ハ御料地所轄ノ區別ニ依リ豫メ御料局又ハ同局支廳事務所又ハ各支廳出張所ヘ通知シタル後施行ス

但事業ノ急速ヲ要シ其場所御料局所轄廳ト遠隔シ通知スル暇ナキトキハ此限ニアラス

第二項　測量施行ノ爲メ障碍トナル竹木ノ已ムヲ得サルモノニ限リ測量主任官ハ豫メ御料局所轄廳ト協議シ之ヲ伐除スルコトヲ得此場合ニ於テハ請求ニ依リ相當ノ補償ヲナス

牆垣籬柵等又ハ植物ヲ毀損シタルトキハ亦相當ノ補償ヲナス

第三項　前項ニ規定シタルモノヲ除クノ外ハ明治廿三年陸軍省令第十二號陸地測量標條例施行細則ヲ準用ス

第四項　此手續ニシテ宮内大臣ヨリ府縣廳ヘ委托シタル御料地ニ係ル要件ニ就テハ御料局長ヨリ豫メ其府縣知事ニ說示シ置クモノトス

（回答）二十五年七月五日御料局第一〇八五ノ六號）協議之趣了承右ハ差支無之候

（備考）本件往復ニ付同日同號ヲ以テ局長ヨリ地方部局ヘ達

○御料地内鐵道線路測量ノ時陸地測量標建設手續ニ準スル件

明治二十五年十月一日鐵第四七七號鐵道廳長官ヨリ大臣ヘ照會

豫定鐵道線路測量中ニハ其徑路御料地ニ相當リ見通シノ爲メ樹木ノ伐採ヲ要スル箇處可有之候處該地ニ差掛リ候節其都度御料局或ハ同局支廳等ヘ及照會承諾ヲ得テ始メテ立入リ又ハ障碍木ヲ伐採致居候テハ遠隔ノ地ニ在リテハ往復ニ日子ヲ費シ事業進歩ノ障碍ヲ爲スコト不少候處陸軍省ニ於テハ貴省ト御協議ノ上御料地内測量標建設ニ關スル手續別紙（略之）之通リ相定メ有之候趣ニ付鐵道線路測量之場合ニ於テモ之ト同樣ノ手續ヲ以テ施行致度存候

（回答）二十五年十月十三日第二六四八ノ四號）右ハ該手續ニ準シ御施行相成リ差支無之候

追テ本文ノ義當局各支廳事務所等並ニ關係各府縣ヘハ夫々通達方取計置候

（備考）本件往復ニ付同日同號ヲ以テ局長ヨリ地方部局ヘ達

六　被害

●帝室林野局支廳及出張所ニ於ケル御料財産損害取扱規程

大正二年十二月二十五日
第五五（二ノ三）號長官達

第一條　御料財産ニ對スル損害賠償ノ請求ハ支廳長本局ノ出張所長又ハ支廳ノ出張所長之ヲ行フコトヲ得

公訴附帶ノ私訴ハ特別ノ指揮アラサル限リ支廳長又ハ本局ノ出張所長之ヲ提起スルコトヲ得其ノ控訴上告ニ付亦同シ

公訴附帶ノ私訴ニシテ急速ヲ要シ又ハ遠隔ノ地ニ在リテ前項ニ依リ難シト認ムルトキハ支廳ノ出張所長之ヲ提起スルコトヲ得但シ上告ヲ爲スニハ支廳長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二條　御料財産ニ對シ不法行爲ニ因リテ損害ヲ生セシメタル者アルトキハ急迫ノ場合ヲ除クノ外遲滯ナク先ツ其ノ責任者ニ對シ其ノ賠償ヲ請求スヘシ

第三條　前條ノ規定ニ依リ請求スヘキ損害額カ被害物件ヲ正當拂下アリタルモノト假定シ專決處分シ得ル金額ヲ超ユルトキハ請求前本局出張所ニ在リテハ長官、支廳ノ出張所ニ在リテハ支廳長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ指揮ヲ受クル暇ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ遲滯ナク上官ニ報告スヘシ

第四條　被害區域他ノ管轄區域ニ亘ル場合ニ於ケル損害ノ請求又ハ私訴ノ提起ニ付テハ其ノ事情ヲ具シ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條　犯罪ニ原因スル損害ニシテ其ノ責任者第二條ノ請求ヲ肯セサルトキ又ハ其ノ請求ヲ爲スノ暇ナキトキハ遲滯ナク私訴ヲ提起スヘシ

第六條　犯罪ニ原因セサル損害又ハ犯罪ニ原因スルモ公訴不起訴トナリタル場合ニ於ケル損害ニシテ責任者第二條ノ請求ヲ肯セサルトキ又ハ責任者ノ確認ヲ得ルコト能ハサルトキハ遲滯ナク其ノ事實、理由、責任者ノ資力及生活狀態等ヲ具シ上官ニ具申スヘシ

支廳長前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ之ニ意見ヲ附シ長官ニ具申スヘシ

第七條　損害金額五十圓未滿ニシテ責任者損害金及訴訟費用ヲ辨濟スルノ資力ナク且他ニ影響スル虞ナシト認ムル場合ニハ其ノ請求權ヲ拋棄シ又ハ提起シタル私訴ヲ取下クルコトヲ得

支廳ノ出張所長前項ノ請求權ヲ拋棄セムトスル場合ニ於テ其ノ損害金額十圓ヲ超ユルトキハ支廳長ノ指揮ヲ受クヘシ

第八條　私訴ニシテ全部又ハ一部敗訴ニ歸シ其ノ判決當ヲ得スト認ムルトキハ控訴ノ申立ヲ爲スヘシ

第九條　第一審及第二審ノ裁判共ニ敗訴ニ歸シタルトキハ長官ノ指揮ナクシテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

第二審ノ裁判ノミ敗訴ニ歸シ其ノ判決上告ノ理由アリト認メタルトキハ上告ヲ爲スヘシ

第十條　私訴ヲ取下ケムトスルトキハ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

第十一條　私訴ヲ提起シ又ハ控訴上告ヲ爲シ又ハ私訴ヲ取下ケタルトキハ遲滯ナク書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ顚末ヲ上官ニ報告スヘシ其ノ判決アリタルトキ亦同シ但シ敗訴ノ言渡ヲ受ケタルトキハ先ツ其ノ要旨ヲ急報スヘシ

支廳長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ更ニ長官ニ報告スヘシ

第十二條　第七條ノ規定ニ依リ請求權ヲ拋棄シタル損害金額ハ第一號書式ノ帳簿ヲ備ヘ置キテ之ヲ記載シ毎年末現在ヲ第二號書式ニ依リ支廳ノ出張所長ハ翌年一月中ニ支廳長ニ報告シ支廳長又ハ本局ノ出張所長ハ翌年二月十日迄ニ長官ニ報告スヘシ

附　則

第十三條　本規程ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　本規程施行前ニ提起シタル私訴ニ付テハ本規程ニ依リ權限ヲ有セサル者ト雖仍其ノ裁判ノ終了ニ至ル迄之ヲ續行スルコトヲ妨ケス

（書式略）

●御料地及產物等被害ニ關スル報告ノ件

大正三年一月二十一日
第二五一號長官達

御料地及產物等ノ被害報告ノ義ニ關シテハ曩ニ相達置候次第モ有之候處大正三年一月ヨリ左記ニ據リ取扱フ義ト心得ヘシ

一　被害事件ニシテ其都度報告スヘキモノハ支廳處務規程ニ依ルヘシ但從來ノ報告樣式ハ之ヲ廢止ス

二　從來ノ月報ハ半年報ニ改メ被害事件ハ總テ之ヲ取纏メ別紙樣式ニ據リ一月ヨリ六月ニ至ル分ヲ前期トシ其年八月末日迄ニ又七月ヨリ十二月ニ至ル分ヲ後期トシ翌年二月末日迄ニ調製進達スヘシ

（樣式略）

●林野等火入ニ關スル事務取扱方ノ件

明治四十四年九月十二日
第四六七五ノ二號主事通牒

森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ當局カ火入ヲ許可シタル場合等ニ於ケル取扱上ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通農商務省山林局長ヨリ照會有之乙號ノ通回答相成候

（別紙）

甲號　四十四年八月廿九日林第四〇五二號山林局長ヨリ長官ヘ照會

森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ貴局森林官吏カ火入ヲ許可シタル場合ニ於テ火入地カ林區署所管地ニ接近スルトキハ同署森林官吏ニ其ノ他ノ土地ニ接近スルトキハ警察官吏ニ直ニ左記事項ヲ通知シ又貴局自ラ火入ヲ行フ場合モ之ニ準スル樣致度ニ付テハ御異議ノ有無承知致度

記

一　火入箇所及面積
一　火入ノ目的
一　火入ノ日時
一　火入者ノ住所及氏名

追テ本文ノ取扱振リニ對シ御異議無之ハ林區署森林官吏幷ニ警察官吏ニ於テ火入ヲ許可シタル場合及林區署又ハ府縣自ラ火入ヲ行フ場合ニ於テモ亦本文ニ準シ取扱ハシムヘキ筈ニ付了知相成度

乙號　四十四年九月十二日第四六七五ノ二號長官ヨリ山林局長ヘ回答

森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ當局森林官吏カ火入ヲ許可シタル場合等ニ於ケル取扱上ノ義ニ關シ客月二十八日林第四〇五二號御照會ノ趣了承右ハ當局ニ於テ別段異存無之候

●有害鳥獸捕獲許可證下付方ニ關スル件

昭和六年七月三日業第四〇〇號長官ヨリ御料地關係地方長官ヘ通知

貴管下所在御料地有害鳥獸捕獲ノ爲メ從來當局所屬公務員ニ對シ本局ヨリ該許可證ヲ下付致居候處自今當局何支局長ヲシテ直接之ヲ取扱ハシメ候條右ニ承知相成度

●同上ノ件

昭和六年七月三日業第四〇〇號業務課長ヨリ各支局長林業試驗場長ヘ通牒

御料地有害鳥獸捕獲許可證下付方ニ關シテハ今回當局支局長林業試驗場長及出張所長處務規程改正ニ伴ヒ貴局（貴場）ニ於テ專決處理ノコトニ相成候ニ付テ別紙依命通牒ノ趣旨ニ基キ之カ施行幷ニ取扱上ニ付遺憾ナキヲ期セラレ度

追テ關係地方長官ニ對シテハ自今貴局（貴場）ニ於テ直接該證票下付方取扱フヘキ旨通知致置候條承知相成度

（別紙）

大正八年十二月二十四日官房調査甲第三五九號調査課長ヨリ長官ヘ依命通牒

本年八月農商務省令第二十八號ヲ以テ狩獵法施行規則ヲ改正セラレ候處右ノ內左記ノ事項ニ關シテハ農商務省ト協定濟ニ有之候條可然御取扱相成度

追テ左記第二項末段貴官ヨリ關係地方長官ニ對シ通牒ヲ發シタル場合ニハ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ報告相成度（昭和六年九月二十一日宮內省參事官參隆第三七號ニ依リ本退書消滅）

記

一　狩獵法施行規則第二條第二項ニ規定セラレタル狩獵期間ニ付テハ主獵寮ニ於テ供進又ハ外國貴賓接待等ノ爲鹿類ヲ十月中旬頃ヨリ三月中旬頃マテノ間ニ於テ狩獵ヲ行フヘキ事モ可有之爲ニ同規則ノ制限ト一致セサル場合ヲ生スルヤモ難計モ農商務省ニ於テ異存ナキコト

二　有害鳥獸驅除ニ付テハ從來主獵頭、帝室林野管理局長官、御料牧場統理ヨリ其ノ都度關係地方長官ト照覆ヲ重ネ居リタルモ今般農商務省ニ於テ各地方廳ニ對シ「御獵場、御料林野、御料牧場、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムルトキハ當該管理官廳ハ所屬公務員ニ狩獵法施行規則第七條ニ依ル鳥獸捕獲許可證ニ準シタル證票ヲ交付シ其ノ旨關係地方長官ニ通牒スヘク右證票ハ地方長官ノ下付スヘキ許可證ニ代ルモノトス」トノ內訓ヲ發セラレタルヲ以テ向後右ノ場合ニハ貴官ハ所屬職員ニ對シ別紙雛形ノ證票ヲ交付シ且豫メ其ノ旨ヲ關係地方長官ニ通牒セラルヘク又有害鳥獸ノ驅除ヲ終了シタル場合ニ於テハ同規則第十一條第二項ノ事項ヲ直ニ貴官ヨリ農商務省ニ報告相成度尙狩獵法及同附屬法令ハ御料ニ適用ナキモノトスルハ農商務省ト協定濟ナレトモ右ノ驅除ニ從事スヘキ職員ハ狩獵法及同附屬法令ノ趣旨ヲ尊重スヘキハ勿論貴官ニ於テ特ニ其ノ從事者ニ對シ監督ヲ嚴重ニシ取締上遺憾ナキヲ期セラレ度

（別紙證票雛形略ス）

（注意）

昭和六年九月廿九日業第四七〇ノ三號業務課長ヨリ各支局長、林業試驗場長ヘ依命通牒要旨

有害鳥獸捕獲許可證交付ノ上地方長官ニ對シ通牒ヲ發シタル場合ニ於テ宮內大臣宛ノ報告ハ爾今省略ノコトニ決定相成從テ本局ニモ報告ヲ要セス尙有害鳥獸驅除終了後ニ於テハ狩獵法施行規則第十一條第二項ノ事項ヲ農林省畜產局ヘ直接報告ノ上其旨本局ヘ報告ノコト

●有害鳥獸捕獲許可證返納方ノ件

大正十五年一月廿五日業第五七號次長通牒

從來有害鳥獸捕獲許可證返納ト共ニ捕獲鳥獸名捕獲數ヲ報告相成居候處客年拾月拾參日狩獵法施行規則改正ニ伴ヒ有害鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタルモノハ捕獲鳥獸名、員數、及其ノ處置ヲ屆出ツル事ニ相成候仍テ當局ニ於テモ右ニ準シ取扱フ見込ニ付爾後報告表ニハ捕獲物ノ處置ヲモ記載相成樣致度

●野鼠チブス菌培養液配給方ノ件

昭和七年八月五日業第三五九號業務課長ヨリ各支局長ヘ通牒

從來當局林業試驗場ニ於テハ各出張所ノ依賴ニヨリ野鼠チブス菌培養液ヲ配付スル場合ハ藥品代及容器代ヲ申受ケ居候處自今荷造運搬費ノミ各申込出張所ノ自辨トシ同費先拂ヲ以テ同培養液ヲ無料配給ノコトニ決定致候條入用ノ場合ハ左記事項承知ノ上林業試驗場ヘ申込ム樣各出張所ヘ移牒相成度

記

一　チブス菌培養液ハ少量ツヽ數回ニ渡ラス成ルヘク必要量ヲ一度ニ取纏メ申込ムコト

一　申込ノ際ハ必ラス必要ノ容量（立）ヲ揭記スルコト

但容量不明ナルトキハ使用面積ヲ揭クルコト

一　チブス菌ハ野鼠ノ種類ニヨリ効果異ナルヲ以テ判明セルモノハ其種類ヲ揭記スルコト

一　同培養液ハ不斷、林業試驗場ニ用意シアルヲ以テ何時申込アルモ配給上支障無キコト

●新冠牧場內有害鳥獸驅除ノ件（要旨）

昭和三年二月七日監第二六八號札幌支局長伺同二月二十三日業第一〇八ノ二號次長通牒

有害鳥獸驅除ニ付銃器又ハ火藥ヲ官給スル場合ハ獲物ヲ本人ノ所得ト爲サス出張所ニ於テ賣却又ハ棄却スル等適當ノ處分ヲ爲スコト

右經費ハ事業費、產物費、耕牧費（農耕費）ヨリ支辨

第八類　土地貸付

第八類　土地貸付

○御料地貸付規程

大正二年十二月二十五日第五〇一一ノ三號長官ヨリ支廳、出張所ヘ達

第一章　總　則

第一條　本規程ニ於テ御料地ト稱スルハ帝室林野局ニ於テ管理スル土地及林野ニシテ他部局ノ保管ニ屬セサルモノヲ謂フ

第二條　御料地ノ貸付ニ付別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ總テ賃貸借契約又ハ使用貸借契約ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條　本規程ハ御料地ニ對スル物權ノ設定移轉變更及消滅ニ付之ヲ準用ス

第四條　御料地ノ貸付ハ之ヲ分テ一時貸付及年期貸付ノ二種トス

一時貸付トハ貸付期間ノ十二箇月ヲ踰エサルモノヲ謂ヒ年期貸付トハ貸付期間ノ十二箇月ヲ踰ユルモノヲ謂フ但シ林業附帶ノ用途ニ供スル爲貸付スルトキハ十二箇月ヲ踰ユル場合ト雖之ヲ一時貸付ト看做ス

第五條　借地ニ關スル願書、請書其ノ他ノ書類ハ其ノ土地所轄ノ帝室林野局支局ノ出張所ニ差出スヘシ但シ時宜ニ依リ願書ハ其ノ出張所ノ屬スル帝室林野局支局ニ其ノ他ノ書類ハ別段ノ指示ナキ場合ニハ各出張所ニ屬スル分擔區ニ差出スコトヲ妨ケス

第六條　借地人借地區域外ヲ使用シタル場合ニ於テ其ノ時期明瞭ナラサルトキハ損害ノ賠償ニ付テハ反證ナキ限リ土地引渡ノ日ヨリ使用シタルモノト推定ス許可ヲ受ケスシテ借地ヲ目的外ニ使用シタルトキ亦同シ

第二章　契　約

第七條　新ニ借地ヲ出願セムトスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ其ノ位置及區域ヲ知リ得ヘキ圖面ヲ添付スヘシ但シ位置及區域ノ明瞭ナルトキハ之ヲ省略セシムルコトアルヘシ

借地ノ目的カ借地前豫メ官廳ノ認可ヲ要スル事項ナルトキハ其ノ認可書ノ寫ヲ添付スヘシ

第八條　開墾植樹又ハ牧畜ノ爲借地セムトスル者ハ事業方法書ヲ添付スヘシ但シ時宜ニ依リ之ヲ省略セシムルコトアルヘシ

事業方法書ニ記載スヘキ概目左ノ如シ

一　土地ノ現狀
二　實測又ハ見込面積
三　事業計劃ノ大要
四　事業著手ノ時期
五　每年開墾又ハ植栽スヘキ豫定面積及其ノ位置圖
六　開墾又ハ植栽ノ終了期限
七　其ノ他必要ト認ムル事項

第九條　借地ノ繼續ヲ出願セムトスル者ハ借地期間滿了ノ日ヨリ六十日前ニ第二號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

第十條　第七條及前條ノ出願ニ對シ條件ヲ附シテ許可ノ指令ヲ爲シタ

ルトキハ指定ノ期限迄ニ第三號書式ノ請書ヲ差出スヘシ

第十一條　借地出願ニ對シ條件ヲ附シテ許可シタルトキハ之ニ對スル請書ヲ受理シタル時ニ契約成立シタルモノト看做ス但シ使用貸借ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　競爭ニ關スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

契約保證金ハ初年ノ貸付料ヲ納入シタルトキ之ヲ還付スルコトアルヘシ

契約書ハ第四號書式ノ例ニ依ル

第三章　土地ノ引渡

第十三條　貸付地ノ引渡ハ貸借期間ノ初日ヨリ起算シ三十日以内ニ於テ之ヲ爲ス

第十四條　貸付地ノ引渡ハ實地ニ就キ借地人ト立會ヒ之ヲ爲ス但シ繼續貸付ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

借地人ニ於テ指定ノ期日ニ立會ハサルトキハ其ノ期日ニ於テ引渡ヲ了シタルモノト看做ス

貸付地ノ區域明瞭ナル場合ニ於テ第一項ノ手續ヲ爲ササルトキハ貸付期間ノ初日ニ於テ引渡ヲ了シタルモノト看做ス

第十五條　貸付料ヲ前納セシムヘキ場合ニハ其ノ料金ノ納入アリタル後ニ非サレハ貸付地ノ引渡ヲ爲サス又借地人ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四章　借地人ノ義務

第十六條　數人共同シテ借地ヲ出願シタル場合ニ於テ借地人カ各自ノ借地面積其ノ他必要ノ條件ヲ區分セサルトキハ各借地人ハ借地ニ關スル債務ニ付連帶シテ其ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ借地人ノ死亡其ノ他ノ原因ニ由リ數人カ其ノ借地權ヲ承繼シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　借地人ハ借地ノ引渡ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ周圍ノ主要點ニ標杭ヲ設置スヘシ但シ借地ノ區域明瞭ナルトキ又ハ實地ノ狀況ニ依リ設置シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ外借地人ハ借地ノ反別及氏名ヲ記シタル木標ヲ借地内ニ建設スヘシ但シ鐵道、通路、水路、堤塘、電柱及建物ノ敷地トシテ使用スル場合竝實地ノ狀況ニ依リ建設シ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　前條ノ標杭ハ徑一寸以上ノモノヲ地上ニ一尺以上表出セシメ木標ハ方三寸以上ノモノヲ地上ニ三尺以上表出セシムヘシ

前項ノ標識ニシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ之ヲ改設スヘシ

第十九條　前二條ノ規定ハ一時貸付ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二十條　借地區域内ニ在ル立木其ノ他ノ地上物件ニ付特約ヲ爲ササリシトキハ借地人之カ保管ノ責ニ任ス

借地人ハ前項地上物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ速ニ第五號書式ノ保管證ヲ差出スヘシ

第二十一條　借地人ハ土地又ハ前條ノ地上物件ニ被害アリ又ハ被害ノ虞アルコトヲ知リタルトキハ速ニ其ノ原因、數量及狀況等ヲ届出ツヘシ

第二十二條　借地人ハ其ノ保管ニ屬スル地上物件ヲ他人ニ讓渡シタル旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ讓受人カ其ノ物件ノ處理ニ必要ナル土地ノ使用ヲ爲スヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　開墾ノ爲借地シタルトキハ借地人ハ其ノ每年ノ墾成反別

ヲ翌年一月末日迄ニ届出ツヘシ

全部ノ開墾ヲ終リタルトキハ一箇月内ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十四條　借地人ハ借地ノ檢査又ハ其ノ立會ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　借地ニシテ天災其ノ他不可抗力ニ因リ地盤ノ崩壞陷落其ノ他異狀ヲ生スルコトアルモ借地人ハ之カ修理ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十六條　借地ヲ其ノ目的外ニ使用シ又ハ之ヲ轉貸シ若ハ借地權ノ讓渡ヲ爲スハ契約上之ヲ禁止セサル場合ニ於テモ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　借地人ハ管理人又ハ保證人ノ選定ヲ求メラレタルトキハ指定期間内ニ之ヲ選ヒ其ノ承諾書又ハ保證書ヲ添ヘ認可ヲ受クヘシ

管理人又ハ保證人ノ改選ヲ求メラレタルトキ亦同シ

前項ノ承諾書及保證書ハ第六號書式ノ例ニ依ル

第二十八條　管理人ハ借地ニ關スル一切ノ事項ニ付借地人ノ代理權ヲ有スルモノト看做ス

第二十九條　保證人ハ借地契約ヨリ生スル義務ニ付借地人ト連帶シテ其ノ責ニ任ス保證後ノ更定料金ニ付亦同シ

第三十條　借地人ハ借地出願後其ノ住所氏名ヲ變更シ其ノ他戸籍上身分ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十一條　前條ノ規定ハ管理人及保證人ニ之ヲ準用ス

第三十二條　借地人ノ隱居、死亡其ノ他ノ原因ニ由リ借地權ヲ承繼シタル者ハ速ニ戸籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ届出ツヘシ

借地人隱居又ハ入夫婚姻ノ場合ニ於テ借地權ヲ留保シタルトキハ相續人又ハ配偶者ト連署届出ツヘシ

第五章　貸付料

第三十三條　貸付料ハ貸借契約成立ノ年ヨリ起算シ五箇年ヲ經過シタルトキハ之ヲ更定スルコトアルヘシ更定ノ年ヨリ起算シ五箇年ヲ經過シタルトキ亦同シ但シ特殊ノ事情ニ因リ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ貸付料ヲ更定セムトスルトキハ三十日前ニ之ヲ借地人ニ通知スヘシ

借地人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル後第四十一條ノ規定ニ依リ契約解除ノ請求ヲ爲ササルトキハ更定料金ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三十四條　第三十六條第一項ノ規定ニ依リ貸付地ノ一部ヲ返還セシムル場合ニ於テハ其ノ殘地ニ對スル貸付料ヲ更定シ同時ニ之ヲ借地人ニ通知スヘシ

借地人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル後殘地ノ返還ヲ爲ササルトキハ前項ノ更定料金ヲ承諾シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ第二十五條ノ場合ニ於テ貸付料更定ノ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　貸付料ハ左ノ區別ニ從ヒ指定ノ時期ニ之ヲ納入スヘシ但シ特殊ノ事情ニ因リ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　一時貸付ノ場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ納入シ年期貸付ノ場合ニ於テハ其ノ年分ヲ納入スヘシ

二　貸付期間ヲ年又ハ月ヲ以テ定メタル場合ニハ月割、日ヲ以テ定メタル場合ニハ日割ヲ以テ計算ス但シ土地ノ引渡ヲ爲シタルト

キハ引渡ノ月又ハ日、土地ノ引渡ヲ爲ササルトキハ契約成立ノ月又ハ日ハ之ヲ算入セス

次條ノ規定ニ依リ返地ノ場合ニハ特ニ返地セシ月又ハ日ノ貸付料ハ之ヲ免除ス

第六章　契約ノ解除及期間ノ滿了

第三十六條　左ニ揭ケタル場合ニ於テハ相當ト認ムル期間ヲ指定シ貸付地ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

一　皇室ノ用途又ハ事業ノ爲必要アルトキ

二　公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

三　通路、水路、溜池又ハ借地人共同便益事業ノ爲必要アルトキ

前項ノ規定ニ依リ一部返還ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ借地ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキ又ハ貸付料ノ更定ニ對シ異議アルトキハ借地人ハ同時ニ其ノ殘地ノ返還ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　前條第一項第一號ノ規定ニ依リ返地セシムル場合ニ於テ之カ爲直接ニ生スル損害アルトキハ相當ト認ムル補償額ヲ支給スヘシ

第三十八條　左ニ揭ケタル場合ニハ別段ノ催告ヲ爲サスシテ相當ト認ムル期間ヲ指定シ契約ヲ解除シ返地セシムルコトアルヘシ

一　貸付料ノ納入ヲ怠リタルトキ

二　貸借契約ノ成立後又ハ借地ノ目的變更ノ許可ヲ得タル後滿一箇年間借地ノ目的ニ從ヒ使用セサルトキ

三　許可ヲ得ス又ハ契約上禁止シタル場合ニ於テ借地ヲ目的外ニ使用シ又ハ之ヲ轉貸シ若ハ借地權ヲ讓渡シタルトキ

四　成功期限ヲ定メタル場合ニ於テ豫定ノ計劃又ハ功程ニ從ヒ實行セサルトキ

五　管理人又ハ保證人ノ選定ヲ怠リタルトキ

六　借地區域外ヲ使用シタルトキ

第三十九條　借地人カ引續キ二箇年ノ貸付料ヲ納入セサリシトキハ契約ヲ解除シタルモノト看做スコトアルヘシ

第四十條　第二十五條ノ場合ニ於テ借地ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキ又ハ貸付料ノ更定ニ對シ異議アルトキハ借地人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　借地人ハ第三十三條ノ更定料金ニ對シ異議アルトキハ其ノ更定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ於テ十箇月ヲ限度トシ相當ノ期限ヲ定メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第四十二條　契約ノ解除ハ連帶債務者ノ一人ニ對シ之ヲ通知シタルトキハ他ノ債務者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十三條　借地ニ關スル契約ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第四十四條　契約解除ノ場合ニ於テ還付スヘキ貸付料ニハ利息ハ之ヲ附セス

第四十五條　借地人返地ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ土地ヲ原狀ニ回復セシムルコトアルヘシ

第四十六條　植樹ノ爲貸付シタル區域内ニ借地前ヨリ存在シ又ハ借地期間内ニ生シタル根株ハ之ヲ掘取ルコトヲ得ス但シ別段ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　借地人借地期間内ニ返地ヲ爲サムトスルトキハ六箇月前ニ出願シ許可ヲ受クヘシ但シ別段ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ヲ除クノ外借地人返地ノ場合ニハ三十日前ニ第七號書式ノ届書ヲ差出スヘシ

第四十八條　返地ノ期限ヲ經過スルモ借地人ニ於テ前條ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ期限ニ於テ返地ヲ爲シタルモノト看做スコトアルヘシ

前項ノ規定ハ土地ヲ原狀ニ回復セサリシ爲生シタル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四十九條　返地ニ際シ取拂ハサル地上物件在ルトキハ借地人ニ於テ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ適宜之ヲ處分スルコトアルヘシ

第五十條　借地人ハ土地ノ爲ニ要シタル費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得ス但シ別段ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第五十一條　本規程ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條　土地ノ引渡ヲ爲サスシテ一箇月ヲ踰エサル期間現狀ノ儘使用ヲ許ス場合ニハ本規程ニ依ルノ限ニ在ラス

[第一號書式ノ一]

借地願（有料借地願書ノ例）

何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地（面積何程ノ内）

一實測（見込）面積何程　但何々（使用ノ目的ヲ記載スルコト）

借地期間自年月（日）至年月（日）　年月（日）間

一箇年　一箇月　一日　料金何程　但一段歩一坪ニ付金何程

右ノ通貸付相成度御許可ノ上ハ御料地貸付規程堅ク遵守可仕別紙何々（「事業方法書戸籍抄本」等ト添付スヘキ書類ヲ記載スルコト）相添此段相願候也

年　月　日

何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地　氏　名印

（町村ヨリ出願スルトキノ例）

何縣何郡何町（村）長　氏　名印

（町村内ノ區ヨリ出願スルトキノ例）

何縣何郡何町（村）大字何代表者

何町（村）長　氏　名印

（社寺ヨリ出願スルトキノ例）

何縣何郡（市）何町（村）

官（國）幣社何神社

宮　司　氏　名印

（官國幣社ヨリノ出願ニハ宮司ノミ署名ヲ爲スコト）

何縣何郡（市）何町（村）大字何

何神社神職（何寺住職）

住所　氏　名印

同社氏子總代（氏子ナキトキ）
同寺檀家總代（檀家ナキトキ）　氏　名印
住　所

（氏子總代又ハ信徒總代ハ三名以上ノ連署ヲ要ス但シ一時貸付ノ場合ハ氏子總代檀家總代ノ連署ヲ要セス）

（共同ノ出願ニシテ各自連署スルトキノ例）
何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地
氏　名印
何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地
氏　名印

（共同ノ出願ニシテ總代ヲ以テスルトキノ例）
何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地
何某外何名代理
氏　名印

（總代ヲ以テスルトキハ各自ノ委任狀添付ノコト若シ總代ダルモノヲ願人ナルトキハ何某外何名代理傍本人ト肩書スルコト）

官職氏名殿

第一號書式ノ二

借地願（無料借地願書ノ例）

何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（面積何程ノ內）
一實測（見込）面積何程　但何々
借地期間自年月（日）至年月（日）　年月（日）間

右何々（借地ヲ要スル事由ヲ詳細記載スルコト）ニ付貸付相成度御許可ノ上ハ御料地貸付規程堅ク遵守可仕別紙何何（「事業方法書戸籍抄本」等ト添付スヘキ書類ヲ記載スルコト）相添此段相願候也

年　月　日
（署名ノ書式ハ第一號書式ノ一ノ例ニ依ル）
官職氏名殿

第二號書式

繼續借地願

何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（面積何程ノ內）
一實測面積何程　但何々
繼續借地期間自年月（日）至年月（日）　年月（日）間
一箇年　一段歩
一箇月ノ料金何程　但　一坪ニ付金何程
一日

右ノ通繼續貸付相成度御許可ノ上ハ前契約ニ係ル一切ノ事項ハ引續遵守可仕候（本規程ニ依リ借地シタルモノノ繼續借地ニ非サルトキハ「御料地貸付規程遵守可仕候」ト記載スルコト）此段相願候也

年　月　日
（署名ノ書式ハ第一號書式ノ一ノ例ニ依ル）
官職氏名殿

第三號書式

請　書

何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（面積何程ノ內）
一借地面積何程　但何々
右ニ關スル　年　月　日ノ出願ニ對シ年月日第　號ヲ以テ許可相成候ニ付テハ御料地貸付規程ハ勿論該指令書ニ御指示ノ左記條件ハ一切遵守可仕候此段御請仕候也

年　月　日
（署名ノ書式ハ第一號書式ノ一ノ例ニ依ル）
官職氏名殿

記

一　何……
二　何……

第四號書式

借地契約書

何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（面積何程ノ內）
一實測面積何程　但何々
借地期間自年月（日）至年月（日）　年月（日）間
一箇年ノ料金何程　但一段歩ニ付金何程

契約保證金何程
（但別紙仕譯書ノ通（何圓ハ現金何圓ハ）國債證券ヲ以テ之ニ充ツ）

右之通借地ノ義落札ニ付テハ御料地貸付規程（ハ勿論尚ホ左記ノ條項）遵守可致雙方署名捺印ノ上各自壹通ヲ領置候也

年　月　日
貸付人　官職氏名　印
何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地
借地人　氏名　印

記

（一　二　……）

第五號書式

參錢ノ収入印紙

保管證

何縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（面積何程ノ內）
借地面積何程ノ地上所在
一何々（何程）
右借地ト同時ニ御引渡相成候ニ付テハ地所借用中保管可仕候也

年　月　日
（署名ノ書式ハ第一號書式ノ一ノ例ニ依ル）
官職氏名殿

第六號書式ノ一

参錢ノ収入印紙

承諾書

御料地貸付規程ニ依リ何某ノ拝借ニ係ル左記ノ土地管理人タルコトヲ承諾仕候也

年　月　日

何縣何郡(市)何町(村)大字何字何何番地

氏　名印

官職氏名殿

記

何縣何郡(市)何町(村)大字何字何何番御料地(面積何程ノ内)

一實測(見込)面積何程

第六號書式ノ二

参錢ノ収入印紙

保證書

御料地貸付規程ニ依リ何某ノ拝借ニ係ル左記ノ土地ニ關スル債務履行ノ爲保證人タルコトヲ承諾仕候也

年　月　日

何縣何郡(市)何町(村)大字何字何何番地

氏　名印

官職氏名殿

記

何縣何郡(市)何町(村)大字何字何何番御料地(面積何程ノ内)

一實測(見込)面積何程

第七號書式

返地屆

何縣何郡(市)何町(村)大字何字何何番御料地(面積何程ノ内)

一借地面積何程

右　月　日借地滿期(其ノ他各場合ニ於ケル返地事由ヲ記載スルコト)ニ付　日限返地可仕候此段及御屆候也

年　月　日

(署名ノ書式ハ第一號書式ノ一ノ例ニ依ル)

官職氏名殿

○御料地新規貸付ニ關スル件

大正十五年八月十一日監第七五四ノ二號次長ヨリ各支局長ヘ依命通牒

不要存見込林野ノ新規貸付見合ノ義ニ付テハ客年十月九日祕第一七六ノ二五號ヲ以テ依命通牒ニ及ヒ候處今般一般御料地ノ新規貸付方ニ關シ別紙寫ノ通宮内次官ヨリ通牒有之候條右ニ依リ御處理相成度

(別紙)

大正十五年七月二十二日宮内大臣官房文書課第四四〇號宮内次官ヨリ長官代理ヘ依命通牒

御料地ハ之ヲ公用、公共用又ハ直接公益ノ用ニ供スル場合若ハ帝室ノ林業經營ノ爲必要ヲ生シタル場合ヲ除クノ外當分ノ間新規貸付ヲ爲ササルコトニ取計相成度

追テ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ本文ニ依ルコト能ハサルトキハ特ニ經伺相成度

(參照)　不要存見込林野ノ新規貸付ニ關スル件(大正十四年十月九日祕第一七六ノ二五號次長ヨリ各支局長ヘ依命通牒)

存廢區分調査濟ノ不要存見込林野ニ於ケル新規ノ年期貸付ハ公用公益ニ關スルモノヲ除クノ外成ルヘク見合セノ方針ヲ以テ處理相成度尤モ止ムヲ得サル事由ノ爲メ貸付ヲ要スル場合ニハ貴官ノ權限ニ屬スルモノト雖一應協議越相成度

○同上ノ件

昭和二年二月廿二日15監第七五四ノ四號次長ヨリ各支局長ヘ依命通牒

御料地新規貸付見合ノ義ニ付テハ客年八月十一日付監第七五四ノ二號ヲ以テ依命通牒ニ及ヒ候處今般直接公益ノ用ニ供スルモノト認メラレサルモノニ準スル用途ニ供スルモノ例ヘハ鑛業用地、電柱、電纜、隧道、堰堤、登山者避難小屋掛等ノ敷地並ニ個人專用ノ通路、用惡水路敷又ハ特種ノ地方ニ於テ特定ノ地域ニ限ラルル山葵栽培用地、捕鳥場敷ノ如キ地方民ノ副業上必要ナル御料地ノ新規貸付及小面積ノ臨時貸付ニ就テハ從前通處理ノコトニ相成候條爾今右ノ主旨ニ依リ貴局ノ權限内ニ屬スルモノニ付テハ貴局限リ貸付方被取計度尤モ充分愼重ニ取扱ヒ權限内ノ事項ト雖重要又ハ異例ニ屬スルモノハ經伺相成度

●公有水面使用ノ手續ニ關スル件

大正元年十一月二十七日
第二一六二號主事通牒

公有水面使用手續ニ關シ左記寫ノ通内務次官ヨリ申越有之候

第八類　土地貸付

(寫)

内務省土第七八八號

公有水面埋立ノ場合ニ於テ其ノ埋立地ト公有水面トノ限界ハ護岸石垣等ノ尖端ヲ以テ限界トシ埋立區域外護岸石垣等ノ敷地ニ要スル水面ハ別テ使用ノ手續ヲ要スル事ニ取扱來居候處右使用ノ手續ハ今後之ヲ省略スル事ニ決定致候條右樣御了知相成度

●内務省所管ノ土地水面使用等ニ關スル件

大正二年一月二十四日
第二二八ノ二號長官達

内務省所管ニ係ル土地ノ需要及水面ノ埋立若ハ使用ニ付テハ先以テ地方廳ニ照會差支ノ有無ヲ調査シ其取調書寫ヲ添ヘ當省大臣ヨリ内務大臣ニ請求シ來リ候處今般別紙寫ノ通内務大臣ヨリ通牒有之候ニ付其旨相心得ヘシ

(別紙)

各廳所用ノ爲メ土地水面需要ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付テハ明治三十年三月庶甲第四一號ヲ以テ及通牒置候處當省所管ノ土地水面ヲ所管轉換ヲ爲サシテ使用シ又ハ埋立テ若クハ埋立成功シタル土地ノ所管轉換ヲ爲ス場合ニ於テハ自今當省ヘ照會ニ及ハス直接地方長官ヘ協議セシメラレ度此段及通牒候也

追テ從來當省ヘ御送付相成候必要書類及圖面ハ地方長官ヘノ協議書類ニ添付相成度候

●水力電氣事業經營ノ爲御料地内水流使用願處理方ニ關スル件

大正二年五月三日第二一〇五ノ三號主事通牒

水力電氣事業經營ノ爲御料地内水流使用願處理方ノ儀ニ關シ今般別紙甲、乙號ノ通遞信省電氣局長ト協定相成候條右ニ御承知自今左記ニ據リ御取扱相成候樣致度

記

一　地方廳ヨリ協議アリタルトキハ事實及意見等ヲ詳具シ經伺ノ事

二　企業者ヨリノ水流及土地ノ使用竝障害木竹ノ取除等ニ關スル出願ニハ地方廳ノ許可書寫ヲ添付セシメ之ヲ具備セサル願書ハ受理セサル事

三　前項ノ出願アリタルトキハ制規ニ依リ處理ノ事

（別紙）

（甲號大正二年四月十九日第二一〇五號遞信省電氣局長ヘ照會）

水力電氣事業經營ニシテ御料地ニ關係アルモノハ企業者ニ於テ先ツ當局ヘ出願シ水流及土地ノ使用其他ノ許可ヲ受ケタル上更ニ地方廳ヘ出願スルモノト先ツ地方廳ノ許可ヲ得タル後當局ヘ出願スルモノト有之區々ニ相成居候處水力電氣事業ノ許否ハ貴省ノ御主管ニ付自今ハ先ツ地方廳ヘ出願ノコトニ一定シ當局ニ於テハ地方廳ノ許可書ヲ添付セサル出願ハ總テ受理セサルコトニ致度候尤モ御料地内ノ水流ハ當局事業經營上ニモ重大ノ關係有之且電氣事業ニ關スル御料地ノ使用障害木竹ノ取除キ等ニ關シ御許可後當局ニ出願ヲ要スルモノモ有之候間當該地方廳ニ於テハ許可前豫メ當局支局ヘ協議ヲ遂ケ後日行違無之樣致度候ニ付其筋ヘ可然御訓示方等御取計相成度

（乙號大正二年四月二十八日電發甲二第二〇四三號遞信省電氣局長回答）

四月二十一日附第二一〇五號ヲ以テ照會相成候件ハ御照會ノ趣旨ニ依リ處理スヘキ旨各地方廳ヘ通牒致置候ニ付右ニ了知相成度

○河川ノ流域ニ屬スル御料地開墾ノ場合ニ於ケル處理方ノ件

大正元年十二月二十日第二四三七ノ二號長官達

内務省直轄又ハ流域二府縣以上ニ跨ル河川ノ流域ニ屬スル御料地開墾ノ場合ニ於ケル處理方ニ關シ別紙ノ通内務大臣ヨリ照會有之本省大臣ヨリ了承ノ旨回答相成候條此旨相心得ヘシ

（別紙）

大正元年十二月十二日内務省土第一三二三號内務大臣ヨリ宮内大臣ヘ照會

當省直轄又ハ流域二府縣以上ニ跨ル河川ノ流域ニ屬スル御料地開墾ノ場合ニ於テハ管轄地方廳ノ意見ヲ聞キ御處理相成度

●灌漑用溜池並ニ水路敷貸下ノ件

昭和二年五月六日監第三九三ノ二號次長ヨリ各支局長ヘ依命通牒

從來灌漑用溜池並ニ水路敷トシテ御料地貸下ニ付テハ無料ヲ以テ許可シ來レル次第ニ有之候處之カ施設ハ御料地利用上ニ影響ヲ及ホスコト勘カラサルニ付其ノ用地ヲ可成制限スヘキハ固ヨリ特別ナル事情ノ存スルモノノ外有料貸下ヲ至當ト存候條爾今如斯ハ凡テ右ノ趣旨ニ依リ處理相成度

●椎茸栽培敷貸付方ニ關スル件（要旨）

昭和七年三月十一日東監第一五七ノ二號東京支局長伺三月三十日監第二六九ノ二號指令及監理課長ヨリ各支局長ヘ通牒

椎茸栽培敷ハ其用途ノ性質上七ケ年内外ノ期間ハ一定ノ場所ヲ占用スルコトヲ必要トスルモ山間ノ小雜木アル小面積ノ貸地（有料ニシテ繼續ハ許サス）ニシテ若シ椎茸ノ栽培ヲ許可スルニ於テハ公賣價額ヲ昂上セシムル等ノ事奬上ノ實益勘カラス林業附帶ノ性質ヲ多分ニ有スルモノニ付立木賣拂地域内ニシテ椎茸栽培用地ニ關スル限リ所謂「用途ノ性質一時的ナルモノ」ニ準シ處務規程第三條第五號ヲ適用シ（拂下ニ係ル椎茸榾木一代限リトシ）支局限處理ノコト

●不要存御料地ノ貸付及産物賣拂ニ關スル件

大正八年七月二日第一七七八號主事依命通牒

大正七年皇室令第十六號不要存御料地處分令ニ據ル賣拂地トシテ公告セル箇所ノ貸付又ハ産物賣拂等ニ關シテハ左ノ通御取扱相成度候

一　新規貸付又ハ産物賣拂ヲ停止スルコト

二　從來年期貸付又ハ年期賣拂中ニ係ルモノニシテ滿期ノ際繼續出願ノモノニ對シテハ年々一時ノ貸拂下ヲ爲シ年期ニ渉ル處分ヲ爲ササルコト

三　公共事業ノ爲メ土地ノ貸付ヲ要スル場合ハ事實ヲ詳具シ其ノ都度經伺ノコト

四　障害、危險、被害等ノ立木竹ニシテ差措キ難キモノ及ヒ雜種物ノ一時賣拂等ハ土地ノ賣拂處分上ニ支障ヲ及ホササル樣處理スルコト

●御料地内ノ鑛物試掘採掘出願ニ關スル件

大正元年十二月二十七日元第二一三ノ三號長官ヨリ鑛山局長ヘ協議

御料地内ノ鑛物試掘採掘出願ニ付テハ鑛山監督署長ヨリ其時々協議ノコトニ相成居候處既往ニ於テ一旦協議濟ミノ分ハ幾年後ト雖モ更ニ出

願アル場合ハ別ニ協議ヲ經ス前協議ノ趣旨ニ依リ御處分相成候趣右ハ時ノ變遷ニ從ヒ附帶セシムヘキ條件等自ラ變更ヲ要スヘキ場合有之ニ付一旦中絶更ニ出願アル場合ハ例令既往ニ於テ協議濟ミノ地域ニ係ルモノト雖モ其時々御協議相成候樣致度

（回答大正二年一月十四日元第二一三一ノ四號）右ハ御意見ノ通取計フ可ク候ニ付左樣御了知相成度

（備考）大正二年一月二十九日元第二一三二號ヲ以テ本文ノ旨主事ヨリ各支廳ヘ通牒

●御料地內砂鐵無料採取ノ件（要旨）

明治二十八年五月十四日蒐第一二一三號
青森縣知事ヨリ局長ヘ照會
同年六月十一日第一九五三ノ二號回答

砂鑛採取法第四條二項（四十二年法律第一三號砂鑛法第九條二項）ノ但書ニ依レハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得トアリテ必ス徵收セサル可カラサル義ニ無之尤モ鐵鑛採掘ハ鑛業稅ヲ課セス砂鐵採取ハ手數料ヲ免セラルヽ等他ノ鑛物ト區別シ特別保護ヲ與ラレ候義ニモ有之旁砂鐵採取ニ限リ特ニ無料採取許可可致尤モ砂鑛採取法第十三條（四十二年法律第一三號砂鑛法一十條）ニ依リ土地貸渡ヲ要スル場合ハ相當ノ料金徵收ノ事

第九類　事業ノ設計、豫定及實行

第九類　事業ノ設計、豫定及實行

一　諸事業ノ設計、豫定、實行

○御料林施業規程

明治四十三年五月十八日訓令第十六號

（改正）大正二年訓令第三十八號、十年同第七號、十三年同第八號

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ御料林ト稱スルハ帝室林野局長官ニ於テ主トシテ林業ヲ經營スヘキモノト認定シタル御料地ヲ謂フ

第二條　御料林ノ施業ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ行フヘシ

第三條　御料林ノ經營ハ生產保續ヲ旨トシ勗メテ收益ノ增殖ヲ圖ルヲ目的トスヘシ

第四條　御料林ハ事業上之ヲ分テ林業地及林業外地ノ二種トス

長官ハ事業ノ緩急ヲ圖リ林業地ニ對シ施業案ヲ編成シ植伐事業ノ順序方法ヲ定ムヘシ

第五條　長官ハ十箇年毎ニ施業案ヲ檢訂スヘシ但シ豫期外ノ原因ニ由リ施業案ヲ修正スルノ必要ヲ生シタル場合ニハ臨時檢訂ヲ行フコトヲ得

第六條　長官ハ施業案ノ編成又ハ其ノ檢訂ヲ了リタルトキハ必要ノ書類ヲ添附シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　御料林ノ經營上必要ト認ムル土木工事ハ事業上ノ得失及緩急ヲ圖リ其ノ最モ急要ナルモノヨリ漸次着手ノ計劃ヲ爲スヘシ

第八條　長官ハ施業案ノ施行上搬路又ハ軌道ノ開設ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ箇所、延長、幅員、工費見込額ヲ記載シタル工事概定表ヲ作リ宮內大臣ニ報告スヘシ

前項ノ土木工事ハ長官其ノ緩急ヲ圖リ之カ豫測ヲ行ヒ土木豫定案ヲ編成シ宮內大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　支廳長ハ每年事業豫定簿ヲ編成シ長官ノ認可ヲ經テ植伐其ノ他ノ事業ヲ執行スヘシ但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

施業案編成地ニ係ル事業豫定簿ハ施業案ニ準據シテ之ヲ編成スヘシ

第十條　施業案ニ依リ植伐事業ヲ執行シタルトキハ之カ照査ヲ行フヘシ

第十一條　支廳長ハ每年植伐其ノ他ノ事業ヲ實行シタルトキハ其ノ結果ヲ長官ニ報告スヘシ

第十二條　施業案ノ編成及檢訂並土木豫定案ノ編成ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條　事業豫定簿ノ編成及施業ノ照査並第十一條ノ報告ニ關スル手續ハ長官之ヲ定ムヘシ

第二章　作業

第十四條　御料林ハ一事業區ニ於テ各作業級ヲ通シ輪伐作業ヲ施スヘシ

施業案未編成ノ御料林ハ一出張所部內ヲ通シ作業法ノ異ナル每ニ輪伐期ヲ定メテ輪伐作業ヲ施スヘシ

第十五條　御料林ニ於テ施行スヘキ作業法ハ左ノ各種トス但シ中林ハ喬木ヲ主トスルトキハ喬林作業ニ矮木ヲ主トスルトキハ矮林作業ニ準シテ施業スヘシ

一　喬林作業

甲　完伐作業

イ　皆伐作業

ロ　漸伐作業（區域擇伐作業）

乙　擇伐作業

二　矮林作業

第十六條　喬林ハ主トシテ皆伐作業ヲ施スヘシ但シ現在ノ樹種及土地ノ關係ニシテ天然更新ヲ行フニ適スルトキハ漸伐作業ヲ施スコトヲ得

第十七條　保安林ハ擇伐作業ヲ施スヘシ但シ施業上必要ナル場合ニ於テハ漸伐作業ヲ施スコトヲ得

第十八條　高山ノ頂巔、暴風ノ衝路ニ在ル峯筋、絕嶮地又ハ土石崩落ノ虞アル箇所其ノ他國土保安上必要ナル箇所ハ保安林ニ準シテ作業スヘシ

第十九條　御造營材備林ハ御造營用材ニ充ツヘキ巨樹良木ヲ保護シ且其ノ成育ヲ促進スル目的ヲ以テ作業スヘシ

第三章　輪伐期及循環期

第二十條　用材林ハ其ノ收益最多ナル時期ヲ以テ正當輪伐期ト爲スヘシ

第二十一條　薪炭林ハ其ノ材積收穫ノ最多ナル時期ヲ以テ正當輪伐期ト爲スヘシ

第二十二條　前二條ノ規定ニ依リ輪伐期ヲ計算スルニハ疎伐ノ收穫ヲ併算スヘシ

第二十三條　御造營材備林及特種ノ用材林ハ其ノ供用ノ目的ニ適スヘキ時期ヲ以テ正當輪伐期ト爲スヘシ

第二十四條　森林內ニ一定ノ豫備材量ヲ存置スル爲正當輪伐期ニ五年乃至二十年ヲ加算シテ施業上ノ輪伐期ト爲スヘシ

第二十五條　供用林ノ輪伐期ニシテ第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ算定シ難キトキハ左ノ標準ニ據リ施業上ノ輪伐期ヲ定ムヘシ

一　矮林及燃材ヲ目的トスル松林　十五年乃至四十年

二　松、落葉松類及濶葉樹喬林　五十年乃至百年

三　杉、檜、栂、唐檜類　六十年乃至百二十年

四　扁柏、金松類　八十年乃至百六十年

五　樟、櫟其ノ他ノ貴重樹種　百年以上

第二十六條　混淆林ニ於テ各樹種其ノ輪伐期ヲ異ニスルトキハ各樹種ノ混淆歩合ニ某ツキ之ヲ平均シテ其ノ混淆林ノ輪伐期ト爲スヘシ

第二十七條　擇伐作業ノ喬林ニ於テ各樹種施業上ノ取扱ヲ異ニスル必要アルトキハ各別ニ其ノ輪伐期ヲ定ムルコトヲ得

第二十八條　保安林ノ輪伐期ハ供用林ノ輪伐期ニ其ノ半數ヲ加算シテ之ヲ定ムヘシ

第二十九條　喬林ノ輪伐期ハ十ノ倍數トシ矮林ノ輪伐期ハ五ノ倍數ト爲スヘシ

第三十條　擇伐作業ニ於ケル循環期ハ其ノ輪伐期ノ整分ト爲スヘシ

第四章　研伐

第三十一條　施業案ニ於テ施業期ヲ指定シタル箇所ハ其ノ施業期外ノ年度ニ於テ主伐ヲ爲スコトヲ得但シ左ニ揭ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　公用又ハ公益事業ニ供スル爲已ムコトヲ得ス研伐ヲ要スルトキ

二　天災事變又ハ軍事上ニ關シ研伐ヲ要スルトキ

三　家屋並運輸、交通、通信及送電機關ノ障碍トナリ又ハ危險ノ虞アル爲研伐ヲ要スルトキ

四　土地ノ貸付又ハ讓渡ノ場合ニ於テ義務履行ニ障碍トナル爲研伐ヲ要スルトキ

五　測量、砂防工事耕地及苗圃ノ障碍トナル爲研伐ヲ要スルトキ

六　離伐、防火線ノ開設又ハ被害地整理ノ爲研伐ヲ要スルトキ

七　御料事業上直接ノ用途ニ供スル爲已ムコトヲ得ス研伐ヲ要スルトキ

八　調査又ハ檢證ノ爲研伐ヲ要スルトキ

九　林產物ノ處理ニ附帶シ研伐ヲ要スルトキ

十　入會又ハ特賣ノ慣行ニ依リ研伐ヲ制止スルコト能ハサルトキ

十一　交通不便ノ地方ニ在ル職員、雇員、傭人、請願巡査及傭役夫ニ自用ノ薪材トシテ採取セシムル必要アルトキ

十二　標本又ハ學術研究ノ材料トシテ採取セシムル必要アルトキ

第三十二條　喬林作業ノ年伐獵定額ハ施業照查ノ成績ニ依リ查定シタル年伐材積ヲ標準トシ尙ホ需要ノ多寡施業上ノ關係ヲ稽查シテ之ヲ定ムヘシ

第九類　事業ノ設計、豫定及實行　一　諸事業ノ設計、豫定、實行

第一施業期前半期ニ於テ研伐スヘキ總材積ハ施業照查ノ成績ニ依リ查定シタル研伐總材積ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十三條　矮林ノ年伐豫定額ハ施業案ニ指定シタル第一施業期前後各半期間ノ研伐面積ヲ標準トシ各年度ニ於テ平分研伐スルヲ旨トシテ之ヲ定ムヘシ

第一施業期前後各半期ニ於テ研伐スヘキ總面積ハ施業案指定ノ研伐面積ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十四條　施業案未編成地又ハ林業外地ノ立木地ニ於ケル研伐ハ施業案編成ニ關スル規定ヲ準用シ勉メテ過伐ノ虞ナキヲ期シ現在ノ林況ニ應シ施業上ノ便否及需要ノ多寡等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第三十五條　間伐（疎伐及掃除伐）ハ施業案指定外ノモノト雖施業上必要ナリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ施行スルコトヲ得

第三十六條　研伐ノ事業ハ林產物販賣ノ關係及施業上便益ナリト認ムル場合ニ於テハ成ルヘク直營事業ニ依リ之ヲ施行スヘシ間伐ノ事業ハ勉メテ直營事業ニ依リ之ヲ施行スヘシ

第五章　造林

第三十七條　造林ハ主トシテ人工更新ノ方法ヲ用ウヘシ但シ擇伐作業、漸伐作業又ハ矮林作業ヲ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　漸伐作業ヲ行フ森林ノ更新期ハ二十年以內ト爲スヘシ

第三十九條　伐採跡地ハ三箇年以內ニ造林スヘシ

第四十條　林業地內ノ未立木地ハ二十箇年以內ニ造林スヘシ但シ一出張所部內ニ於ケル未立木地ノ一箇年ノ平均面積ニシテ百町歩ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條　未立木地又ハ伐採跡地ニ植栽又ハ播種スヘキ樹種ハ概ネ左記ノ種類中最モ其ノ地方ノ氣候及地質ニ適シタルモノニシテ且將來需要多ク收益最多カルヘキモノヲ選擇スヘシ

一　針葉樹種

ヒノキ、スギ、サハラ、ヒバ、マツ、カラマツ、モミ、ツガ、シラベ、トウヒ、カウヤマキ、ネズコ、

一　濶葉樹種

クス、ケヤキ、クルミ、カシ、シホジ、ハリギリ、クリ、サハクルミ、ドロ、サクラ、ホホノキ、ナラ、クヌギ、カシハ、

第四十二條　國土保安、風致保存、砂防、防火、境界目標又ハ地力保護等ノ爲植栽スヘキ場合ニ於テハ前條ノ樹種ニ拘ラス所要ノ目的ニ適スヘキ樹種ヲ選擇スヘシ

第四十三條　造林樹種ハ二種以上ヲ混淆セシムヘシ但シ矮林又ハ特ニ施業上必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　造林地ニ生立スル針葉樹及樟欅其ノ他有用ナル濶葉樹ノ稚樹ハ成ルヘク之ヲ保育スヘシ

第四十五條　針葉樹ノ植栽ヲ行フニハ成ルヘク小苗木ヲ用ヰ且植栽本數ヲ多クスヘシ

第四十六條　造林地ニシテ新植木ノ枯損多數ナルカ又ハ稚樹ノ發生不良ナルカ爲空地ヲ生シタルトキハ適當ノ時期ニ於テ補植ヲ行フヘシ

第四十七條　各出張所ハ毎年植栽スヘキ苗數ニ應シ適當ノ苗圃ヲ設ケテ苗木ヲ養成スヘシ

播種苗圃ハ成ルヘク出張所又ハ分擔區員駐在所附近ノ地ニ、移植苗圃ハ成ルヘク植栽スヘキ山地附近ノ地ニ之ヲ設クヘシ

第四十八條　造林地ハ新植木又ハ稚樹ヲ保育スル爲其ノ梢頭雜草ヲ超出スルノ時期ニ至ルマテ毎年又ハ隔年ニ下刈ヲ行ヒ又必要アルトキハ掃除伐、枝打、蔓切等ノ手入ヲ施スヘシ

第四十九條　立木密ニ過キテ相互其ノ成長ヲ障碍シ又ハ風害、雪害等ノ虞アルトキハ適當ノ疎伐ヲ施スヘシ

疎伐ハ林齡十五年以上ノ森林ニ於テ施行シ成ルヘク其ノ回數ヲ多クシテ一回ノ伐採數量ヲ少クスヘシ

第五十條　野火延燒ノ虞アル森林ハ適宜防火線ヲ設置スヘシ

防火線ニハ成ルヘク防火ノ効アル常綠濶葉樹ヲ植栽スヘシ

第五十一條　造林ノ事業ハ苗圃ノ開墾、造林地ノ地拵其ノ他土工ニ關スルモノヲ除クノ外成ルヘク直營事業ニ依リ之ヲ施行スヘシ

第五十二條　施業案　成地ノ造林ハ施業案ノ指定スル樹種及順序方法ニ準據スヘシト雖施業上必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ變更スルコトヲ得

第六章　土地ノ利用

第五十三條　林業地ハ左ニ揭ケタル場合ニ非サレハ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

一　公用又ハ公益ノ用途ニ供スルトキ
二　法令ニ基ツク用途ニ供スルトキ
三　御料地經營上重大ナル利益アルトキ
四　林業附帶ノ用途ニ供スルトキ
五　慣行ニ依リ貸付ヲ要スルトキ
六　未立木地ニシテ植樹前之ヲ利用スルモ妨ナキトキ

第五十四條　林業外地ハ之ヲ左ノ各種ニ細別シ各利用ノ方法ヲ講スヘシ

一　林業附帶地（苗圃、官舍、區劃線、固定防火線及林道等ノ敷地）
二　施業制限地
イ　禁伐林及砂防設備地
ロ　適當ノ林業ヲ施行シ得サル入會地
ハ　部分林
三　貸下地
四　雜種地（不生產地及池沼河川等）

第五十五條　御料林中耕地其ノ他開墾ニ適スヘキ土地ハ其ノ得失ニ鑑ミ林業經營上支障ナキ限リ之ヲ林業外地ト爲スヘシ

林業地內ニ點在スル小面積ノ貸下地ニシテ林業經營上支障ノ箇所アルトキハ適當ノ時期ニ於テ之ヲ林業地ニ回復スヘシ

第五十六條　植樹用ノ貸下又ハ部分林ノ設定ハ林業外地中荒廢ノ虞アル箇所又ハ其ノ利用集約ナラスト認ムル箇所ニ非サレハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第七章　雜種物ノ採收

第五十七條　雜種物ノ採收ハ土地ノ荒廢又ハ樹木ノ成育ニ障碍ヲ來ササル限度ニ於テ之ヲ行フヘシ

土石ノ採掘ハ成ルヘク之ヲ制限スヘシ

第五十八條　柴草採收ノ慣行アル土地ニシテ其ノ採收區域廣濶ニ過クルモノアルトキハ成ルヘク之ヲ縮少セシムヘシ

第九類　事業ノ設計、豫定及實行

一　諸事業ノ設計、豫定、實行

●保安林ノ施業ニ關スル件

大正十四年六月十八日業第二三三ノ三號次長依命通牒

（大正十四年三月二十九日業第二三三號長官ヨリ農商務省山林局長ヘ照會）

（別紙甲號）

（大正十四年四月四日林第一六八號農林省山林局長回答）

（別紙乙號）

從來ノ保安林ニ於テ斫伐其ノ他ノ施業ヲ行フ場合ニハ森林法第二十六條ニ據リ其ノ都度地方長官ノ許可ヲ求メ來リ候處其ノ取扱ヲ簡約ニセンカ爲メ別記甲號ノ通リ其ノ筋ヘ照會候處乙號ノ通リ回答有之候間爾後許可ヲ受クヘキ施業事項ハ各年次ニ其ノ位置區域數量等ヲ豫定シ數ケ年分ヲ一括シテ之カ手續ヲ履行セラルル樣致度

御料林ニシテ保安林タルモノニ付テハ其ノ施業ニ當リ森林法第二十六條ニ依リ其ノ都度地方長官ノ許可ヲ受ケ實行致來候處當局ニ於テハ明治四十三年宮內省訓令第十七號御料林施業案編成及檢訂手續ニ基キ御料林ニ對シ施業案ヲ編成シ且ツ十年毎ニ檢訂ノ上施業スルコトニ相成居リ同案ニ依ルトキハ毎十年間ノ施業ノ要領具體的ニ判明致候義ニ有之更ニ必要アル場合ハ毎年ノ施業上ノ要綱ヲ附加說明シ豫メ之レヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クルモノト爲スモ同條ニハ何等牴觸スル廉無之且ツ彼是照覆ノ手數モ省略シ得ヘク法運用ノ精神ニモ添ヒ得ルモノト有之義ト認メラレ候條右ニ取扱度希望ニ候依テ貴局ノ御意見承知致度

本年三月二十五日付業第二三三號ヲ以テ保安林施業ニ關シ御照會ノ趣了承森林法第二十六條ニ依リ許可ヲ受クヘキ事項ハ各年毎ニ之ヲ具體的ニ定メラルヽニ於テハ數ケ年分ヲ一括シテ其ノ手續ヲ履マルヽモ支障無之儀ト認メラレ候

○御料林施業案編成及檢訂手續

明治四十三年五月十八日訓令第十七號

第一編　施業案編成

第一章　總則

第一條　施業案ハ御料林施業規程ニ基ツキ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ編成スヘシ

第二條　施業案編成ノ業務ヲ分テ左ノ三トス

一　施業案編成ノ豫業

二　施業案ノ編成

三　施業案說明書ノ調製

第二章　施業案編成ノ豫業

第一節　總則

第三條　施業案編成豫業ヲ分テ左ノ六トス

一　森林區劃

二　森林測量

三　林値調査

四　森林ニ關スル一般事項ノ調査

五　森林圖ノ調製

六　原簿ノ調製

第二節　森林區劃

第四條　森林ヲ區劃シテ事業區、輪伐區、區劃班及林相班ヲ設クヘシ

第五條　事業區ハ森林配置ノ狀況、山谷形成ノ關係及施業上ノ便否ヲ稽査シ連年獨立シテ植伐ノ事業ヲ經營スルニ適當ナル區域ヲ選擇シテ之ヲ設定スヘシ

第六條　點在シタル小林地ハ大林地ニ合併シテ一事業區ト爲スヘシ但シ若干ノ小林地ヲ連合シテ獨立ノ經營ヲ爲スニ足ルモノハ之ヲ一事業區ト爲スコトヲ得

第七條　植伐ノ順序ヲ整理スル爲一事業區内ニ若干ノ輪伐區ヲ設クヘシ

第八條　一輪伐區ノ面積ハ成ルヘク一事業區面積ノ十分ノ一以上ト爲スヘシ

第九條　森林ノ地況、林況及運材ノ關係ヲ稽査シテ一輪伐區ヲ若干ノ區劃班ニ區分スヘシ

一區劃班ハ成ルヘク行政區域ヲ跨ラシメサルコトヲ要ス

第十條　一區劃班ノ面積ハ平地又ハ低丘地ノ森林ニ在リテハ二十町歩乃至五十町歩山地ノ森林ニ在リテハ二十町歩乃至百町歩ヲ以テ標準トスヘシ

點在シタル林地ハ二十町歩未滿ト雖之ヲ一區劃班ト爲シ林業外地ハ其ノ界線又ハ地形ニ依リ適宜區劃班ヲ設クルコトヲ得

第十一條　一事業區内ニ於ケル林業地ノ各區劃班ノ面積ハ成ルヘク均一ナラシムヘシ

第十二條　事業區、輪伐區及區劃班ハ山地ニ在リテハ主トシテ天然界又ハ通路ニ依リ平地ニ在リテハ主トシテ人工區劃線又ハ通路ニ依リ其ノ界線ヲ定ムヘシ

第十三條　人工區劃線ハ伐木、運材、造林及防火等ノ便宜ヲ圖リテ之ヲ設クヘシ

平地ノ區劃線中伐木ノ方向ニ竝行スルモノヲ主線ト稱シ之ニ交叉スルモノヲ副線ト稱ス

第十四條　平地ノ區劃班ハ成ルヘク直方形ト爲シ其ノ副線ニ接スル邊ハ主線ニ接スル邊ノ二倍又ハ一倍半ヲ以テ標準トスヘシ

第十五條　人工區劃線ノ幅ハ地形、樹種、作業法及輪伐期ニ從ヒ主線ハ二間乃至四間、副線ハ一間乃至二間ヲ度トシ適宜之ヲ定ムヘシ但シ防火線又ハ搬路ニ兼用スヘキ人工區劃線ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　一區劃班内ニ於テ林相ヲ異ニシ又ハ施業上取扱ヲ異ニスヘキ部分アルトキハ各之ヲ區分シテ林相班ヲ設クヘシ

一區劃班内ニ於ケル林相同一ナルモ行政區域ヲ異ニスルトキハ特ニ其ノ區域ニ依リ林相班ヲ設クヘシ

前二項ノ規定ニ依リ林相班ヲ設クルコトヲ要セサル區劃班ハ之ヲ林相班ト看做スヘシ

第十七條　林業地ノ林相班ハ左ノ標準ニ據リ之ヲ區分スヘシ但シ其ノ面積一區劃班ノ二十分ノ一ヲ超エサルトキハ之ヲ區分セサルコトヲ得

一　樹種ノ異ナルトキ

二　作業法ノ異ナルトキ

三　林齡ノ著シク異ナルトキ

四　地位又ハ林位ノ著シク異ナルトキ

第十八條　林業外地ハ各其ノ種別ニ依リ林相班ヲ分ツヘシ

第九類　事業ノ設計、豫定及實行　一　諸事業ノ設計、豫定、實行

第二章　施業案編成ノ豫業

第三節　森林測量

第二十五條　森林測量ハ境界測量ノ成蹟ニ基キ左ノ事項ヲ測定スヘシ

一　事業區界

二　輪伐區界

三　區劃班界

四　林相班界
五　地形
六　林業上ニ關係ヲ有スル森林内外ノ地物（鐵道、道路、河川、池沼其ノ他建設物等）

第二十六條　事業區界、輪伐區界及區劃班界ノ主要點ハ石標、木標又ハ立木ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第二十七條　區劃ノ界線ヲ表示スル石標又ハ木標ハ其ノ側面ニ區劃線ノ番號及四圍ノ區劃番號ヲ記入スヘシ

立木標ハ目通ノ表皮ヲ帶狀ニ剝キ白ペンキ又ハ白墨ヲ以テ其ノ下部一半ヲ塗抹シ其ノ上部ニ前項ノ各番號ヲ記入シ又ハ目通ニ其ノ番號ヲ記入シタル板ヲ釘附スヘシ

第二十八條　區劃線ノ標識ハ其ノ交叉點ノ東北側ニ設置スヘシ

未開設ノ區劃線ニ在リテハ豫定ノ幅ニ應シ前項ニ準シテ標識ヲ設置スヘシ

第二十九條　森林測量ニ關スル事項ニシテ本節ニ規定セサルモノニ付テハ長官之ヲ定ムヘシ

第四節　林値調査

第一款　總則

第三十條　林値調査ヲ分テ左ノ三トス

一　地況調査
二　林況調査
三　施業見込ノ調査

第二款　地況調査

第三十一條　地況調査ハ林相班毎ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　地勢
二　土性
三　地位

第三十二條　地勢ニ關シテハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　比隣ノ狀況
二　方位
三　傾斜

傾斜ハ左ノ五種ニ區別スヘシ

一　平坦　五度以下
一　緩斜　十五度以下
一　急斜　三十度以下
一　嶮岨　四十五度以下
一　絶嶮　四十六度以上

第三十三條　土性ニ關シテハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　土壤ノ種類

土壤ノ種類ハ粘土、砂礫及腐植土ノ分量ニ依リ埴土、壤土、砂土、礫土及壚土ノ五種ニ區別スヘシ

二　土壤ノ性質

土壤ノ性質ハ深度、結合度及濕度ノ三ニ大別シ尚ホ深度ハ深、中、淺ニ、結合度ハ堅、軟、鬆ニ、濕度ハ乾、適、濕ニ再別スヘシ

第三十四條　地位ハ左ノ五區ニ區別スヘシ

一上上、一上、一中、一下、一下下

第三款　林況調査

第三十五條　林況調査ハ林相班毎ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　樹種
二　作業法
三　密度
四　林齡
五　齡級
六　成立
七　材積
八　成長量
九　林位

第三十六條　一林相班内ニ於テ二樹種以上混生スルトキハ其ノ混淆ノ狀況及歩合ヲ調査シ材積、面積又ハ本數ノ割合ニ依リ十分率ヲ以テ其ノ混淆歩合ヲ表示スヘシ

一林相班内ニ主木外ノ樹種混淆スル場合ニ於テ其ノ混淆歩合二割ヲ超エサルトキハ之ヲ混淆ト看做ササルコトヲ得

第三十七條　林木ノ種類ハ之ヲ針葉樹ト濶葉樹トニ大別シ尚ホ針葉樹ハ概ネ左ノ區分ニ依リ之ヲ類別シ濶葉樹ハ樺、欅、櫟等ノ貴重樹種又ハ栗、楢等ノ樹種ニシテ用材ニ適スヘキモノハ便宜之ヲ類別シ其ノ他ハ雜トシテ調査スヘシ

一　扁柏、金松類
二　杉類
三　松、落葉松類
四　樅、栂、唐檜類

第三十八條　作業法ハ御料林施業規程第十五條ノ區別ニ依リ之ヲ調査スヘシ

第三十九條　密度ハ左ノ五種ニ區別シテ之ヲ調査シ且幼齡林ニ於テハ一町歩當リノ本數ヲ表示スヘシ

一密、一適、一微疎、一疎、一過疎

立木數ニシテ適度ノ二割以下ナルトキハ未立木地ト看做スコトヲ得

第四十條　各樹木ノ年齡ハ更新年度、分枝數又ハ斷株ノ年輪數ニ依リテ之ヲ調査スヘシ

第四十一條　一林相班内ノ樹齡異ナルモノハ其ノ材積、面積又ハ本數ノ割合ニ依リテ平均林齡ヲ計算スヘシ但シ其ノ樹齡ノ差少キトキハ標準木ノ樹齡ヲ平均シテ林齡ト爲スコトヲ得

第一施業期ノ前半期ニ間伐スヘキ樹木ハ平均林齡計算ノ際成ルヘク其ノ計算ヨリ之ヲ除外スヘシ

第四十二條　森林ノ齡級ハ喬林作業ニ於テハ二十年、矮林作業ニ於テハ十年毎ニ之ヲ分チ其ノ最幼級ヲ第一齡級ト爲シ順次羅馬數字ヲ以テ之ヲ示スヘシ

第四十三條　森林ノ成立ニ關シテハ記錄傳說又ハ實況等ニ依リテ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　更新ノ方法
二　手入ノ方法
三　生育ノ狀況
四　被害ノ狀況

第四十四條　材積ハ左ノ方法ニ依リ調査スヘシ但シ既往ノ伐木若ハ測樹ノ成績明確ニシテ直ニ之ヲ採用シ又ハ之ニ依リテ推算スルヲ得ヘ

キ場合ニ於テハ本條ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

一　喬林ニシテ第一施業期間ニ伐採スヘキ林木ハ毎木調査又ハ標準地調査

二　輪伐期ノ半數ヲ超エタル林木ハ標準地調査

三　輪伐期ノ半數ヲ超エサル林木及林業外地ニ生立スル林木ハ目測又ハ比較調査

第四十五條　左ニ揭ケタル各號ノ材積ハ各別ニ之ヲ調査スヘシ

一　主要ナル樹種

二　存置木

三　樹類別ヲ異ニスル樹種

四　更新期ニ於ケル老木ト幼木

五　中林ニ於ケル喬木ト矮木

第四十六條　成長量ハ現在材積ヲ林齡ニテ除シタル商ヲ用ウヘシ

第四十七條　林位ハ左ノ五種ニ區別スヘシ

一上上、一上、一中、一下、一下下

第四款　施業見込調査

第四十八條　施業見込調査ハ地況及林況調査ノ成蹟ニ基ツキ林相班毎ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ但シ第一號ニ揭ケタル事項ハ一作業級ヲ通シテ調査スルコトヲ得

一　將來施業スヘキ樹種、作業法、輪伐期、循環期及更新期

二　主伐、間伐、離伐其ノ他總テ收額ニ關スル事項

三　下刈、枝打、補植、下木植附其ノ他總テ森林手入ニ關スル事項

四　更新ノ方法其ノ他總テ森林仕立ニ關スル事項

五　砂防工事其ノ他總テ林地改良ニ關スル事項

六　林業外地ノ取扱ニ關スル事項

七　前各號ノ外施業上必要ナル事項

第五節　森林ニ關スル一般事項ノ調査

第四十九條　森林ニ關スル一般事項ニ付テハ一事業區毎ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ但シ他ノ事業區ト同一ノ關係ヲ有スル事項ハ之ヲ共通シテ調査スルコトヲ得

一　位置、土地及氣候上ノ關係

二　森林ニ關スル沿革

沿革ハ記錄又ハ傳說等ニ依リ林制又ハ土地所有ノ沿革、入會權、地上權若ハ地役權等ノ權義關係、產物特賣ノ慣行又ハ產物ノ年期賣拂ニ關スル事項等ヲ調査スヘシ

三　御料地ノ境界及比隣地ノ現況

四　既往(凡十箇年間)ノ收額及經費

五　運材及林產物販賣ノ狀況(運材ノ方法及賃金、造材賃金、山元及市場價額、販賣ノ習慣等ノ事項)

六　林產物ノ需要供給ノ現況

七　森林ノ施業ニ對スル法令又ハ行政上ノ影響

八　前各號ノ外林業上參考トナルヘキ事項

第六節　森林圖ノ調製

第五十條　森林圖ハ地籍圖ヲ基礎トシ森林測量及林值調查ノ成蹟ニ基ツキ一事業區毎ニ之ヲ調製スヘシ

第五十一條　森林圖ヲ分テ左ノ三種トス

一　基本圖

二　林業圖(林相圖、施業圖)

三　地形圖

第五十二條　森林圖ノ調製法ハ長官之ヲ定ムヘシ

第七節　原簿ノ調製

第五十三條　森林測量及林值調查ヲ終了シタルトキハ其ノ成蹟ヲ蒐集シテ一事業區毎ニ左ノ二原簿ヲ調製スヘシ

一　面積簿

二　林值簿

第五十四條　面積簿ハ森林測量ノ成蹟ニ基ツキ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　各林相班ノ位置、面積、地目、林種及土地ノ種類

二　區劃線、通路、防火線、河川等ノ種類及其ノ面積

三　前各號ニ關スル摘要

第五十五條　林值簿ハ林值調查ノ成蹟ニ基ツキ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　地況調查ノ成蹟

二　林況調查ノ成蹟

三　施業ノ見込

四　前各號ニ關スル摘要

第五十六條　面積簿及林值簿ノ樣式ハ長官之ヲ定ムヘシ

第八章　施業案ノ編成

第一節　總則

第五十七條　施業案編成豫業ヲ終了シタルトキハ將來ニ於ケル施業見込ニ基ツキ作業級ヲ確定シ施業案ヲ編成スヘシ

第五十八條　施業案ハ一事業區ヲ通シ作業級ヲ異ニスル毎ニ之ヲ編成シ尙ホ輪伐區毎ニ口取ヲ設クヘシ

第五十九條　施業案ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　斫伐ノ順序

二　一輪伐期又ハ一循環期間ニ於ケル各施業期ニ主伐スヘキ位置及其ノ面積

三　第一施業期間ニ主伐スヘキ樹種、平均伐期及材積

四　第一施業期前半期間ニ間伐スヘキ位置、面積、樹種及材積

五　二十箇年間ニ植栽又ハ播種スヘキ位置及其ノ面積

六　將來施業上ニ關スル摘要

第六十條　施業案編成上必要アルトキハ一事業區ヲ通シテ齡級表ヲ調製スヘシ

第六十一條　施業案ノ樣式ハ長官之ヲ定ムヘシ

第二節　作業級

第六十二條　作業級ハ一事業區內ニ於テ同一ノ作業法及輪伐期又ハ循環期ニ依リテ施業シ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコトヲ得ヘキ森林ヲ集合シテ之ヲ設クヘシ但シ漸伐作業ト皆伐作業トハ之ヲ合併シテ一作業級ト爲スコトヲ得

第六十三條　一事業區內ニ於テ作業法又ハ輪伐期若ハ循環期ヲ異ニスル森林アルモ其ノ面積狹少ニシテ一作業級ヲ設定スルニ足ラサルトキハ之ヲ類似ノ作業級ニ合併スヘシ

第六十四條　作業級ハ作業法ノ種類ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ名稱ヲ附シ尙ホ一事業區ヲ通シ第一第二等ノ番號ヲ冠スヘシ

一　喬林完伐(又ハ皆伐、漸伐)作業
二　喬林擇伐作業
三　矮林作業

第三節　施業期

第六十五條　喬林作業ニ在リテハ二十年矮林作業ニ在リテハ十年ヲ以テ一施業期トス

第一施業期ハ之ヲ前後兩半期ニ區分スヘシ

第六十六條　施業期ハ研伐ノ年度ニ從ヒ順次羅馬數字ヲ以テ番號ヲ附スヘシ

第一施業期ノ前半期ハ亞剌比亞數字1、後半期ハ2、ヲ其ノ番號ニ附記スヘシ

第六十七條　左ニ揭ケタル林相班ハ成ルヘク第一施業期ノ前半期ニ編入スヘシ

一　林相不良又ハ過疎ニシテ速ニ之カ改良ヲ要スルモノ
二　既ニ輪伐期ニ達シ又ハ一作業級中ニ於テ最モ老齡ニ達シタルモノ
三　研伐順序ヲ整理スル爲速ニ研伐ヲ要スルモノ
四　風害豫防其ノ他施業上必要ノ爲速ニ研伐ヲ要スルモノ

第六十八條　第一施業期前半期間ニ研伐シ直ニ植栽スヘキ箇所ハ研伐ノ順序ヲ整理スル爲必要ナル場合ニ限リ更ニ之ヲ同一輪伐期間ノ施業期ニ編入スルコトヲ得

第六十九條　一作業級内ニ在ル未立木地ニシテ第一施業期間ニ造林ノ見込確實ナルモノハ之ヲ當該輪伐期間ノ施業期ニ編入スルコトヲ得

第七十條　樹種ノ改良ヲ必要トスル森林ニ於テハ將來ノ作業法ニ相當スル輪伐期ノ半以上ノ施業期ヲ以テ改良期間トシ施業案ヲ編成スルコトヲ得

第七十一條　一作業級ヲ通算シタル平均林齡ニシテ未タ輪伐期ノ半ニ達セサルトキハ該年齡ニ達スルマテ主伐ノ施業期ヲ指定セサルコトヲ得

第七十二條　御造營材備林ノ施業案ハ御造營用材ニ充ツヘキ林木ニ對シテハ其ノ主伐ノ施業期ヲ指定セサルコトヲ得

第四節　研伐額

第七十三條　喬林ノ研伐額ハ成長量法ニ依リ計算シタル主伐材積ヲ標準トシテ第一施業期前後兩半期間ノ主伐材積ヲ平均シ第二施業期以後ハ各期ノ伐採面積ヲ平均スヘシ但シ輪伐期四十年以下ノ喬林又ハ樹種改良ヲ要スル喬林ニ於テハ面積平分法ニ依ルコトヲ得

第一施業期前後兩半期間ニ於ケル伐採面積モ亦成ルヘク之ヲ均一ナラシムヘシ

第七十四條　矮林ノ研伐額ハ面積平分法ニ依リテ各施業期ノ伐採面積ヲ平均スヘシ

第一施業期前後兩半期間ニ於ケル伐採材積モ亦成ルヘク之ヲ均一ナラシムヘシ

第七十五條　成長量法ニ依ル一施業期間ノ主伐材積(E)ハ左式ノ如ク其ノ總材積(M)ヲ輪伐期(u)ニテ除シ之ニ總平均成長量(Z)ノ半數ヲ加ヘタルモノニ一施業期ノ年數ヲ乘シタルモノヲ以テ標準トス

施業上ノ便宜ニ依リ主伐標準材積ノ十分ノ二以内ハ之ヲ增減シテ研伐額ヲ定ムルコトヲ得

$$E=\left(\frac{M}{u}+\frac{Z}{2}\right)\times 20$$

第七十六條　面積平分法ニ依ル一施業期間ノ主伐面積(f)ハ左式ノ如ク其ノ總面積(F)ヲ輪伐期(u)ニテ除シ之ニ一施業期ノ年數ヲ乘シタルモノヲ以テ標準トス

施業上ノ便宜ニ依リ主伐標準面積ノ十分ノ二以内ハ之ヲ增減シテ研伐額ヲ定ムルコトヲ得

$$f=\left(\frac{F}{u}\right)\times 10\text{又ハ}\left(\frac{F}{u}\right)\times 20$$

第七十七條　喬林擇伐作業ノ一擇伐區域内ノ擇伐額(P)ハ左式ノ如ク該區域上ノ總材積(m)ノ二倍ヲ循環期ト輪伐期トノ倍數(n)ニ一ヲ加ヘタルモノヲ以テ除シタル數量ヲ超過スルコトヲ得ス

$$P=\frac{2m}{n+1}$$

第七十八條　第一施業期前後兩半期ニ屬スル主伐材積ハ現在材積ニ其ノ施業期ノ中央年度ニ至ル年間ノ成長量ヲ加算シテ算定スヘシ

第五節　研伐順序

第七十九條　研伐順序ハ暴風ノ方向ニ反對シテ進行スルヲ定則トス

山地ニシテ暴風ノ方向一定ナラサル場所ノ研伐順序ハ山麓ヨリ山頂ノ方向ニ進行スヘシ

第八十條　研伐順序ヲ定ムルニハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　各輪伐區ノ齡級ヲ整理スルコト
二　伐木後ニ於ケル造林上ノ便益ヲ圖ルコト
三　各種ノ危害殊ニ風害及火災ヲ豫防スルコト
四　運材ノ便ヲ圖ルコト
五　接續地域ノ研伐順序ヲ妨ケ又ハ其ノ成林ヲ害ハサルコト

第四章　施業案說明書ノ調製

第八十一條　施業案說明書ハ一事業區毎ニ之ヲ調製スヘシ

第八十二條　施業案說明書ニハ概ネ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ其ノ記載スヘキ事項ニシテ他ノ事業區ト同一ノ關係ヲ有スルモノハ之ヲ共通シテ記載スルコトヲ得

第一　位置、土地及氣候上ノ關係
第二　森林ニ關スル沿革
第三　既往ノ施業（既往十箇年間ニ於ケル研伐ノ狀況及造林ノ成蹟並收入、事業費等）
第四　現在ノ林況（林業地ト林業外地ノ各種類ニ區分シタル面積、各作業級及各輪伐區ニ區分シタル面積材積其ノ他各樹類別ノ面積材積等）
第五　森林ノ區劃（事業區、輪伐區、區劃班ノ設置又ハ變更ノ程度並其ノ理由等）

第六　施業ノ意見

一　作業法、輪伐期又ハ循環期ノ選定又ハ變更ノ理由
二　收額ノ算定（各作業級ニ對スル研伐面積及材積算定ノ理由並主伐、間伐及樹類別ニ區分シタル研伐額等）
三　研伐ノ順序
四　造林ノ方法（更新ノ方法、造林ノ樹種、本數及手入ノ方法等）

第七　搬路徑路及區劃線等ノ開設ニ關スル意見
第八　將來ノ收入及事業費ノ概算額
第九　林地ノ整理（境界ノ整理、土地ノ交換賣買、入會權、地上權及地役權等ノ解除又ハ整理）ニ關スル意見
第十　森林ノ管理及保護ニ關スル意見
第十一　雜記（前各號ノ外林業經營上必要ト認メタル事項）

第二編　施業案ノ檢訂

第八十三條　施業案檢訂ノ業務ヲ分テ左ノ四トス
一　舊施業案ノ施行ニ關スル檢査
二　新施業案編成ノ豫業
三　新施業案ノ編成
四　新施業案說明書ノ調製

第八十四條　舊施業案ノ施行ニ關シテハ既往ノ施業期間ニ於ケル左ノ事項ヲ調査シ其ノ適否及之カ成績ヲ檢査スヘシ
一　土地ノ異動
二　各林相班ノ斫伐額ト施業案豫定額トノ比較
三　事業區及各作業級ニ對スル實際ノ主伐額ト施業案ノ指定斫伐額トノ每年及總計ノ比較
四　施業案指定外ノ林相班ニ於ケル臨時斫伐額
五　造林事業ノ成績

第八十五條　新施業案編成ノ豫業ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ
一　土地ニ異動アリタルトキ又ハ一部ノ森林區劃ニ變更ヲ要スルトキハ其ノ部分ニ對シテ區劃及林値ノ調査ヲ爲シ原簿及森林圖ヲ補修スヘシ
二　森林區劃ニ著シキ變更ヲ要スルトキハ新ニ區劃及林値ノ調査ヲ爲シ原簿及森林圖ヲ調製スヘシ
三　既往ノ林値調査ニシテ著シク實地ニ適合セサルモノアルトキハ新ニ林値調査ヲ爲シ原簿ヲ調製シ尙ホ必要アルトキハ施業圖ヲ補修又ハ調製スヘシ
四　前各號以外ノ場合ニ於テハ森林ノ現況ヲ概査シ既往ノ施業成績ニ基ツキテ原簿ヲ補修シ尙ホ必要アルトキハ施業圖ヲ補修又ハ調製スヘシ

第八十六條　原簿及森林圖ノ補修方法ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
一　分割シタル區劃ノ名稱ハ原區劃ノ支番號ヲ附シ新ニ增設シタル區劃ノ名稱ハ順次ニ終尾ノ次番號ヲ附シ又刪除シタル區劃ハ缺番號ト爲シテ原簿及森林圖ヲ修正スヘシ但シ新ニ森林圖ヲ調製スヘキ場合ハ總テ區劃ノ番號ヲ改訂スヘシ
二　新ニ一部ノ林値調査ヲ爲シタルトキハ他ノ部分モ同時ニ林値調査ヲ爲シタルモノト看做シテ林値簿ニ記載シタル樹齡、林齡及材積等ヲ修正スヘシ
三　既往ノ作業法又ハ斫伐順序ヲ變更セサルトキハ林業圖ニ圖示シタル施業期及林相班ハ之ヲ修正セサルコトヲ得

第八十七條　新施業案ハ既往ノ施業案施行ニ關スル成績ニ鑑ミ森林ノ現況ヲ參酌シテ作業法、輪伐期、斫伐順序又ハ更新方法等ニ變更ヲ要スルモノナキカ否ヲ稽査シテ之ヲ編成スヘシ但シ舊施業案ニシテ將來ノ施業上支障ナシト認ムル場合ニ於テハ尙ホ十箇年間之ヲ繼續セシムルコトヲ得

第八十八條　新施業案ノ說明書ニハ舊施業案ノ說明書ニ記載セル事項中異動アリタルモノ及變更ヲ要スル施業意見等ヲ補足記載スヘシ

第八十九條　施業案ノ檢訂ニ關シ本編ニ別段ノ規定ナキモノニ付テハ第一編ノ規定ヲ準用ス

●面積簿、林値簿及施業案ノ樣式ニ關スル件

明治四十四年十月十二日第六二四六號設計課ヨリ長官へ伺定

御料林施業案編成及檢訂手續第五十六條及第六十一條ノ面積簿、林値簿及施業案ノ樣式ハ別紙ノ通リ御定メ相成可然候哉

（樣式）

施業案様式

御料地名	輪伐區	林相區劃班	面積 ha	現在ノ林況 樹種	樹齢	林齢	材積 毎 ha m³	材積 總 ha m³	平均生長量 毎 ha m³	平均生長量 總 m³	施業期	昭和年後ノ施業豫定 I 平均伐期	I 平均伐期 毎ha材積 m³	I 昭和 I₁ 主伐 面積 ha	I 昭和 I₁ 主伐 材積 m³	I 昭和 I₁ 間伐 面積 ha	I 昭和 I₁ 間伐 材積 m³	I 昭和 I₂ 面積 ha	I 昭和 I₂ 材積 m³	II 昭和 伐採面積 ha	III 昭和 伐採面積 ha	IV 昭和 伐採面積 ha	廿ケ年間ノ造林面積 ha	備考
							喬	林	皆		伐		作	業			輪		伐	期	百	年		
七宗	I	1イ	3.74	アカマツ 6.5	110—200		195	729.3	1.39	5.2			202.0	3.74	755.5									
				ツガ 1.0	120—180	140	30	112.2	0.21	0.8	I₁	145	31.1		116.3									
				ザツ 2.5	50—150		75	280.5	0.54	2.0			77.7		290.6									
		ロ	26.82	ツガ 4.5	100—180		135	3620.7	1.13	30.3			140.7					26.82	3773.6					
				アカマツ 4.0	80—200	120	120	3218.4	1.00	26.8	I₂	135	135.0						3620.7					
				ヒノキ 0.5	110—170		15	402.3	0.13	3.5			15.7						421.1					
				ザツ 1.0	50—150		30	804.6	0.25	6.7			31.3						839.5					
		小計	30.56					9168.0		75.3				3.74	1162.4			26.82	8654.9					

（點線ハ朱線ヲ示ス）

事業區

第　次檢訂

施業案

昭和　年度調製

支局

出張所

林値簿様式

御料地名	輪伐區	林相區劃班	面積 林業地 ha	面積 林業外地 ha	面積 計 ha	面積 摘要	地況 摘要	地況 地位	林 樹種	林 樹齢	林 林齢
七宗	I	1イ	3 74				北ハ峰ニヨリテ民有林地ニ接シ南及西ハ野星谷及星谷ニ沿ヒ地勢南面ニシテ急斜土性礫質壌土淺軟適	中	アカマツ 6.5 ツガ 1.0 ザツ 2.5	110–200 120–180 50–150	140
		ロ	26 82				云々……				
		計	30 56		30 56						

（點線ハ朱線ヲ示ス）

疎密度	材積 毎 ha m	材積 總 m³	平均生長量 毎 ha m³	平均生長量 總 m³	摘要	林位	將來ノ施業見込 樹種	作業法	輪伐期	循環期	改良期	摘要
微疎	195	729 3	1 39	5 2	天然林ニシテ赤松ヲ主林木トシ……		ヒノキ ヒノキ スギ	喬皆	100			云々
	30	112 2	0 21	0 8								
	75	280 5	0 54	2 0								
		— — —		— — —								

事業區

第　次檢訂

林　値　簿

昭和年度調製

支局

出張所

面積簿様式

國	郡市	町村	大字	御料地名	字	世傳普通ノ區別	地目	林種	輪伐區	林班區割粗班	面積 ha	柏松松扁金水類 ha
美濃	武儀	神淵		七宗	野星谷	世傳	山林	供用	I	1イ	3.74	
										ロ	26.82	
										小計	30.56	
										計		

（點線ハ朱線ヲ示ス）

林業地面積 立木地 喬林 杉類 ha	松落葉松類 ha	樅栂唐檜類 ha	濶葉樹 ha	矮林 ha	小計 ha	未立木地 ha	計 ha	林業外地面積 林業附帶地 ha	施業制限地 ha	貸下地 ha	雜種地 ha	計 ha	摘要
	3.74						3.74						アカマツ 6.5　ツガ 1.0 ザツ 2.5
		26.82					26.82						ツガ 4.5　アカマツ 4.0 ヒノキ 0.5　ザツ 1.0
	3.74	26.82				30.56	30.56						

區
訂
事業
檢
次
第
積
簿
面

製調度年　昭和

局
所
張
支
出

●施業案調査心得

昭和四年四月十五日
業第二七二號長官達

第一條　支局長ハ豫定計算書提出ノ際施業案調査ニ關スル向フ十ケ年間ノ豫定計畫書及其ノ年度ニ調査スヘキ箇所、面積等ヲ詳記シタル說明書ヲ添附スヘシ

第二條　支局長ハ御料林施業規程第五條ノ規定ニ拘ラス檢訂ヲ省略シ引續キ現施業案ヲ施行スルヲ適當ト認ムル事業區ニ付テハ事由ヲ具シ豫メ之ヲ長官ニ報告スヘシ

第三條　支局長ハ施業案調査ニ際シテハ當該出張所長ヲシテ其ノ業務ニ參加セシムヘシ

出張所長ハ其ノ實行ニ係ル業務成績ノ統計及施業上ノ注意事項ヲ記錄シ施業案檢訂ノ資料トナスヘシ

第四條　調査員調査上ノ必要ニヨリ立木竹ヲ伐採又ハ使用シタルトキハ直ニ其ノ箇所、種類、數量ヲ當該出張所長ニ通知スヘシ

第五條　調査員ハ毎月第一號書式ノ就業功程報告書ヲ翌月五日迄ニ支局長ニ提出スヘシ

第六條　支局長ハ施業案調査員及各關係職員ヲ會シ施業案ノ方針ニ付キ審議スヘシ

第七條　支局長ハ前條ニ依リ審議シタル事項ニ就キ別記施業案方針書記載事項ニ基キ方針書ヲ調製シ之カ決定ニ付キ長官ニ經伺スヘシ

第八條　支局長施業案ノ調製ヲ完了シタルトキハ左記書類ノ正本ヲ長官ニ提出スヘシ

一、施業案
二、面積簿
三、林値簿
四、施業案說明書
五、位置圖（陸地測量部二十萬分圖）
六、林業圖

第九條　支局長ハ第二號書式ニ依リ毎年度ノ就業功程ヲ翌年一月末日迄ニ長官ニ報告スヘシ（昭和六年5監第一九九ノ五號ニ依リ本年度ヨリ廢止）

第十條　前各條ノ規定ハ其ノ支局長ノ行フ事務ニ付林業試驗場長ニ之ヲ準用ス

第一號書式

何事業區施業案編成（又ハ檢訂）
何月分就業功程報告

月日	天候	就業地名	森林測量測點	林値調査 區劃林相班數	林値調査 標準地數	使用人夫數	備考

一、經費　金何……圓

内譯　旅費……
　　臨用費……
　　雇費……
　　其他……

二、事業進捗程度

第二號書式

年度分就業功程報告（消滅）

（別記）

施業案方針書記載事項

一、既往ノ施業

1　舊案ノ綱概　事業區面積、作業種、輪伐期、改良期、蓄積、生長量、前半期研伐指定額、其ノ他施業上重要ナル關係ヲ有スル事項

2　舊案ノ施行ニ關スル檢訂　既往施業期間ニ於ケル土地ノ異動、研伐ノ檢訂造材ノ檢訂其ノ他主ナル事業ノ成績既往十ケ年間ノ收支關係等

二、新案ノ方針

1　現在林況（蓄積、生長量共）

2　事業區及區劃班ノ設定若クハ變更ノ理由

3　作業法、輪伐期、改良期、循環期

4　主伐、標準額、指定額、前半期指定區劃班番號、伐採ノ順序方法、間伐ノ方針等

5　植栽樹種、本數、更新方法、手入、其ノ他主ナル事項

6　搬路其ノ他運搬計畫

7　將來ノ收支概算

8　雜（管理上ノ意見其ノ他）

●施業案簿册ニ米突單位使用ニ關スル件

昭和六年一月三十一日5業第七二二ノ三號ヲ以テ業務課長通牒

施業案調査ニ當リ米突單位使用ハ數年來實行シ來リタルモ各支局ヲ通シ之カ統一ヲ期スルノ要有之候條爾今左記ニヨリ實行相成度

追而既ニ計算濟ノモノハ其ノ算出基礎（系數、方法等）ヲ明記シ其儘トナシ置クモ差支無之又從來調製セラレアル施業案關係簿册ハ其ノ儘トナシ檢訂ノ都度改訂スルコトニ致度

記

一、面積ニ關スルモノ

（一）面積ハヘクタールヲ單位トシヘクタール以下二位ニ止ム

（二）從來町ヲ以テ計算シタルモノヲヘクタールニ換算スル場合ハ左ニヨル

イ、事業區ノ總面積ハ面積簿記載ノ面積ニヨラズ土地臺帳記載ノ面積（土地臺帳ニ記載ナキ場合ハ畝以下坪迄ノ實測面積）ニ系數〇、九九一七三五五又ハ（120/121）ヲ乘ジ小數點以下三位ニ於テ四捨五入シ二位ニ止ム

ロ、各輪伐區ノ面積ハ面積簿記載ノ面積ニ系數ヲ乘シ前者ト同樣二位ニ止ム但シ各輪伐區ノ面積計ガ事業區ノ面積ニ合致セザル場合ニハ誤差ヲ按分修正ス區劃林相班面積亦之ニ準ズ

二、材積ニ關スルモノ

（一）材積ニ關スルモノハ立方米ヲ單位トス

（二）林値簿ノ記載ハ左ニヨル

イ、毎ヘクタール材積ハ立方米ニ止ム但シ一區劃又ハ一林相班ニシテ二樹種以上混淆ノ場合ニハ立方米以下一位ヲ附スルモ差支ナシ

ロ、總材積ハ立方米以下二位ニ於テ四捨五入シ一位ニ止ム

ハ、毎ヘクタール平均生長量ハ毎ヘクタール當材積ヲ林齡ヲ以テ除シ立方米以下三位ニ於テ四捨五入シ二位ニ止ム

ニ、總平均生長量ハ立方米以下二位ニ於テ四捨五入シ一位ニ止ム但シ算出ノ結果ガ〇、〇四ニ滿タザル場合ハ之ヲ切リ上ゲ〇、一トス

（三）施業案ノ記載ハ左ニヨル

イ、平均伐期毎ヘクタール材積ハ毎ヘクタールノ平均生長量ニ各施業期ノ中央年度ニ至ル年數ヲ乘シ立方米以下二位ニ於テ四捨五入シテ一位ニ止メ毎ヘクタールノ現在材積ニ加算ス

ロ、伐期ノ總材積ハ立方米以下二位ニ於テ四捨五入シ一位ニ止ム

三、圖面ニ關スルモノ

（一）標高修正ハ疆界測量原簿ニヨル

（二）高低曲線ハ林業圖ニ於テハ二十米、基本圖ニ於テハ十米毎ニ一線ヲ描ク

●御料局森林圖式

明治三十二年五月十九日第一九四一號局長達

（改正）明治三十三年第一六七一號達、三十四年第一六七一ノ二號達、四十年第二五八五號達

總則

第一條　森林圖ハ水平投影式ニ據リテ製圖スヘシ

第二條　製圖用紙ハ縱二尺五寸橫三尺五寸ノ圖紙ヲ用ユヘシ縱五尺橫六尺以內ニ收容シ得ヘキモノニ限リ一紙內ニ製圖スルコトヲ得

第三條　圖廓ハ縱二尺一寸六分橫三尺二寸四分ニ設クヘシ

第四條　輪廓ハ圖廓ヲ距ル五分ノ所ニ幅一分ノ雙線ヲ畫キ其ノ空間ヲ中央ヨリ等分シ外半ヲ墨塗スヘシ

第五條　森林圖ハ北ヲ上部トシ子午線ト圖廓縱線トヲ並行セシムヘシ

第六條　森林圖ノ表題ニハ左ノ各項ヲ記載スヘシ

一　事業區名

二　圖名

三　縮尺ノ比例

四　面積

五　調製年度

六　凡例（本圖式ニ規定セサルモノヽ記號）

七　調査員官氏名

八　製圖員官氏名

第七條　切圖ニハ番號ヲ附シ別ニ目錄圖ヲ調製スヘシ

第八條　本圖式中ニ規定スル記號及文字ノ尺度ハ五千分一ノ縮尺ヲ標準トス

二萬分一ノ縮尺ニ於テハ圖面ノ體裁ヲ損セサル限リ之ヲ準用シ若之ヲ準用シ得サルトキハ適宜其ノ大小ヲ定ムヘシ

第九條　本圖式中ニ規定セサル地物ノ記號ハ陸地測量部二萬分一地形圖式ヲ準用シテ圖示スヘシ若之ヲ準用シ得サルトキハ適宜其ノ記號ヲ定ムヘシ

第一編　基本圖

第一章　通則

第十條　基本圖ハ地籍圖ヲ基礎トシ森林測量ノ成蹟ニ據リ施業上ニ關係ヲ有スル各地物ノ位置、區域及高程ヲ正確ニ描出スヘシ但地形圖ヲ調製スル場合ニ於テハ基本圖ノ原圖ヲ除ク外高程ヲ省略スルコトヲ得

第十一條　基本圖ハ御料地内部ニ於ケル各地物ノ位置區域ノ變更沿革ヲ永遠ニ證明スヘキモノナルカ故ニ特別ノ理由アルニアラサレハ之ヲ塗抹改竄スヘカラス

第十二條　基本圖ハ御料地内部ニ著シキ異動ヲ生シテ訂正シ能ハサルカ若ハ汚染等ノ爲其ノ明瞭ヲ欠ク場合ノ外之ヲ改製スヘカラス

第十三條　基本圖ハ縮尺ノ程度ヲ五千分一トス

第十四條　圖骨ハ縱橫線ヲ以テ定ムヘシ

第十五條　御料地境界ヲ距ル概ネ五十間以内ニ存スル主要地物ハ之ヲ圖中ニ記入スヘシ

第二章　測點及測量線

第十六條　三角點ハ左ノ區別ニ從ヒ洋紅色ニテ正三角形ヲ畫キ其ノ底邊ヲ圖廓ノ橫線ト並行セシムヘシ

一　一等三角點ハ　外廓一邊ノ長サ八釐ノ三重形

二　二等三角點ハ　外廓一邊ノ長サ八釐ノ二重形

三　三等三角點ハ　一邊ノ長サ六釐ノ單形

四　四等三角點ハ　一邊ノ長サ四釐ノ單形

第十七條　標識ヲ設置シタル多角測量點ハ第三章各條項ニ規定スル境界標識ニ準シ洋紅色ニテ其ノ記號ヲ畫クヘシ

第十八條　標識ヲ設置セサル多角測量點ハ洋紅色ニテ直徑二釐ノ圈ヲ畫クヘシ

第十九條　水準石標ハ洋紅色ニテ一邊ノ長サ四釐ノ正方形ヲ圖廓ト並行セシメテ畫キ其ノ上部ニ三脚架形ヲ添加スヘシ

第二十條　水準木標ハ洋紅色ニテ直徑四釐ノ圈ヲ畫キ其ノ上部ニ三脚架形ヲ添加スヘシ

第二十一條　陸地測量部ノ設置ニ係ル三角點及水準點ハ洋紅色ニ代フルニ空青色ヲ用ユヘシ

第二十二條　測點ノ記號ハ其ノ中心ヲ測點ノ位置ト一致セシメ小圈點ヲ附スヘシ

第二十三條　境界線ト一致セサル多角測量線ハ洋紅色ニテ幅三毛ノ線ヲ畫クヘシ

單測ニ係ル多角測量線ハ其ノ後半ヲ三釐毎ニ一釐ツヽ隔テ、畫クヘシ

第二十四條　多角測量線ノ延長線及支距線ハ洋紅色ニテ幅三毛ノ線ヲ三釐毎ニ一釐ツヽ隔テ、畫クヘシ

第三章　御料地境界標識

第二十五條　石標ハ黑色ニテ一邊ノ長サ四釐ノ正方形ヲ畫クヘシ

第二十六條　木標ハ黑色ニテ直徑四釐ノ圈ヲ畫クヘシ

第二十七條　土管ハ黑色ニテ外徑四釐ノ二重圈ヲ畫クヘシ

第二十八條　立木ハ黑色ニテ直徑四釐ノ圈ヲ畫キ尚ホ直徑線ヲ附スヘシ

第二十九條　地中ニ埋設シタル標識ハ黑色ニテ記號ノ中央ニ交切線ヲ添加スヘシ

第三十條　土塚ヲ附シタル標識ハ記號ノ外圈四所ニ黑色ニテ長サ一釐五毛ノ線ヲ相對シテ添加スヘシ

第三十一條　石塚ヲ附シタル標識ハ記號ノ外圈二所ニ黑色ニテ長サ一釐五毛ノ線ヲ相對シテ添加スヘシ

第三十二條　溝ヲ附シタル標識ハ記號ノ外圈四個所ニ黑色ニテ長サ二釐ノ線ヲ記號ニ並行シテ添加スヘシ

第三十三條　天然石標ハ黑色ニテ石標記號ノ左上ヨリ右下ニ對角線ヲ附スヘシ

第三十四條　境界標識ノ記號ハ其ノ中心ヲ境界點ノ位置ト一致セシメ小圈點ヲ附スヘシ

第三十五條　境界標識ヲ省略シタル御料地境界點ハ黑色ニテ直徑八毛ノ圈點ヲ畫クヘシ

第四章　御料地境界

第三十六條　御料地境界（御料地ト接續地トノ境界）ハ黑色ニテ幅八毛ノ線ヲ畫クヘシ

第三十七條　御料地境界線ニシテ單線ニ畫クヘキ通路、河川等ト一致スルトキハ通路、河川等ヲ省略シ長サ一分ノ箭形ヲ畫キテ其ノ通過ヲ示スヘシ

但通路ハ朱色ノ兩箭ヲ用ヒ河川等ハ蘆色ノ單箭ヲ用ユヘシ

第三十八條　御料地境界線ニシテ堤塘ノ中央ヲ縱斷スルトキハ第七十八條ノ記號ヲ分劃シ其ノ中間ニ境界線ヲ挾ムヘシ

第三十九條　國有地籍ニ屬スル道路御料地内ニ終ルトキハ其ノ終端ニ黑色ニテ幅五毛長サ二分ノコ字形線ヲ畫クヘシ

第四十條　國有地籍ニ屬スル河川等御料地内ヲ通スルトキ其ノ兩側ニ沿ヒ境界線ヲ施シ難キモノハ黑色ニテ幅五毛長サ一分ノ雙線ヲ適宜所々ニ畫キ且其ノ終端ニ同色ニテ幅五毛長サ二分ノコ字形線ヲ畫クヘシ

第五章　境界色緣

第四十一條　御料地境界ノ接續地ニハ左ノ區別ニ從ヒ幅一分二釐ノ色緣ヲ附スヘシ

一　世傳御料地ナルトキハ淡蘆紫色

二　普通御料地ナルトキハ淡洋紅色

三　國有地ナルトキハ淡草綠色

四　民有地ナルトキハ淡雌黃色

第四十二條　色緣ノ幅員内ニ於テ彩色スヘキ地物存スルトキハ該地物

ノ區域ヲ控除シテ色緣ヲ附スヘシ

第四十三條　境界色緣ノ境界ハ黑色ニテ長サ二分ノ細線ヲ畫クヘシ

第四十四條　接續地目ノ境界ハ黑色ニテ全長二分ノ細虛線ヲ畫クヘシ

第六章　區劃ノ境界標識

第四十五條　區劃ノ境界標識ハ御料地境界標識ニ準シ第三章ノ各條項ヲ適用スヘシ

標識ヲ省略シタル區劃ノ境界點ハ黑色ニテ直徑八毛ノ圈點ヲ畫クヘシ

第四十六條　林相班ノ境界ハ黑色ニテ幅四毛ノ線ヲ畫クヘシ

第四十七條　人工區劃線ハ兩緣ヲ幅四毛ノ黑線ニテ畫クヘシ

未開設ノ人工區劃線ハ兩緣ヲ幅四毛ノ黑線ニテ四釐無ニ二釐ツヽ隔テ、畫クヘシ

第四十八條　開設セサル區劃線ハ黑色ニテ幅八毛ノ線ヲ畫クヘシ

第四十九條　林相班ノ境界ハ黑色ニテ幅四毛ノ線ヲ畫クヘシ

第五十條　開設セサル區劃線若ハ林相班ノ境界線ニシテ單線ニ畫クヘキ通路河川等ト一致スルトキハ其ノ境界線ヲ省略スヘシ

第五十一條　輪伐區ノ境界線ニハ黑色ニテ二分毎ニ幅二釐五毛長サ一分ノ長方形ヲ畫クヘシ

但單線ナルトキハ其ノ線上ニ複線ナルトキハ其ノ中央ニ之ヲ畫クヘシ

第五十二條　區劃班ノ境界線ニハ黑色ニテ二分毎ニ直徑二釐五毛ノ圈點ヲ畫クヘシ

但單線ナルトキハ其ノ線上ニ複線ナルトキハ其ノ中央ニ之ヲ畫クヘシ

第五十三條　區劃線ハ其ノ隅端接近ノ位置ニ其ノ線ヲ距ルコト六釐ノ點ヲ中心トシ黑色ニテ半徑一分二釐ノ圈ヲ線上ニ畫キ尙弧線內ニ番號ヲ朱書スヘシ

第八章　行政區界

第五十四條　國界ハ黑色ニテ幅一釐ノ線ヲ八釐毎ニ四釐ツヽ隔テ、畫キ其ノ空間ノ中心ニ直徑一釐ノ圈點ヲ施シ尙ホ各線ノ兩端ニ全圓三分ノ一ノ弧線ヲ畫キテ圈點ヲ懷抱セシムヘシ

第五十五條　郡市界ハ黑色ニテ幅一釐ノ線ヲ七釐毎ニ七釐ツヽ隔テ、畫キ其ノ空間ニ直徑一釐ノ圈點三個ヲ等距離ニ挿入スヘシ

第五十六條　町村界ハ黑色ニテ幅一釐ノ線ヲ五釐毎ニ五釐ツヽ隔テ、畫キ其ノ空間ニ直徑一釐ノ圈點二個ヲ等距離ニ挿入スヘシ

第五十七條　大字界ハ黑色ニテ幅一釐ノ線ヲ三釐毎ニ三釐ツヽ隔テ、畫キ其ノ空間ニ直徑一釐ノ圈點一個ヲ挿入スヘシ

第五十八條　御料地境界ト行政區界ト一致スルトキハ御料地境界線ノ外部ニ沿ヒ細線ニテ行政區界ノ記號ヲ畫クヘシ

第五十九條　區劃境界ト行政區界ト一致スルトキハ區劃境界線ノ右方又ハ下方ニ沿ヒ細線ニテ行政區劃ノ記號ヲ畫クヘシ

第九章　通路鐵道及其ノ附屬地物

第六十條　通路（國道、縣道及里道）ハ兩緣ヲ幅四毛ノ黑線ニテ畫キ尙ホ左ノ區別ニ從ヒテ塗抹スヘシ

一　御料地籍ニ屬スルモノハ淡洋紅色

二　國有地籍ニ屬スルモノハ淡岱赭色

三　民有地籍ニ屬スルモノハ淡雌黃色

第六十一條　林道ハ兩緣ヲ幅四毛ノ黑線ニテ畫キ淡朱色ニテ塗抹スヘシ

第六十二條　道路及林道ニシテ荷車ヲ通セサル部分ハ右方又ハ下方ノ緣ヲ四釐毎ニ二釐ツヽ隔テ、畫クヘシ

第六十三條　徑路ハ濃朱色ニテ幅八毛ノ線ヲ畫クヘシ

第六十四條　野道ハ濃朱色ニテ幅八毛ノ線ヲ四釐毎ニ二釐ツヽ隔テ、畫クヘシ

第六十五條　鐵道ハ兩緣ヲ幅四毛ノ黑線ニテ畫キ尙ホ細線ニテ其ノ幅二倍ノ間隔ヲ有スル梯子形ヲ附シ左ノ區別ニ從ヒテ塗抹スヘシ

一　御料地籍ニ屬スルモノハ淡洋紅色

二　國有地籍ニ屬スルモノハ淡岱赭色

三　民有地籍ニ屬スルモノハ淡雌黃色

第六十六條　道路及鐵道ノ側傍ニ於テ盛土又ハ切土ヲナシタル部分ハ道路若ハ鐵道ト同色ニ塗抹シ尙ホ黑色ニテ二釐毎ニ緣線ニ直交スル小楔形ヲ畫クヘシ但小楔形ハ高所ノ幅ヲ廣クシ以テ斜面ノ道路又鐵道ニ對スル上下ヲ示スヘシ

第六十七條　地下道路（隧道）及地下鐵道ハ兩緣ヲ四釐毎ニ二釐ツヽ隔テヽ畫キ尙ホ其ノ首尾兩端ニ弧線ヲ附スヘシ

第六十八條　木橋及土橋ハ兩緣ヲ幅八毛ノ黑線ニテ畫キ尙ホ其ノ首尾兩端ニ八字形ヲ附スヘシ

第六十九條　鐵橋及石橋ハ木橋ト同樣ニ畫キ尙ホ細線ニテ並行橫線ヲ畫クヘシ

第十章　諸水地及其ノ附屬物體

第七十條　河川、溪流、溝渠等ハ兩緣ヲ幅四毛ノ黑線ニテ畫キ淡青藍色ニテ塗抹シ尙ホ幅五分以上ノモノハ同色ニテ淡抹スヘシ

細流ハ濃青藍色ノ單線ヲ用フヘシ

第七十一條　地下流水（水隧道）ハ兩緣ヲ四釐毎ニ二釐ツヽ隔テ、畫キ尙ホ其ノ首尾兩端ニ弧線ヲ附スヘシ

細流ハ濃青藍色ニテ幅八毛ノ線ヲ四釐毎ニ二釐ツヽ隔テ、畫クヘシ

第七十二條　澗川ハ兩緣ヲ幅四毛ノ黑線ニテ畫キ尙ホ黑色ニテ砂礫ノ記號ヲ畫クヘシ

第七十三條　流水ノ方向ハ黑色ニテ長サ一分乃至三分ノ筒形ヲ河川等ノ流末ニ畫クヘシ

第七十四條　河川ニシテ船舶ヲ通スヘキモノハ黑色ニテ長サ六釐ノ船形ヲ又桴筏ヲ通スヘキモノハ同長ノ筏形ヲ河川ノ中央ニ畫クヘシ

第七十五條　池、湖等ハ淡青藍色ニテ塗抹シ尙ホ方八分以上ノモノハ同色ニテ淡抹スヘシ

第七十六條　濕地ハ濃青藍色ニテ並行細簇線ヲ稍疎ニ畫クヘシ

第七十七條　沼、澤ハ濕地ト同一ニ畫キ尙ホ黑色ニテ草形ヲ散畫スヘシ

第七十八條　堤塘ハ黑色ニテ二釐毎ニ二列ノ小楔形ヲ畫キ尙ホ左ノ區別ニ從ヒテ塗抹スヘシ

一　御料地籍ニ屬スルモノハ淡洋紅色

二　國有地籍ニ屬スルモノハ淡岱赭色

第七十九條　瀑布ハ黒色ニテ幅三毛ノ線ヲ畫キ尚ホ河流ノ下方ニ大小二列ノ圈點ヲ施スヘシ細流ノ瀑布ハ黒色ニテ幅三毛長サ四釐ノ線ヲ畫キ尚ホ河流ノ下方ニ小圈點ヲ施スヘシ

第八十條　堰ハ黒色ニテ二釐ノ距離ニ細線ヲ畫キ尚ホ左ノ區別ニ從ヒテ塗抹スヘシ

一　石造ハ淡洋紅色

二　木造ハ淡黒色

第八十一條　網場ハ黒色ニテ徑一釐ノ小圈ヲ連畫スヘシ

第八十二條　杭所ハ黒色ニテ徑一釐ノ小圈ヲ一釐ツヽ隔テ、列畫スヘシ

第十一章　林業外地

第八十三條　施業制限地ハ左ノ區別ニ從ヒ淡洋紅色ニテ方二分以内ノ記號ヲ畫クヘシ

一　入會地ハ　入字

二　部分林ハ　斜十字ヲ畫キ尚官民分收ノ歩合ヲ其ノ上下ニ分記スヘシ

三　禁伐保安林ハ　禁字

四　砂防設備地ハ　砂字

第八十四條　耕地ハ淡雌黄色ニテ塗抹シ尚ホ左ノ區別ニ從ヒ各記號ヲ畫クヘシ

一　畑

二　田

三　桑畑

四　茶畑

五　三椏及楮畑

六　漆畑

七　桐畑

八　菓樹畑

九　山葵畑

第八十五條　草地ハ淡草綠色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ五箇一列ノ小圈點ヲ畫クヘシ

第八十六條　牧場ハ原野ト同一ニ施色シ尚ホ黒色ニテ草形ヲ畫クヘシ

第八十七條　苗圃ハ黒色ニテ長サ五釐幅三釐ノ小樹形ヲ整畫シ尚ホ小樹形ニ綠青色ヲ施スヘシ

第八十八條　公園ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ苗圃ト同一ノ小樹形ヲ適宜數個ツヽ群畫スヘシ

第八十九條　庭園ハ公園ト同一ニ施色シ尚ホ小樹形ヲ整畫スヘシ

第九十條　不毛地ハ淡洋紅色ニテ塗抹シ尚ホ左ノ區別ニ從ヒ各記號ヲ畫クヘシ

一　巖石地ハ濃洋紅色ニテ其ノ記號ヲ一方ニ集メテ畫クヘシ

二　砂礫地ハ濃洋紅色ニテ其ノ記號ヲ全部ニ畫クヘシ

三　絶壁及崩壞地ハ濃洋紅色ノ小點ヲ全部ニ散畫スヘシ

第九十一條　石切場ハ淡洋紅色ニテ塗抹シ尚ホ現在作業中ノモノハ黒色ニテ長サ一分以内ノ小楕形一個ヲ正畫シ廢業中ノモノハ同記號ヲ倒畫スヘシ

第九十二條　採鑛場ハ石切場ト同一ニ施色シ尚ホ現在作業中ノモノハ黒色ニテ交叉スル長サ一分以内ノ小楕形ヲ正畫シ廢業中ノモノハ同記號ヲ倒畫スヘシ

第九十三條　砂坑ハ淡雌黄色ニテ塗抹シ尚ホ洋紅色ノ小點ヲ散畫スヘシ但小點ハ左方ノ上部ニ近ツクニ從ヒ稍密且大ナラシムヘシ

第九十四條　礫坑ハ砂坑ト同一ニ施色シ尚ホ洋紅點ヲ大小混淆セシムヘシ

第九十五條　土坑ハ砂坑ト同一ニ施色シ尚ホ烏賊墨色ノ小點ヲ散畫スヘシ

第九十六條　炭燒場ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ直徑一分以内ノ竈形ヲ畫キ淡黒色ニテ塗抹スヘシ

第九十七條　石灰燒場ハ炭燒場ト同一ニ施色シ竈形ハ胡粉ニテ塗抹スヘシ

第九十八條　樟腦製造場ハ炭燒場ト同一ニ施色シ竈形ハ淡洋紅色ニテ塗抹スヘシ

第九十九條　茸類生産場（榾置地）ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ方一分以内ノ茸形ヲ畫クヘシ

第百條　鋸工場ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ直徑一分以内ノ圓鋸形ヲ畫クヘシ

第百一條　水車場ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ直徑一分以内ノ水車形ヲ畫クヘシ

第百二條　製氷場ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ縦八釐横一分以内ノ長方形ヲ畫クヘシ

第百三條　貯木場ハ黒色ニテ長サ一分以内ノ小斧形ヲ畫キ尚ホ左ノ區別ニ從ヒ塗抹スヘシ

一　陸上ナルトキハ淡赭黄色

二　貯水ナルトキハ淡青藍色

第百四條　神社地ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ方一分以内ノ鳥居形ヲ畫クヘシ

第百五條　佛宇地ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ方一分以内ノ卍字形ヲ畫クヘシ

第百六條　墓地ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ尚ホ黒色ニテ方一分以内ノ墓形ヲ畫クヘシ

第百七條　宅地ハ淡赭黄色ニテ塗抹シ家屋ハ左ノ區別ニ從ヒテ塗抹スヘシ

一　御料ニ屬スルモノハ淡藤紫色

二　國有ニ屬スルモノハ淡洋紅色

三　民有ニ屬スルモノハ淡黒色

第百八條　本章中ニ規定スル地物ニシテ特ニ其ノ區域ヲ定メサルモノハ唯當該ノ記號ノミヲ畫クヘシ

第十二章　雜記號

第百九條　縦横線ハ淡洋紅色「インキ」ノ細線ヲ用ヒ縦線ハ六十間毎ニ横線ハ五十間毎ニ之ヲ畫クヘシ

第百十條　毎三百間ノ倍數ナル縦横線ト圖廓ノ接合點ニハ黒色ニテ徑五釐ノ圈ヲ畫キ尚ホ其ノ縦横線數ヲ記入スヘシ

第百十一條　高程曲線ハ鳥賊墨色ニテ高距五間毎ニ幅二毛ノ線ヲ畫キ尚ホ高距二十五間ノ倍數毎ニ其ノ幅ヲ六毛トスヘシ

第百十二條　支廳、事務所、出張所ノ廳舍及分擔區官舍ハ左ノ區別ニ從ヒ黒色ニテ家屋記號ノ上部ニ鹿角形ヲ畫クヘシ

一　支廳及事務所廳舍ハ四枝
二　出張所廳舍ハ三枝
三　分擔區官舍ハ二枝

第百十三條　道路、河川等一林相班内ヲ貫通スルトキハ黒色ニテ乙字形ヲ道路、河川等ノ兩側ニ分畫シ一林相班ナルコトヲ示スヘシ

第十三章　文字

第百十四條　表題ノ字體ハ左ノ區別ニ據リ其ノ大小ハ圖幅ノ廣狹及字數ノ多少ニ應シ左ノ比例ニ應シテ適宜之ヲ定ムヘシ

一	事業區名	篆體	縦一寸二分 横ハ分九厘
二	圖名	同上	縦八分 横ヶ分六厘
三	縮尺ノ比例	明朝體	方四分
四	面積	同上	方五分
五	調製年度	同上	方三分
六	凡例種別	同上	方四分
七	調査員官氏名	同上	方三分
八	製圖員官氏名	同上	方二分五釐
九	目錄圖題字 圖幅名及番號	同上	方三分 方一分

第百十五條　註記ノ字體及大小ハ左ノ區別ニ據ルヘシ

但測點番號ハ特ニ洋紅色ヲ用フヘシ

一	御料地名	篆體　方二分以上
二	國名	隷體　方二分以上
三	郡市名	同上　方一分五釐以上 四分以下
四	町村名	明朝體　方三分以下 一分以上
五	大字名	同上　方二分以下
六	字名	同上　方八釐以上 五釐以下
七	隣接地目	同上　方六釐以上 一分二釐以下
八	三角點名稱	同上　方一分
九	多角測量點番號	亞剌比亞數字 以太利小文字　直立四釐 直立三釐
十	境界點番號	明朝體　方四分
十一	山名	同上　著名山方一分四釐 山及峠方一分
十二	道路及鐵道	同上　方四釐以上
十三	諸水地名	同上　方八釐以下 方四釐以上
十四	圖幅名	同上　方一分四釐以下
十五	圖幅番號	同上　方四分
十六	隣接圖幅名	同上　方三分五釐
十七	高程數	同上　方三分
十八	曲線標高數	亞剌比亞數字 同上（傾斜體）　直立四釐
十九	縦横線數	直立三釐
二十	輪伐區番號	直立六釐
二十一	區劃班番號	羅馬數字　直立三分
二十二	林相班番號	亞剌比亞數字　直立二分
		明朝體　方四釐以上 一分二釐以下

二十三　雜記　同上

第百十六條　多角測量點及境界點番號ハ主要點ヲ除クノ外適宜三點乃至五點毎ニ記入スヘシ

小面積ノ御料地又ハ御料地内ニ孕在スル國有若ハ民有地ニシテ其ノ點數少ナキモノハ毎點番號ヲ記入スヘキモノトス

第百十七條　高程數ハ主要點ニノミ記入スヘシ

但其ノ數ハ三角點及水準點ハ小數二位ヲ其ノ他ノ點ハ小數一位ヲ表示スヘシ

第百十八條　曲線標高數ハ御料地境界内ノ曲線端若ハ山嶺ノ枝脈ニ於テ幹脈ニ向ヒ大曲線中ニ記入スヘシ

第百十九條　御料地ニ接續スル行政區名及隣接地目ノ註記ハ總テ明朝體ヲ用ヒ適宜其ノ大小及配合ヲ定メ御料地ニ向テ記入スヘシ

第百二十條　道路及鐵道ノ註記ハ其ノ上緣ニ沿ヒ緣線ニ直立シテ記入スヘシ

第百二十一條　河川溪谷等ノ註記ハ其ノ緣線ニ沿ヒ上流ヨリ下流ニ書下スヘシ

第百二十二條　道路、鐵道、河川等ノ末端ニ於ケル註記ハ其ノ地物ニ向テ記入スヘシ

第百二十三條　表題及註記ノ文字ハ特ニ本章中ニ規定スルモノヽ、外左ノ區別ニ從ヒ圖廓ト並行シテ記入スヘシ

一　和漢文字ハ上方ヨリ下方若ハ左方ヨリ右方
二　西洋文字ハ左方ヨリ右方

第二編　林業圖

第一章　通則

第百二十四條　林業圖ハ基本圖ニ因リ其ノ尺度ヲ四分一即チ實際ノ一萬分一ノ尺度ニ縮少シテ之ヲ製スヘシ

第百二十五條　林業圖ハ基本圖ニ畫ク所ノ諸地物ノ外**尚ホ樹種、年度級、作業法**及施行期ヲ顯ハスヘシ

第二章　基本圖上ニ存スル諸地物

第百二十六條　基本圖上ニ存スル諸地物ハ特ニ本章中ニ規定スルモノヽ、外基本圖ト同樣ニ畫クヘシ

第百二十七條　測點、測量線、境界標識、御料地内ノ行政區界、地下ノ地物及高程曲線ハ省略スヘシ但三角測點主要點ニ於ケル境界石標及其ノ番號竝ニ高程數ハ之ヲ記入スヘシ

第百二十八條　御料地境界線及區劃線ハ五毛ノ幅ニ畫キ林相班境界線ハ稍之レヨリ細ク畫クヘシ

第百二十九條　各種境界線ハ總テ境界點迄畫クヘシ

第百三十條　境界色緣ハ幅六厘ノ淡色緣トシ**尚ホ**其ノ内方ニ幅三釐ノ濃色緣ヲ附スヘシ

第百三十一條　複線ノ道路、河川等ヲ以テ境界ヲ爲ストキハ其ノ外緣ニ規定ノ色緣ヲ施スヘシ

但道路、河川等ノ**幅**ニシテ色緣ノ幅ト同大**以上**ナルトキハ色緣ヲ省略スヘシ

第百三十二條　複線ニ畫クヘキ區劃線道路及河川等ニシテ實際ノ幅ニ依リテ之ヲ畫クトキハ明瞭ニ其ノ複線ヲ認ムルコト能ハサル場合ニ於テハ之ヲ認メ得ル限度マテ適宜放大シテ畫クヘシ

第百三十三條　區劃線ニ附スル弧線ハ上縁ヲ距ル三盤ノ點ヲ中心トシ六厘ノ半徑ニ畫クヘシ

第百三十四條　施業制限地ノ記號ハ黒色ニテ畫クヘシ

第百三十五條　家屋ハ當該ノ濃色ヲ以テ塗抹スヘシ

第百三十六條　縱横線ハ五十四間七七毎即チ縮尺一町歩ノ正方形又ハ三百間ノ正方形ニ畫クヘシ

但縱横線ト圖廓ノ接合點ニ附スル圈ハ省略スヘシ

第三章　樹種

第百三十七條　林値調査簿中ニ記載スル樹木ノ種類ハ著色及名稱ノ記入ニヨリテ之ヲ顯ハスヘシ

第百三十八條　喬林樹種ハ主樹ニ基キ左ノ區別ニ從ヒテ塗抹スヘシ

一　扁柏、金松及水松類　樺色
二　杉類　焦茶色
三　松及落葉松類　黒色
四　樅、栂及唐檜類　岱赭色
五　濶葉樹類　草綠色

第百三十九條　矮林樹種ハ綠青色ニテ塗抹スヘシ

第百四十條　中林樹種ハ主要樹種ニ基キ第百三十八條或ハ第百三十九條ノ彩料ニテ塗抹スヘシ

第百四十一條　竹林ハ淡藤紫色ニ淡青藍色ヲ混シテ塗抹スヘシ

第百四十二條　樹木ノ名稱ハ左ノ例ニ據リ黒色ニテ其ノ略符號ヲ區劃班若ハ林相班番號ノ右方若ハ下方ニ列記スヘシ

但喬林樹種及中林ノ喬木ハ片假名ヲ用ヒ矮林樹種及中林ノ矮木ハ平假名ヲ用フヘシ

樹木名稱	略符	樹木名稱	略符
アカマツ	マツ	イラモミ	ハリ
クロマツ	マツ	ツガ	ツガ
ヒメコマツ	ゴエ	シラベ	シラ
ゴエフマツ	ゴエ	モミ	モミ
テウセンマツ	ゴエ	ダケモミ	モミ
カラマツ	カラ	ウラジロモミ	モミ
シコタンマツ	カラ	アヲモリトヾマツ	トヾ
タウヒ	タウ	トヾマツ	トヾ
エゾマツ	タウ	カウヤマキ	カウ
シンコマツ	タウ	スギ	スギ
ハリモミ	ハリ	ネズコ	ネズ
ヒバ	ヒバ	クリノキ	クリ
ヒノキ	ヒノ	イヌブナ	ブナ
サハラ	サハ	ブナ	ブナ
マキ	マキ	オニグルミ	クル
イヌガヤ	カヤ	サハグルミ	クル
カヤ	カヤ	ケヤキ	ケヤ
アラヽキ	アラ	ツキ	ケヤ
アカヾシ	カシ	クスノキ	クス

シラカシ	カシ	ホヽノキ	ホヽ
クヌギ	クヌ	カツラ	カツ
コナラ	ナラ	トチノキ	トチ
オホナラ	ナラ	シヲジ	シヲ
カシワ	カワ	雜樹	ザツ

第百四十三條　未立木地ハ空白ニ存スヘシ

未立木地ニシテ立木點生スルトキハ樹種名ノ略符號ヲ記入スヘシ

第四章　年度級

第百四十四條　年度級ハ著色ノ濃淡及年度級數ノ記入ニ依リテ之ヲ顯ハスヘシ

第百四十五條　著色ノ濃淡ハ年度級二個ツヽヲ合シ最淡色ヲ以テ最幼級ヲ塗抹シ老級ニ及フニ從ヒ漸次其ノ著色ヲ濃クスヘシ

第百四十六條　年度級數ハ羅馬數字ヲ用ヒ區劃班若ハ林相班番號ノ右方ニ列記スヘシ

第五章　作業法

第百四十七條　作業法ハ施業案ニ基キ色線ノ畫方ニヨリテ之ヲ顯ハスヘシ

第百四十八條　喬林完伐作業ハ色線ヲ全周ニ畫クヘシ

第百四十九條　喬林區域擇伐作業ハ長サ二分ノ色線ヲ五厘ツヽ隔テヽ畫クヘシ

第百五十條　喬林擇伐作業ハ長サ一分ノ色線ヲ五厘ツヽ隔テヽ畫クヘシ

第百五十一條　矮林作業ハ長サ五厘ノ色線ヲ五厘ツヽ隔テヽ畫クヘシ

第百五十二條　中林作業ハ長サ一分及五厘ノ色線ヲ交互ニ五厘ツヽ隔テヽ畫クヘシ

第百五十三條　離伐ヲ施ス部分ハ喬林完伐作業ニ準シ第一前半期ノ色線ヲ施スヘシ

第百五十四條　施業制限地及竹林ハ色線ヲ省略スヘシ

第六章　施業期

第百五十五條　施業期ハ施業案ニ基キ色線ノ種類ニ依リテ之ヲ顯ハスヘシ但第二期以降ニ屬スル施業期ノ色線ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第百五十六條　施業期ハ左ノ區別ニ從ヒ幅三厘ノ濃色線ヲ畫クヘシ

第一前半期　洋紅色
第一後半期　空青色
第二期　藤紫色
第三期　綠青色
第四期以降　雌黄色

第百五十七條　一區劃班內ニ於ケル同一作業級ノ林相班ニシテ同一期内ニ斫伐スヘキモノ相接續スルトキハ其ノ全區域ヲ合シテ色線ヲ畫クヘシ

第百五十八條　中林作業ハ主要樹種ニ基キ第百五十六條ノ色線ヲ畫クヘシ

第百五十九條　一林相班ニシテ二以上ノ施業期ニ涉ルトキハ各施業期ニ於ケル斫伐見込區域ノ林相班界ニ第百五十六條ノ色線ヲ畫クヘシ

第百六十條　一林相班ニシテ一輪伐期間ニ二回以上斫伐スヘキモノハ第二回ノ施業期ニ依リ色線ヲ畫クヘシ

第三編　地形圖

第百六十一條　地形圖ハ林道ノ設計其ノ他施業上ニ必要ナル場合ニ限リ調製スヘシ

第百六十二條　地形圖ハ基本圖ニ因リ其ノ尺度ヲ四分一即チ實際ノ二萬分一ノ尺度ニ縮少シテ之ヲ製スヘシ

第百六十三條　地形圖ハ基本圖ニ畫ク諸地物中地形ノ表示ニ關スルモノヽミヲ摘畫スヘシ

第百六十四條　地形圖ハ左ニ規定スルモノヽ外基本圖ト同樣ニ畫クヘシ

一　多角測量點、測量線、主要點外ノ標識、岩石地外ノ林業外地ハ省略スヘシ

二　三角點ハ等級ノ區別ヲ附セス總テ黑色ニテ一邊ノ長サ六厘ノ正三角形ヲ畫クヘシ

三　水準石標及水準木標ハ黑色ニテ畫クヘシ

四　各種界線ノ畫方ハ第百二十八條ニ據ルヘシ

五　各種界線ハ石標ヲ設置シタル境界點ノ外境界點迄畫クヘシ

六　境界色線ノ畫方ハ第百三十條及第百三十一條ニ據ルヘシ

七　區劃線、通路、河川等ノ畫方ハ第百三十二條ニ據ルヘシ

八　區劃線ニ附スル弧線ノ畫方ハ第百三十三條ニ據ルヘシ

九　岩石地ハ其ノ記號ヲ黑色ニテ畫クヘシ

十　縱橫線ノ畫方ハ第百三十六條ニ據ルヘシ

彩料一覽表

朱	洋紅	Carmine
	青藍	Prussian blue
	雌黃	Gamboge
	草綠	Hooker's green No. 1.
	綠青	Emerald green
	空青	Cobalt blue
	岱赭	Light red
	赭黃	Yellow ochre
	樺	Chrome orange
	焦茶	Olive green
	烏賊墨	Sepia
	藤紫	Mauve
	胡粉	Chinese white
	赤インキ（別紙圖略ス）	Red ink（浸染セサル毛ノヲ用フベシ）

御料林施業照査心得

明治四十五年六月十七日
第二八五六號長官達

第一條　施業案ニ依リ植伐事業ヲ施行シタルトキハ事業區毎ニ施業簿ヲ調製シ尚ホ喬林ニ於テ斫伐シタルトキハ斫伐照査簿ヲ調製シテ施業ノ照査ヲ行フヘシ

第二條　施業簿ハ植伐事業ノ成蹟ヲ明ニスルヲ以テ目的トシ第一號樣式ニ據リ調製スヘシ

第三條　施業簿ハ林業地ノ林相班毎ニ順次ニ口取ヲ設ケ木竹處分簿及造林實行簿（植林ノ部）ニ基キ每年施行シタル斫伐及造林ノ成蹟竝林內ニ生シタル被害其ノ他ノ事項ヲ記載スヘシ

施業案實施前ニ於ケル植林事業ニシテ其ノ成蹟ヲ調査シ得ヘキモノハ之ヲ施業簿ニ記載スヘシ

第四條　施業簿ニハ喬林完伐作業ニ屬スル一林相班ノ主伐ヲ終了シタルトキハ其ノ收穫額ヲ合計シ之ヲ施業案ノ見積　積ニ對比シテ其ノ增減ヲ算出スヘシ但シ作業上ノ必要ニ依リ存置木ヲ殘シタルトキハ主伐ヲ終了シタルモノト看做スヘシ

第五條　施業簿ノ面積ハ左ノ區別ニ從ヒ記載スヘシ

一　斫伐事業ニ在リテハ主伐面積ハ墨書シ又其ノ面積ニシテ重複ニ亘ルモノ及間伐面積ハ朱書スヘシ

二　殖林事業ニ在リテハ植栽及下種ニ係ル面積ハ墨書シ又其ノ面積ニシテ重複ニ亘ルモノ及補殖、下刈其ノ他ニ係ル面積ハ朱書スヘシ

第六條　斫伐照査簿ハ喬林作業ニ屬スル各林相班ノ實際主伐額ヲ施業案見積材積ニ對比シ尚ホ喬林施業案ノ斫伐指定額ト每年ノ實際主伐總額トヲ參酌シテ將來斫伐シ得ヘキ照査額ヲ定ムルヲ以テ目的トシ之ヲ甲乙二部ニ分チ第二號樣式及第三號樣式ニ據リ調製スヘシ

第七條　斫伐照査簿甲號ニハ施業簿ニ基キ每年喬林完伐作業ニ屬スル林相班ノ主伐ヲ終了シタルモノニ對スル施業案見積材積、實際主伐額及其ノ增減收額ヲ記載スヘシ

第八條　斫伐照査簿乙號ニハ喬林ニ屬スル各作業級ヲ通シ照査年度ノ前年ニ於テ斫伐シタル主伐總額ヲ該年度ニ於ケル斫伐豫定額ニ對比シテ其ノ過不足ヲ計算シ過伐額ハ斫伐指定額ヨリ減シ不足伐額ハ之ヲ加算シ尚ホ斫伐照査簿甲號ニ基キ實際主伐額ノ施業案見積材積ヨリ增收額アリタルトキハ之ヲ加算シ減收額アリタルトキハ之ヲ減シテ翌年度ニ斫伐シ得ヘキ照査額ヲ算定記載スヘシ但シ擇伐作業級ニ屬スル斫伐照査額ハ之ヲ完伐作業ニ屬スルモノト區別シテ算定スルコトヲ得

第九條　施業簿及斫伐照査簿ノ記載方ハ各樣式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ

附則

第十條　施業案編成未濟地ニ係ル植伐ノ成蹟ハ本心得ニ準シ施業簿ヲ調製シ適宜記載スヘシ

（樣式）

記入番號	研伐豫定年度	研伐照査年度	摘要	材積 針葉樹 m³	材積 濶葉樹 m³	材積 計 m³	備考
			増收額	+101	—	—	
			減收額	—	−1,819.5	−1,809.4	
			故＝10年度以降五ケ年間＝研伐シ得ヘキ照査額	62,647.9	33,321.4	95,969.3	
			卽10年度＝研伐シ得ヘキ照査額	(12,529.6)	(6,664.3)	(19,193,9)	昭和年月日檢閱㊞
			然ルニ10年度研伐豫定額	12,358.0	6,078.8	18,436.8	
			差引殘額	50,289.9	27,242.6	77,532.5	
6	11	10	11年度以降四ケ年間＝研伐シ得ヘキ殘額 上記研伐殘額＝加減スヘキ額次ノ如シ	50,289.9	27,242.6	77,532.5	
				—	—	—	
			9 年度研伐豫定額	(12,358.0)	(6,880.4)	(19,238.4)	
			同年度＝研伐シタル額	(11,690.0)	(6,546.4)	(18,236.4)	
			差引 過伐額	—	—	—	
			差引 不足伐額	+668.0	+334.0	+1,002.0	
			照査簿甲號記入番號3＝依レハ見積材積＝對スル實收額ノ增減	—	—	—	
			增收額	+4,652.4	—	+4,523.8	
			減收額	—	−128.6	—	
			故＝11年度以降四ケ年間＝研伐スヘキ照査額	55,610.3	27,448.0	83,058.3	
			卽11年度＝於テ研伐シ得ヘキ照査額	(13,902.6)	(6,862.0)	(20,764.6)	昭和年月日檢閱㊞
			然ルニ11年度研伐豫定額	14,028.0	6,680.0	20,708.0	
			差引殘額	41,582.3	20,768.0	62,350.3	
7	12	11	12年度以降三ケ年間＝研伐シ得ヘキ殘額 上記研伐殘額＝加減スヘキモノ次ノ如シ	41,582.3	20,768.0	62,350.3	
			10年度研伐豫定額	(12,358.0)	(6,078.8)	(18,436.8)	
			同年度＝於テ研伐シタル額	(13,026.0)	(6,412.8)	(19,438.8)	

記入番號	研伐豫定年度	研伐照査年度	摘要	材積 針葉樹 m³	材積 濶葉樹 m³	材積 計 m³	備考
			差引 過伐額	−668.0	−334.0	−1,002.0	
			差引 不足伐額	—	—	—	
			故＝12年度以降三ケ年間＝研伐シ得ヘキ照査額	40,914.3	20,434.0	61,348.3	
			卽12年度＝於テ研伐シ得ヘキ照査額	(13,638.1	(6,811.3)	(20,449.4)	昭和年月日檢閱㊞
			然ルニ12年度研伐豫定額	12,358.0	7,287.9	19,645.9	
			差引殘額	28,556.3	13,146.1	41,702.4	
8	13	12	13年度以降二ケ年間＝研伐シ得ヘキ殘額 上記ノ研伐殘額＝加減スヘキモノ次ノ如シ	28,556.3	13,146.1	41,702.4	
			11年度研伐豫定額	(14,028.0)	(6,680.0)	(20,708.0)	
			同年度＝於テ研伐シタル額	(13,861.0)	(7,348.0)	(21,209.0)	
			差引 過伐額		−668.0	−501.0	
			差引 不足伐額	+167.0			
			故＝13年度以降二ケ年間＝研伐シ得ヘキ照査額	28,723.3	12,478.1	41,201.4	
			卽13年度＝於テ研伐シ得ヘキ照査額	(14,361.7)	(6,239.0)	(20,600.7)	昭和年月日檢閱㊞
			然ルニ13年度研伐豫定額	14,028.0	6,179.0	20,207.0	
			差引殘額	14,695.3	6,299.1	20,994.4	
9	14	13	14年度＝於テ研伐シ得ヘキ殘額	14,695.3	6,299.1	20,994.4	
			上記ノ研伐殘額＝加減スヘキモノ次ノ如シ				
			12年度研伐豫定額	(12,358.0)	(7,287.9)	(19,645.9)	
			同年度＝於テ研伐シタル額	(12,859.0)	(6,887.1)	(19,746.1)	
			差引 過伐額	−501.0		−100.2	
			差引 不足伐額		+400.8		
			故＝14年度＝於テ研伐シ得ヘキ照査額	(14,194.3)	(6,699.9)	(20,894.2)	昭和年月日檢閱㊞
			然ルニ14年度研伐豫定額	14,575.0	6,807.1	21,382.1	實査ノ結果材積增加シタルニ由ル

記入番號	研伐豫定年度	研伐照査年度	摘要	材積 針葉樹 m³	材積 濶葉樹 m³	材積 計 m³	備考
1	6	5	5 年度以降十ケ年間ノ研伐指定額	123,580.0	70,140.0	193,720.0	
			5 年度研伐豫定額	10,688.0	6,680.0	17,368.0	
			故＝6年度以降九ケ年間＝研伐シ得ヘキ照査額	112,892.0	63,460.0	176,352.0	
			即6年度＝研伐シ得ヘキ照査額	(12,543.7)	(7,051.1)	(19,594.8)	昭和年月日檢閲㊞（監督認印以下同斷）
			然ルニ6年度研伐豫定額	12,692.0	6,680.0	19,372.0	
			差引殘額	100,200.0	56,780.0	156,980.0	
2	7	6	7 年度以降八ケ年間＝研伐シ得ヘキ殘額	100,200.0	56,780.0	156,980.0	
			上記ノ研伐殘額＝加減スヘキモノ次ノ如シ				
			5 年度研伐豫定額	(10,688.0)	(6,680,0)	(17,368.0)	
			同年度＝於テ研伐シタル額	(11,690.0)	(8,350.0)	(20,040.0)	
			差引 過伐額	−1,002.0	−1,670.0	−2,672.0	
			差引 不足伐額	—			
			故＝7年度以降八ケ年間＝研伐シ得ヘキ照査額	99,198.0	55,110.0	154,308.0	
			即7年度＝於テ研伐シ得ヘキ照査額	(12,399.8)	(6,888.8)	(19,288.6)	昭和年月日檢閲㊞ 何々ノ事由ニ由リ研伐額ヲ照査額ヨリ減セリ
			然ルニ7年度研伐豫定額	11,690.0	6,012.0	17,702.0	
			差引殘額	87,508.0	49,098.0	136,606.0	
3	8	7	8 年度以降七ケ年間＝研伐シ得ヘキ殘額	87,508.0	49,098.0	136,606.0	
			上記ノ研伐殘額＝加減スヘキモノ次ノ如シ				
			6 年度研伐豫定額	(12,692,0)	(6,680.0)	(19,372,0)	
			同年度＝於テ研伐シタル額	(12,024.0)	(7,014.0)	(19,038.0)	
			差引 過伐額	—	— 334.0	—	
			差引 不足伐額	+ 668.0	—	+ 334.0	
			照査簿甲號記入番號1.ニ依レハ見積材積ニ對スル實際研伐額ノ增減				

注意　本表以下數字ニ括弧ヲ附シタルモノハ總テ朱書スルモノトス

記入番號	研伐豫定年度	研伐照査年度	摘要	材積 針葉樹 m³	材積 濶葉樹 m³	材積 計 m³	備考
			增收額	+1,332.1	+ 288.0	+1,620.1	
			減收額	—	—	—	
			故＝8年度以降七ケ年間＝研伐シ得ヘキ照査額	89,508.1	49,052.0	138,560.1	
			即8年度＝於テ研伐シ得ヘキ照査額	(12,786.9)	(7,007.4)	(19,794.3)	昭和年月日檢閲㊞ 何々ノ事由ニヨリ研伐額ヲ照査額ヨリ增加セリ
			然ルニ8年度＝於ケル研伐豫定額	14,178.3	6,028.7	20,207.0	
			差引殘額	75,329.8	43,023.3	118,353.1	
4	9	8	9 年度以降六ケ年間＝研伐シ得ヘキ殘額	75,329.8	43,023.3	118,353.1	
			上記ノ研伐殘額＝加減スヘキモノ次ノ如シ	—	—	—	
			7 年度研伐豫定額	(11,690.0)	(6,012.0)	(17,702.0)	
			同年度＝於テ研伐シタル額	(12,692.0)	(6,680.0)	(19,372.0)	
			差引 過伐額	- 1,002.0	— 668.0	−1,670.0	
			差引 不足伐額	—	—	—	
			故＝9年度以降六ケ年間＝研伐シ得ヘキ照査額	74,327.8	42,355.3	116,683.1	
			即9年度＝於テ研伐シ得ヘキ照査額	(12,388.0)	(7,059.5)	(19,447.2)	昭和年月日檢閲㊞
			然ルニ9年度研伐豫定額	12,358.0	6,880.4	19,238.4	
			差引殘額	61,969.8	35,474.9	97,444.7	
5	10	9	10年度以降五ケ年間＝研伐シ得ヘキ殘額	61,969.8	35,474.9	97,444.7	
			上記ノ研伐殘額＝加減スヘキモノ次ノ如シ	—	—	—	
			8 年度研伐豫定額	(14,178.3)	(6,028.7)	(20,207.0)	
			同年度＝於テ研伐シタル額	(13,510.3)	(6,362.7)	(19,873.0)	
			差引 過伐額	—	— 334.0	—	
			差引 不足伐額	+ 668.0	—	+ 334.0	
			照査簿甲號記入番號2ニヨレハ見積材積ニ對スル實際收額ノ增減				

事業區

斫伐照査簿

乙號

作業級	施業案年伐材積
I. 喬林皆伐作業	8,350.0
II. 喬林漸伐作業	7,014.0
III. 喬林擇伐作業	4,008.0
計	19,372.0

支局

出張所

記入番號	研伐終了年度	作業級	御料地名	輪伐區	林相區劃班	施業案見積材積 針葉樹 m³	濶葉樹 m³	計 m³
1	6	I	甲	I	1イ	1,728.0	1,152.0	2,880.0
	〃	〃	〃	〃	2イ	2,835.0	1,215.0	4,050.0
	計					4,563.0	2,367.0	6,930.0
2	8	I	乙	I	5	6,336.0	4,224.0	10,560.0
	計					6,336.0	4,224.0	10,560.0
3	9	I	乙	I	10	6,500.0	—	6,500.0
	小計					6,500.0	—	6,500.0
	9	II	乙	II	20イ	8,553.6	950.4	9,504.0
	小計					8,553.6	950.4	9,504.0
	計					15,053.6	950.4	16,004.0

實際研伐材積 針葉樹 m³	濶葉樹 m³	計 m³	施業案見積材積ニ對スル實際研伐材積ノ增減(±) 針葉樹 m³	濶葉樹 m³	差引計 m³	備考
2,221.1	1,653.3	3,874.4	+ 493.1	+ 501.3	+ 994.4	
3,674.0	1,002.0	4,676.0	+ 839.0	− 213.3	+ 625.7	
5,895.1	2,655.3	8,550.4	+1,332.1	+ 288.0	+1,620.1	昭和年月日照査簿乙號ニ轉載濟㊞（出張所長認印以下同斷）
6,346.1	2,404.5	8,750.6	+ 10.1	−1,819.5	−1,809.4	
6,346.1	2,404.5	8,750.6	+ 10.1	−1,819.5	−1,809.4	昭和年月日照査簿乙號ニ轉載濟㊞
9,018.0	20.3	9,038.3	+2,518.0	+ 20.3	+2,538.3	
9,018.0	20.3	9,038.3	+2,518.0	+ 20.3	+2,538.3	
10,688.0	801.5	11,489.5	+2,134.4	− 148.9	+1,985.5	
10,688.0	801.5	11,489.5	+2,134.4	− 148.9	+1,985.5	
19,706.0	821.8	20,527.8	+4,652.4	− 128.6	+4,523.8	昭和年月日照査簿乙號ニ轉載濟㊞

部				
經費		補殖部合	同數	備考
總額	平均ha當一			
円	円			
(115.50) 297.50	(3.30) 8.50			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
532.00	15.20			混生セル雜木ヲ刈拂フ

部	
價木	
闊葉樹	
用材	燃材
円	円
	32.48

事業區

斫伐照査簿

甲號

支局

出張所

作業級擇伐　輪伐區 II　區劃班 / 林相班 25ィ　面積 35.00 ha　施業期 I_1

施業案見積材積 7,700.0 m³
內 針葉樹 6,160.0
　濶葉樹 1,540.0

斫伐ノ部																						造林ノ部									
年度	主間收額ノ區別	斫伐法	面積 ha	針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝條 m³	根株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円	備考	年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平ha均一當 円	補殖部合
5	主收額	擇伐	35 00	1,169 0		1,169 0				1,169 0			3,623 90					3,623 90	火災ニ罹リタル枯損木ヲ雜木ト共ニ伐採ス										
8	〃	〃	(35 00)	734 8		734 8		20 3	20 3	755 1			2,204 40			32 48		2,236 88											

事記　昭和　年　月　日野火延燒セリ

面積 35.00 ha　施業期 I_1

施業案見積材積 7,700.0 m³
内 針葉樹 6,160.0
　 濶葉樹 1,540.0

伐ノ部												造林ノ部												
濶葉樹材積			材積合計	枝條	根株	原木價額						備考	年度	種目	面積	樹種	苗齢	員數		經費		補殖部合	回數	備考
						針葉樹		濶葉樹		枝條、根株	計							毎ha	總數	總額	平ha均一當			
用材	燃材	計				用材	燃材	用材	燃材															
m³	m³	m³	m³	m³	箇	円	円	円	円	円	円				ha			本	本	円	円			
			1,169.0			3,623.90					3,623.90	火災ニ罹リタル枯損木ヲ雜木ト共ニ伐採ス												
	20.3	20.3	755.1			2,204.40			32.48		2,236.88													

セリ

事業

研伐照

甲

支

出張

作業級 漸伐　輪伐區 II　區劃班 / 林相班 20ノ1　面積 35.20 ha　施業期 I_1

施業案見積材積 9,504.0 m³
內 針葉樹 8,553.6
　濶葉樹 950.4

斫伐ノ部

年度	主間收額ノ區別	斫伐法	面積 ha	針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝條 m³	根株箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
5	主收額	下種伐	(35 00)	5,010 0		5,010 0			801 5	801 5	5,811 5			19,539 00			1,442 70	20,981 70
9	〃	後伐	35 00	5,678 0		5,678 0					5,678 0			23,847 60				23,847 60
	計		35 00	10,688 0		10,688 0			801 5	801 5	11,489 5			43,386 60			1,442 70	44,829 30
	施業案見積額		35 20			8,553 6			950 4		9,504 0							
	差引	增減	— 20			+2,134 4			− 148 9	+1,985 5								

造林ノ

年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平均一ha 円	備考
							(115 50)	(3	
15	補殖	35 00	ヒノキ	5	600	21,000	297 50	8	
19	掃除伐	(35 00)					532 00	15	

昭和年月日照査簿甲號ニ傳載ノ㊞斫伐面積ノ相違ハ實測ノ結果ニ依ル

輪伐區 II　區劃班 / 林相班　20ィ　面積 35.20 ha　施業期 I1

施業案見積材積 9,504.0 m³
內 針葉樹 8,553.6
　 濶葉樹 950.4

伐ノ部

針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝條 m³	根株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
0 0		5,010 0			801 5	801 5	5,811 5			19,539 00			1,442 70		20,981 70
8 0		5,678 0					5,678 0			23,847 60					23,847 60
8 0		10,688 0			801 5	801 5	11,489 5			43,386 60			1,442 70		44,829 30
		8,553 6				950 4	9,504 0								
		+2,134 4				− 148 9	+1,985 5								

造林ノ部

備考	年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平ha均一當 円	補植部合	同數	備考
	15	補植	35 00	ヒノキ	5	600	21,000	(115 50)	(3 30)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
								297 50	8 50			
	19	掃除伐	(35 00)					532 00	15 20			混生セル雜木ヲ刈拂フ
昭和年月日照査簿甲號ニ轉載ⓐ斫伐面積ノ相違ハ實測ノ結果ニ依ル												

ノ　部

數	經費		補殖部合	回數	備考
總數 本	總額 円	平均一當 ha 円			
	864 00	27 00			
96,000	(552 00)	(17 25)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
48,000	672 00	21 00			
	260 80	8 15			
	260 80	8 15			
	243 20	7 60			

價

作業級 漸伐　輪伐區 II　區劃班 / 林相班 } 20ノ1　面積 35.20 ha　施業期 I1

年度	主收額ノ區別	伐法	面積 ha	伐 針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³
5	主收額	下種伐	(35 00)	5,010 0		5,010 0		801 5	801 5 0
9	〃	後伐	35 00	5,678 0		5,678 0			
	計		35 00	10,688 0		10,688 0		801 5	801 5
	施業案	見積額	35 20			8,553 6			950 4
	差引	增減	— 20			+2,134 4			- 148 9

作業級皆伐　輪伐區 I　區劃班 / 林相班　10　面積 25.00 ha　施業期 I_2

施業案見積材積 6,500.0 m³
內 針葉樹 6,500.0
　 濶葉樹

伐ノ部

年度	主間收額ノ區別	伐法	面積 ha	針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝條 m³	根株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
5	間收額	擇伐	(.20)	16 7		16 7				16 7			25 05					25 05
8	主收額	皆伐	12 00	5,010 0		5,010 0		2 03	2 03	5,030 3			27,054 00			34 51		27,088 51
9	〃	〃	13 00	4,008 0		4,008 0				4,008 0			20,440 80					20,440 80
內 計			25 00	9,034 7		9,034 7		2 03	2 03	9,055 0			47,519 85			34 51		47,554 36
	間收額			16 7		16 7				16 7								
	主收額			9,018 0		9,018 0		2 03	2 03	9,038 3								
	施業案	見積額	25 00	6,500 0		6,500 0			0	6,500 0								
	差引	增減	0	+2,518 0		+2,518 0			+ 2 03	+2,538 3								

記事　5年度伐採跡地ノ內 1ha ハ移動苗圃トシテ一時使用ス

造林ノ部

備考	年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平ha均一當 円	補殖部合
枯損木ヲ伐採ス	12	地拵	(11 00)					325 60	29 60	
何々ノ事由ニ依リ伐採ス	13	新植	11 00	スギ	3	4,500	49,500	(178 20) 272 80	(16 20) 24 80	
〃	14	下刈	(11 00)					101 20	9 20	
	14	地拵	(13 00)					399 36	30 72	
	15	新植	13 00	スギ	3	4,500	58,500	(210 60) 332 80	(16 20) 25 60	
	15	下刈	(24 00)					177 60	7 40	
昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞										

10　面積 25.00 ha　施業期 I_2

施業案見積材積 6,500.0 m³
内 針葉樹 6,500.0
　 濶葉樹

伐　ノ　部

積	濶葉樹材積			材積合計	枝	根	原木價額						備考
							針葉樹		濶葉樹		枝條、根株		
計 m³	用材 m³	燃材 m³	計 m³	m³	條 m³	株 箇	用材 円	燃材 円	用材 円	燃材 円	円	計 円	
16 7				16 7			25 05					25 05	枯損木ヲ伐採ス
5,010 0		20 3	20 3	5,030 3			27,054 00			34 51		27,088 51	何々ノ事由ニ依リ伐採ス
4,008 0				4,008 0			20,440 80					20,440 80	〃
9,034 7		20 3	20 3	9,055 0			47,519 85			34 51		47,554 36	
16 7				16 7									
9,018 0		20 3	20 3	9,038 3									
6,500 0			0	6,500 0									昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞
2,518 0			+ 20 3	+2,538 3									

造　林　ノ　部

年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平均一當 円	補植部合	回數	備考
12	地拵	(11 00)					325 60	29 60			
13	新植	11 00	スギ	3	4,500	49,500	(178 20) 272 80	(16 20) 24 80			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
14	下刈	(11 00)					101 20	9 20			
14	地拵	(13 00)					399 36	30 72			
15	新植	13 00	スギ	3	4,500	58,500	(210 60) 332 80	(16 20) 25 60			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
15	下刈	(24 00)					177 60	7 40			

ハ移動苗圃トシテ一時使用ス

作業級 漸伐

研

年度	主間收收額ノ區別	研伐法	面積 ha	
5	主收額	下種伐	(35 00)	5,
9	〃	後伐	35 00	5,
	計		35 00	10,
	施業案	見積額	35 20	
	差引	增減	—20	

作業級皆伐　輪伐區 I　區劃班 / 林相班 } 5　面積 32.00 ha　施業期 I_1

施業案見積材積 10,560.0 m³
內 { 針葉樹 6,336.0
　　濶葉樹 4,224.0

斫伐ノ部

年度	主間收額ノ區別	斫伐法	面積 ha	針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝條 m³	根株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
5	主收額	擇伐	(32 00)	4,008 0	2,004 1	6,012 1				6,012 1			16,032 00	3,206 56				19,238 56
8	〃	皆伐	32 00	334 0		334 0		2,404 5	2,404 5	2,738 5			1,336 00			8,415 75		9,751 75
	計		32 00	4,342 0	2,004 1	6,346 1		2,404 5	2,404 5	8,750 6			17,368 00	3,206 56		8,415 75		28,990 31
	施業案	見積額	32 00			6,336 0			4,224 0	10,560 0								
	差引	增減	0			+ 10 1			-1,819 5	-1,809 4								

造林ノ部

備考	年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平均一當 円	補殖部合	回數	備
火災ノ爲メ枯損木トナリタルニ依リ伐採ス	11	地拵	(32 00)					864 00	27 00			
	12	新植	32 00	スギ	3	3,000	96,000	(552 00)	(17 25)			苗木ハ
				ヒノキ	3	1,500	48,000	672 00	21 00			
	13	下刈	(32 00)					260 80	8 15			
	14	下刈	(32 00)					260 80	8 15			
昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞	15	下刈	(32 00)					243 20	7 60			

記事　昭和 年 月 日野火ノ爲メ延燒、

伐　輪伐區 I　區劃班 / 林相班 } 5　面積 32.00 ha　施業期 I_1

施業案 見積材積 10,560.0 m³
內 針葉樹 6,336.0
濶葉樹 4,224.0

伐採ノ部

針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝條 m³	根株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
4,008 0	2,004 1	6,012 1				6,012 1			16,032 00	3,206 56				19,238 56
334 0		334 0		2,404 5	2,404 5	2,738 5			1,336 00			8,415 75		9,751 75
4,342 0	2,004 1	6,346 1		2,404 5	2,404 5	8,750 6			17,368 00	3,206 56		8,415 75		28,990 31
		6,336 0			4,224 0	10,560 0								
		+ 10 1			-1,819 5	-1,809 4								

年　月　日野火ノ爲メ延燒、

造林ノ部

備考	年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平均一ha當 円	補殖部合	回數	備考
火災ノ爲メ枯損木トナリタルニ依リ伐採ス	11	地拵	(32 00)					864 00	27 00			
	12	新植	32 00	スギ	3	3,000	96,000	(552 00)	(17 25)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
				ヒノキ	3	1,500	48,000	672 00	21 00			
	13	下刈	(32 00)					260 80	8 15			
	14	下刈	(32 00)					260 80	8 15			
昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞	15	下刈	(32 00)					243 20	7 60			

作業級皆伐　輪伐區 I　區劃班 / 林相班 } 5　面積 32.00 ha　施業期 I_1

年度	主收額ノ區別	間伐法	面積 ha	針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³
5	主收額	擇伐	(32 00)	4,008 0	2,004 1	6,012 1			
8	〃	皆伐	32 00	334 0		334 0		2,404 5	2,404 5
	計		32 00	4,342 0	2,004 1	6,346 1		2,404 5	2,404 5
	施業案	見積額	32 00			6,336 0			4,224 0
	差引	增減	0			+ 10 1			-1,819 5

記事　昭和　年　月　日野火ノ爲メ延燒、

ノ部

數 總數 本	經費 總額 円	經費 平均一當 ha 円	補殖部合	間數	備考
	208 20	34 70			
	(50 40)	(8 40)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
3,000	125 40	20 90			朱書ハ官苗代(以下同斷)
	50 40	8 40			
	(50 40)	(8 40)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
3,000	333 60	55 60			地拵費ヲ含ム
	(5 40)	(90)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
1,800	36 60	6 10	0.10		
	112 80	9 40			
	(4 80)	(80)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
1,200	26 40	4 40	0.07		
	100 80	8 40			
	35 70	11 90			
	(54 00)	(18 00)			昭和年月日火災ニ罹リタルニ依リ改植　苗木ハ何苗圃ヨリ供給
3,500	76 50	25 50			

部價

樹燃材 円
701 19
701 19

ノハ總テ朱書スルモノトス

作業級皆伐　輪伐區 I　區劃班 / 林相班 2ｲ　面積 15.00 ha　施業期 I_1

施業案見積材積 4,050.0 m³
內 針葉樹 2,835.0 m³
　濶葉樹 1,215.0 m³

伐ノ部

年度	主收額ノ區別	伐法	面積 ha	針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝 條 m³	根 株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
5	主收額	擇伐	(14.00)					1,001.7	1,001.7	1,001.7						701.19		701.19
6	〃	皆伐	14.00	3,674.0		3,674.0				3,674.0			18,737.40					18,737.40
	計		14.00	3,674.0		3,674.0		1,001.7	1,001.7	4,675.7			18,737.40			701.19		19,438.59
	施業案見積額		15.00			2,835.0			1,215.0	4,050.0								
	差引	增減	1.00			+ 839.0			−213.3	+ 625.7								
	存	置木	1.00			167.0			33.4	200.4								

造林ノ部

年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平ha均一當 円	備考
8	地拵	(14.00)					476.00	34.00	何々ノ事由ニヨリ濶葉樹ノミヲ伐採ス
							(220.50)	(15.75)	
9	新植	14.00	スギ	3	4,500	63,000	309.40	22.10	濶葉樹伐採跡地ノ針葉樹ヲ伐採ス
〃	下刈	(14.00)					142.80	10.20	
							(14.70)	(1.05)	
10	補植	(14.00)	スギ	3	300	4,200	85.40	6.10	
〃	下刈	(14.00)					128.80	9.20	昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞絶檢地ヘ生立シタル樹木ニシテ保安ノ爲メ存置ス

施業案見積材積 4,050.0 m³
内 針葉樹 2,835.0
　 濶葉樹 1,215.0

伐區 I 區劃班 / 林相班 2ｲ　面積 15.00 ha　施業期 I_1

伐ノ部

濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝條 m³	根株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	原木價額 針葉樹 燃材 円	原木價額 濶葉樹 用材 円	原木價額 濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
	1,001 7	1,001 7	1,001 7						701 19		701 19
		3,674 0	3,674 0			18,737 40					18,737 40
	1,001 7	1,001 7	4,675 7			18,737 40			701 19		19,438 59
		1,215 0	4,050 0								
		−213 3	+625 7								
		33 4	200 4								

造林ノ部

備考	年度	種目	面積 ha	樹種	苗齢	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平均一當 円	補植 部合	回數	備考
何々ノ事由ニヨリ濶葉樹ノミヲ伐採ス	8	地拵	(14 00)					476 00	34 00			
								(220 50)	(15 75)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
濶葉樹伐採跡地ノ針葉樹ヲ伐採ス	9	新植	14 00	スギ	3	4,500	63,000	309 40	22 10			
	〃	下刈	(14 00)					142 80	10 20			
								(14 70)	(1 05)			苗木ハ何苗圃ヨリ供給
	10	補植	(14 00)	スギ	3	300	4,200	85 40	6 10	0.07		
昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞絶險地ヘ生立シタル樹木ニシテ保安ノ爲メ存置ス	〃	下刈	(14 00)					128 80	9 20			

年度	主收額ノ區別	研
5	主收額	擇
8	〃	皆
	計 施業案	見積
	差引	增減

作業級皆伐　輪伐區 I　區劃班 / 林相班 } 1イ　面積 12·00 ha　施業期 I$_1$

施業案見積材積 2,880.0 m³
内 { 針葉樹 1,728.0 / 濶葉樹 1,152.0

伐ノ部

年度	主収額ノ區別	伐法	面積 ha	針葉樹材積 用材 m³	針葉樹材積 燃材 m³	針葉樹材積 計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	濶葉樹材積 燃材 m³	濶葉樹材積 計 m³	材積合計 m³	枝 條 m³	根 株 箇	原木價額 針葉樹 用材 円	針葉樹 燃材 円	濶葉樹 用材 円	濶葉樹 燃材 円	枝條、根株 円	計 円
5	主收額	皆伐	6 00	1,152 3		1,152 3		801 5	801 5	1,953 8	33 4		4,378 74			1,202 25	40 08	5,621 07
6	〃	〃	6 00	1,068 8		1,068 8	250 5	601 3	851 8	1,920 6	40 1		4,595 84		626 25	661 43	36 09	5,919 61
	計		12 00	2,221 1		2,221 1	250 5	1,402 8	1,653 3	3,874 4	73 5		8,974 58		626 25	1,863 68	76 17	11,540 68
	施業案見積額		12 00			1,728 0			1,152 0	2,880 0								
	差引 増減		0			+ 493 1			+ 501 3	+ 994 4								

昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞
（出張所長認印以下同斷）

造林ノ部

備考	年度	種目	面積 ha	樹種	苗齡	員數 每ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平ha均一當 円	補殖部合	同數	備
	8	地拵	(6 00)					208 20	34 70			
	9	新植	6 00	スギ	3	3,000	18,000	125 40	20 90			苗木ハ何苗圃 朱書ハ官苗
	〃	下刈	(6 00)					50 40	8 40			
	10	新植	6 00	スギ	3	3,000	18,000	(50 40) 333 60	(8 40) 55 60			苗木ハ何苗圃 地拵費ヲ含ム
	〃	補殖	(6 00)	スギ	3	300	1,800	(5 40) 36 60	(90) 6 10	0.10		苗木ハ何苗圃
	〃	下刈	(12 00)					112 80	9 40			
	11	補殖	(6 00)	スギ	3	200	1,200	(4 80) 26 40	(80) 4 40	0.07		苗木ハ何苗圃
	〃	下刈	(12 00)					100 80	8 40			
	12	地拵	(3 00)					35 70	11 90			
	13	改植	(3 00)	スギ	4	4,500	13,500	(54 00) 76 50	(18 00) 25 50			昭和年月日火 ルニ依リ改植 苗圃ヨリ供給

記事 1. 昭和　年　月　日野火ノ爲メ杉新植地　ha燒失セリ、
2. 昭和　年　月　日出水ノ爲メ　ha崩壞セリ、
3. 昭和　年　月　日崩壞地ニ砂防工事ヲ施行ス此經費　圓、

注意　本表以下數字ニ括弧ヲ付シタルモノハ總テ朱書スルモノトス

ha
2·00 施業期I_1

施業案見積材積 2,880.0 m³
内 針葉樹 1,728.0
　 濶葉樹 1,152.0

材積		材積合計	枝條	根株	原木價額 針葉樹 用材	針葉樹 燃材	濶葉樹 用材	濶葉樹 燃材	枝條、根株	計	備考
m³	m³	m³	m³	箇	円	円	円	円	円	円	
15	801 5	1,953 8	33 4		4,378 74			1,202 25	40 08	5,621 07	
13	851 8	1,920 6	40 1		4,595 84		626 25	661 43	36 09	5,919 61	
28	1,653 3	3,874 4	73 5		8,974 58		626 25	1,863 68	76 17	11,540 68	
	1,152 0	2,880 0									
	+ 501 3	+ 994 4									昭和年月日照査簿甲號ニ轉載㊞ (出張所長認印以下同斷)

年度	種目	面積 ha	樹種	苗齢	員數 毎 ha 本	員數 總數 本	經費 總額 円	經費 平均一當 ha 円	補殖部合	回數	備考
8	地拵	(6 00)					208 20	34 70			
9	新植	6 00	スギ	3	3,000	18,000	(50 40) 125 40	(8 40) 20 90			苗木ハ何苗圃ヨリ供給 朱書ハ官苗代(以下同斷)
〃	下刈	(6 00)					50 40	8 40			
10	新植	6 00	スギ	3	3,000	18,000	(50 40) 333 60	(8 40) 55 60			苗木ハ何苗圃ヨリ供給 地拵費ヲ含ム
〃	補殖	(6 00)	スギ	3	300	1,800	(5 40) 36 60	(90) 6 10	0.10		苗木ハ何苗圃ヨリ供給
〃	下刈	(12 00)					112 80	9 40			
11	補殖	(6 00)	スギ	3	200	1,200	(4 80) 26 40	(80) 4 40	0.07		苗木ハ何苗圃ヨリ供給
〃	下刈	(12 00)					100 80	8 40			
12	地拵	(3 00)					35 70	11 90			
13	改植	(3 00)	スギ	4	4,500	13,500	(54 00) 76 50	(18 00) 25 50			昭和年月日火災ニ罹リタルニ依リ改植 苗木ハ何苗圃ヨリ供給

メ杉新植地 ha燒失セリ、
メ ha崩壞セリ、
沙防工事ヲ施行ス此經費 圓、

注意 本表以下數字ニ括弧ヲ付シタルモノハ總テ朱書スルモノトス

作業級皆伐　輪伐區 I　區劃班 / 林相班 } 1イ　面積 12·00 ha　施業其

年度	主收額ノ區別	斫伐法	面積 ha	斫伐 針葉樹材積 用材 m³	燃材 m³	計 m³	濶葉樹材積 用材 m³	燃材 m³	計 m³	其
5	主收額	皆伐	6 00	1,152 3		1,152 3		801 5	801 5	
6	〃	〃	6 00	1,068 8		1,068 8	250 5	601 3	851 8	
	計		12 00	2,221 1		2,221 1	250 5	1,402 8	1,653 3	
	施業案	見積額	12 00			1,728 0			1,152 0	
	差引	增減	0			+ 493 1			+ 501 3	

記事 1. 昭和　年　月　日野火ノ爲メ杉新植地

2. 昭和　年　月　日出水ノ爲メ　ha崩壞セ

3. 昭和　年　月　日崩壞地ニ砂防工事ヲ施

事業區

施業簿

局
支所
出張

簿

業　簿

施　査　式

及

林　伐　様

料　研

御

●施業簿及照査簿記帳方ノ件(要旨)

大正二年六月九日第二九三八號主事通牒

一「省略」

二　檢訂施業案ニ於テ區劃ヲ變更シタルモノハ新區劃ノ面積ニ基キ舊施業簿ニ記載シタル造林ノ面積、數量及金額等ヲ按分算出シテ之ヲ新施業簿ニ記載シ備考欄内ニ其事由ヲ記載シ又研伐ニ關スル事項ハ造林ニ關スル事項ニ準シ成ルヘク之ヲ記載スヘシ

三　林業外地中植伐事業ヲ執行シタル箇所アルトキハ照査心得第十條ノ規定ヲ準用シ其植伐等ノ成績ヲ施業簿ノ末尾ニ口取ヲ設ケ又ハ別ニ林業外地ノ施業簿ヲ設ケテ記載スヘシ

四　喬林完伐作業ニ屬スル一林相班ニシテ施業期ヲ異ニスル部分アル場合ニ於テ第一施業期前半期ニ屬スル指定區域ノ主伐ヲ終了シタルトキハ照査心得第四條ヲ準用シテ材積ノ照査ヲ行フヘシ

五　主收額ト間收額トノ區別ハ御料地事業豫定簿編成心得第十一條ノ規定ヲ準用スヘシ

但火災又ハ盜伐、誤伐等ノ處分ノ結果主伐ト認ムヘキ材積ニ缺損ヲ來シタルトキハ主伐ヲ行ヒタルモノト見做シテ其材積ヲ照査内ニ加算シ又施業期指定外ノ未立木地ノ立木若ハ收得木ノ收額ハ主伐ト雖之ヲ照査外トナスヘシ

六「省略」

●同上ノ件(要旨)

大正十四年二月六日業第一五五號木曾支局長照會

大正十四年二月二十一日13業第二六四ノ四號次長ヨリ同支局長ヘ回答及各支局長林業試驗場長ヘ通牒

後半期推移ノ場合第　期前半期間ニ研伐ヲ了セサリシ立木ハ施業案ニ未立木地トシテ取扱ヘル地上立木ト等シク指定内外及照査内外ノ區別ニハ全然關係ナキモノニ有之隨テ照査ハ後半期ノ研伐指定額ヲ目的トシテ處理相成度

●研伐照査ニ關スル件(要旨)

昭和六年十月五日名業第二〇二五號名古屋支局長照會

昭和六年十一月十九日業第五四五ノ二號業務課長ヨリ同支局長ヘ回答及各支局長林業試驗場長ヘ通牒

一區劃班ヲ數年ニ渉リ分割研伐スル場合ニ於テハ各年度毎ニ研伐區域上ノ施業案見積材積ヲ面積ノ按分ニヨリ算出シ照査簿甲號ニ記載スルコト

面積ノ按分ニヨリ算出シ得サル小區域ノ擇伐材積ハ研伐終了年度ノ研伐材積ニ加ヘ區劃班全區域ニ於ケル施業案見積材積ト實際研伐材積トノ比較ヲ清算スルコト

●基本圖ニ植伐區域記入ノ件

大正二年六月十二日第二九九八號主事ヨリ各支廳長ヘ通牒

施業案ニ依リ植伐事業ヲ執行シタル場合ニハ其ノ區域ヲ鉛筆ヲ以テ基本圖ニ記入シテ面積計算ノ資料トシ且其ノ位置ヲ明確ナラシメラレ度

●御料地事業豫定簿編成心得

明治三十九年四月十六日第一八三五號局長達

（改正）大正十二年第一三九八號長官達、十三年業第一六六號長官達

第一章　通則

第一條　御料地事業豫定簿ヲ分テ左ノ各種トス

第一　收入ニ關スル豫定簿

一　木竹收額豫定簿
二　雜種物收額豫定簿
三　貸地豫定簿
四　建物貸與豫定簿
五　農產物收額豫定簿
六　造材收額豫定簿
七　製品收額豫定簿
八　貯藏產物收額豫定簿
九　木材留置收入豫定簿
十　運材收入豫定簿

第二　支出ニ關スル豫定簿

十一　造林豫定簿
十二　營農豫定簿
十三　造材及運材豫定簿
十四　製品豫定簿
十五　產物貯藏豫定簿
十六　木材留置豫定簿
十七　營繕豫定簿
十八　物件買上豫定簿

第二條　事業豫定簿ハ地方支部局若ハ地方部局毎ニ編成シ其ノ地方支部局毎ニ編成セルモノハ當該地方部局ヲ通シテ別ニ總括表ヲ調製スヘシ

第三條　事業豫定簿ニハ事業ノ種別毎ニ其ノ豫定額ヲ前年度ノ豫定額ト對照シ之カ增減ノ事由ヲ說明スヘシ

第四條　事業豫定簿ニ揭記スル面積ハ畝ニ、數量ハ單位ニ、金額ハ錢位ニ止メ其ノ所要ノ數位以下ハ四捨五入スヘシ

但單位ニ對スル金額錢位未滿ナルトキハ其ノ單位ヲ百進若ハ千進シタルモノニ對スル金額ヲ以テ單價トナスヘシ

第五條　事業豫定簿ニ揭記スル金額ニシテ歲入ニ調定セサルモノ及前年度ノ支出ニ屬スルモノハ之ヲ朱書スヘシ

第六條　事業豫定簿ノ記載方ハ各樣式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ

第二章　木竹收額豫定簿

第七條　木竹收額豫定簿ハ施業案編成地及施業案編成外地ニ分チ其ノ施業案編成地ニ係ルモノハ第一號甲樣式ニ據リ施業案編成外地ニ係ルモノハ同號乙樣式ニ據リ調製スヘシ

但施業案編成地ニ係ル豫定簿ハ事業區毎ニ別冊トナスヘシ

第八條　施業案編成地ニ係ル豫定簿ハ各作業級及林業外地ニ區別シテ口取ヲ設ケ更ニ各作業級ヲ施業案指定內外ニ再別シテ記載シ且其ノ表紙ニハ施業案ニ定メタル年伐面積、材積及施業案照査ノ成蹟ニ據リテ査定シタル當該年度ノ喬林研伐額ヲ揭記スヘシ

第九條　豫定簿ハ一林相班內ニ於ケル研伐區域ヲ以テ一記入番號トナスヘシ

但施業案編成外地ニ在リテハ一研伐箇所ヲ以テ一記入番號トナスヘシ

第十條　面積ハ全面積（一林相班又ハ臺帳一筆地ノ面積）、研伐面積（研伐區域ノ面積）及占領面積（研伐木ノ占領スル見込面積）ニ分チ記載スヘシ

皆伐ノ場合ニハ研伐面積ヲ墨書シテ占領面積ヲ朱書シ其ノ他ノ場合ニハ研伐面積ヲ朱書シテ占領面積ヲ墨書スヘシ

第十一條　主收額ト間收額トノ區別ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一　伐期ニ達シタル爲メ研伐ヲ要スル樹木又ハ伐期ニ達セサルモ事業上研伐ヲ要スル主林木及豫備伐、下種伐、終伐若ハ離伐等ノ爲メ研伐ヲ要スル樹木其ノ他總テ皆伐スヘキ樹木並ニ竹木ノ收額ハ之ヲ主收額トス

二　主林木ノ生育ヲ補クル爲メ疎伐又ハ掃除伐ヲ要スル樹木及被害木ニシテ點々伐採スルモノハ之ヲ間收額トス

第九類　事業ノ設計、豫定及實行　一　諸事業ノ設計、豫定、實行

第十二條　枝木、末木、灌木及幼樹等ニシテ束ヲ以テ數量ヲ計算スヘキ者並ニ根株ハ主收額ト間收額トヲ問ハス枝條及根株欄ニ記載スヘシ

第十三條　被害木竹、部分林又ハ入會林等ノ收額ニシテ豫メ研伐箇所及材積ヲ定メ難キモノハ既往ノ收額ヲ參酌シ概算ヲ以テ其ノ見込額ヲ記載スヘシ

第十四條　研伐ノ事由及研伐跡地更新ノ方法等ハ其ノ要領ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十五條　木竹收額豫定總括表ハ第二號樣式ニ據リ調製スヘシ

第三章　雜種物收額豫定簿

第十六條　雜種物收額豫定簿ハ第四號樣式ニ據リ調製スヘシ

地方支部局又ハ地方部局ハ第三號樣式ニ據リ雜種物收額豫定明細表ヲ調製シ豫定簿編成ノ基礎トナスヘシ

第十七條　雜種物ヲ類別シテ左ノ八類トス

一　柴草
二　菌蕈
三　樹實
四　樹葉
五　樹皮
六　石類
七　土類
八　雜

第十八條　豫定簿ハ年期拂下及一時拂下ニ區別シテ記載スヘシ

第十九條　雜種物收額豫定總括表ハ第五號樣式ニ據リ調製スヘシ

第四章　貸地豫定簿

第二十條　貸地豫定簿ハ第七號樣式ニ據リ調製スヘシ

地方支部局又ハ地方部局ハ第六號樣式ニ據リ貸地豫定明細表ヲ調製シ豫定簿編成ノ基礎トナスヘシ

第二十一條　貸地ヲ類別シテ左ノ十類トス

一　建物敷地
二　田
三　畑
四　牧舍用地
五　樹竹植栽地
六　林業附帶地
七　鑛業用地
八　道路敷地
九　池沼及用水敷地
十　雜

第二十二條　豫定簿ハ年期貸及一時貸ニ區別シテ記スヘシ

第二十三條　貸地豫定總括表ハ第八號樣式ニ據リ調製スヘシ

第五章　建物貸與豫定簿

第二十四條　建物貸與豫定簿ハ第九號樣式ニ據リ調製スヘシ

第二十五條　豫定簿ニハ家屋及倉庫等ニシテ有料貸與ヲナスヘキモノニ限リ記載スヘシ

第六章　農產物收額豫定簿

第二十六條　農產物收額豫定簿ハ第十號樣式ニ據リ調製スヘシ

第二十七條　農產物ヲ類別シテ左ノ各種トス

第一　農耕產物
一　穀類
二　菽類
三　蔬菜
四　藁草
五　雜
第二　園藝產物
一　果實
二　苗木
三　雜
第三　飼畜
一　仔馬
二　種付
三　雜

第二十八條　豫定簿ハ農場毎ニ農耕產物、園藝產物及飼畜ノ三部ニ區別シテ口取ヲ設ケ且當該年度ノ生產物ト前年度ヨリ繰越スヘキ生產物トニ再別シテ記載スヘシ

第二十九條　農產物收額豫定總括表ハ第十一號樣式ニ據リ調製スヘシ

第七章　造材收額豫定簿

第三十條　造材收額豫定簿ハ第十二號樣式ニ據リ調製スヘシ

第三十一條　豫定簿ハ事業區及施業案編成外地毎ニ官行伐木、官行間伐及官行伐竹ニ係ル收額ヲ區別シテ口取ヲ設ケ且當該年度ニ收納スヘキ新材ト前年度ヨリ繰越スヘキ古材トヲ再別シテ其ノ收納額ト當該年度ニ處分スヘキ見込額及翌年度ニ繰越スヘキ殘額トヲ記載スヘシ

前項ノ收額ニシテ其ノ代金ヲ歲入ニ調定セスシテ貯藏所又ハ製品所等ニ引渡スヘキ見込ノモノハ相當價格ヲ附シ處分欄ニ揭記スヘシ

第三十二條　造材收額豫定總括表ハ第十三號樣式ニ據リ調製スヘシ

第八章　製品收額豫定簿

第三十三條　製品收額豫定簿ハ第十四號樣式ニ據リ調製スヘシ

第三十四條　豫定簿ハ製品場毎ニ製品ノ種別ニ依リテ口取ヲ設ケ當該年度ノ製品ト前年度ヨリ繰越スヘキ製品トニ區別シ其ノ收納額ト當該年度ニ處分スヘキ見込額及翌年度ニ繰越スヘキ殘額トヲ記載スヘシ

前項ノ製品ニシテ其ノ代金ヲ歲入ニ調定セスシテ貯藏所等ニ引渡スヘキ見込ノモノハ相當價額ヲ附シ處分欄ニ揭記スヘシ

第三十五條　製品豫定總括表ハ第十五號樣式ニ據リ調製スヘシ

第九章　貯藏產物收額豫定簿

第三十六條　貯藏產物收額豫定簿ハ第十六號樣式ニ據リ調製スヘシ

第三十七條　豫定簿ハ貯木所毎ニ造材及製品ノ二部ニ區別シテ口取ヲ設ケ當該年度ノ貯藏產物ト前年度ヨリ繰越スヘキ貯藏產物トニ再別シ其ノ貯藏額ト當該年度ニ處分スヘキ見込額及翌年度ニ繰越スヘキ殘額トヲ記載スヘシ

第十章　木材留置收入豫定簿

第三十八條　木材留置收入豫定簿ハ第十七號樣式ニ據リ調製スヘシ

第九類　事業ノ設計、豫定及實行　一　諸事業ノ設計、豫定、實行

第三十九條　豫定簿ハ地方支部局毎ニ口取ヲ設ケ且綱場、杭所及土場（陸揚）ノ三部ニ區別シテ記載スヘシ

第十一章　運材收入豫定簿

第四十條　運材收入豫定簿ハ第十八號樣式ニ據リ調製スヘシ

第十二章　造林豫定簿

第四十一條　造林豫定簿ハ殖林及苗圃ノ二部ニ分チ各別冊ニ編成スヘシ

第一款　殖林ノ部

第四十二條　造林豫定簿殖林ノ部ハ第十九號樣式ニ據リ調製スヘシ

第四十三條　殖林事業ヲ分テ左ノ七種トス

一　植栽
二　下種
三　改植
四　補殖
五　手入
六　間伐
七　保護

第四十四條　前條事業ノ種類ヲ區別スルニハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一　新植ノ事業ハ植栽トス
二　人工下種及天然下種ノ事業ハ下種トス
三　植栽又ハ下種ヲ爲シタル林地ニシテ火災其ノ他ノ原因ニ依リ當初ノ目的ヲ達セサルカ爲更ニ植替又ハ播替ヲ爲ス事業ハ改植トス
四　植栽又ハ下種ヲ爲シタル林地ニシテ其ノ造林ノ成績不良ナル部分ニ之カ補充ノ爲メ植苗若ハ播種ヲナシ又ハ林地保護等ノ爲メ下

播種、床替、山出及雜ノ五項ニ區別シテ記載スヘシ

第五十三條　前條事業ノ種類ヲ區別スルニハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一　新規開墾ハ新墾トス

二　種子ノ採收又ハ購入及播種ヨリ第一回床替ニ至ルマテノ事業ハ播種トス

三　第一回床換ヨリ山出ニ至ル迄ノ事業ハ床替トス

四　林地移植ノ爲メ苗木掘取及撰苗等ニ係ル事業ハ山出トス

五　苗圃ノ藩籬、小屋掛、器具器械、苗圃番人及借地料等ハ雜トス

第五十四條　苗木ノ年齡ハ滿年ヲ以テ數フヘシ

第五十五條　新墾ノ面積ニシテ播種又ハ床替ノ面積ト重複スルトキ又ハ翌年度ニ於テ播種スヘキ種子ニシテ其ノ前年度ニ購入若ハ採收スルトキハ其ノ面積又ハ數量ヲ朱書スヘシ

第五十六條　造林豫定總括表苗圃ノ部ハ第二十二號樣式ニ據リ調製スヘシ

第十三章　營農豫定簿

第五十七條　營農豫定簿ハ第二十三號樣式ニ據リ調製スヘシ

第五十八條　豫定簿ハ農場毎ニ別冊トシ農耕、園藝及飼畜ノ三部ニ區取ヲ設ケ更ニ農耕及園藝ハ各開墾、栽培、耕畜、用具及雜ノ五項ニ飼畜ハ飼畜、用具及雜ノ三項ニ細別シテ記載スヘシ

第五十九條　新墾ノ面積ニシテ栽培ノ面積ト重複スルモノハ之ヲ朱書スヘシ

第六十條　營農豫定總括表ハ第二十四號樣式ニ據リ調製スヘシ

第十四章　造材及運材豫定簿

第六十一條　造材及運材豫定簿ハ第二十五號樣式ニ據リ調製スヘシ

地方支部局又ハ地方部局ハ適宜造材及運材豫定明細表ヲ調製シ豫定簿編成ノ基礎トナスヘシ

第六十二條　豫定簿ハ各事業區及施業案編成外地ニ區別シテ口取ヲ設ケ更ニ官行伐木、官行間伐及官行伐竹ノ三事業ニ大別シ各事業ヲ造材、運材及雜ノ三項ニ細別シテ記載スヘシ

運材事業ハ其ノ方法ノ異ナル毎ニ山落及小谷狩、大川狩、桴送又ハ軌道及道路輸送等ニ區別シテ記載スヘシ

第六十三條　前條官行事業ノ區別ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一　主伐又ハ主伐ト合同シテ執行スル疎伐ノ官行事業ハ官行伐木トス

二　前項以外ノ疎伐及掃除伐等ノ官行事業ハ官行間伐トス

三　伐竹ノ官行事業ハ官行伐竹トス

第六十四條　造材及運材事業ハ成ルヘク一斫伐個所ヲ以テ一事業トナスヘシ

但事業上ノ都合ニ依リ數多ノ斫伐個所ヲ合同シテ一事業トナスコトヲ得

第六十五條　造材事業ハ木竹收額豫定簿ニ揭クル一記入番號毎ニ區別シテ材積ヲ記載シ且其ノ原木價額ヲ朱書スヘシ

第六十六條　造材及運材豫定總括表ハ第二十六號樣式ニ據リ調製スヘシ

第十五章　製品豫定簿

第六十七條　製品豫定簿ハ第二十七號樣式ニ據リ調製スヘシ

第九類　事業ノ設計、豫定及實行　一　諸事業ノ設計、豫定、實行　四百二十五

第六十八條　豫定簿ハ製品場毎ニ製品ノ種別ニ依リテ口取ヲ設ケ更ニ原料、製作及雜ノ三項ニ區別シ且其ノ原料ハ直接ニ造材及運材ヲ執行スヘキモノト他ヨリ受ケ入ルヘキモノ及前年度ヨリ繰越スヘキモノトニ細別シテ記載スヘシ

第六十九條　製品原料ノ價格ハ直接ニ造材及運材ヲ執行シタルモノハ其ノ原木價額ヲ、他ヨリ受入レタルモノ又ハ前年度ヨリ繰越シタルモノハ其ノ造材見積價格ヲ朱書スヘシ

第七十條　製品豫定總括表ハ第二十八號樣式ニ據リ調製スヘシ

第十六章　產物貯藏豫定簿

第七十一條　產物貯藏豫定簿ハ第二十九號樣式ニ據リ調製スヘシ

第七十二條　豫定簿ハ貯木場毎ニ口取ヲ設ケ椪積、輪送及雜ノ三項ニ區別シテ記載スヘシ

第七十三條　豫定簿ニハ官行伐木事業又ハ製品事業ヨリ引渡ヲ受クヘキ貯藏產物ノ原價ヲ朱書スヘシ

第十七章　木材留置豫定簿

第七十四條　木材留置豫定簿ハ第三十號樣式ニ據リ調製スヘシ

第七十五條　豫定簿ハ地方支部局毎ニ口取ヲ設ケ更ニ綱場、杭所及土場（陸揚）ノ三項ニ區別シテ記載スヘシ

第十八章　營繕豫定簿

第七十六條　營繕豫定簿ハ經常費ニ屬スルモノト臨時費ニ屬スルモノトニ分テ別冊トシ第三十一號樣式ニ據リ調製スヘシ

第七十七條　營繕事業ヲ分テ左ノ四種トス
一　建物
二　擁路
三　徑路
四　雜

第七十八條　前條事業ノ種類ヲ區別スルニハ左ノ各項ニ據ルヘシ
一　廳舍、官舍、倉庫、物置所、休泊所、其ノ他永久ニ保存スヘキ家屋及其ノ附屬營造物ハ建物トス
二　御料地ノ利用ノ爲メ開設スル車道及鐵路ハ擁路トス
三　苗木運搬又ハ林内巡視等ノ爲メ開設スル歩道ハ徑路トス
四　砂防工、排水工、護岸工等ハ雜トス

第七十九條　豫定簿ハ事業ノ種別毎ニ口取ヲ設ケ更ニ新營ト修繕トニ區別シテ記載スヘシ
營造物ノ新設又ハ增設ヲ要スル工事ハ新營トシ其ノ復舊工事又ハ一部ノ模樣替工事ハ修繕トナスヘシ

第八十條　新營又ハ大修繕工事ニシテ建物、擁路及雜ノ事業ニ係ルトキハ工事仕樣書、經費内譯書及平面圖ヲ調製シ尚建物ニ在リテハ側面圖、擁路ニ在リテハ縱斷面圖及橫斷面圖、雜工事ニ在テハ工事設計上必要ナル圖面ヲ調製シ之ヲ豫定簿ニ添附スヘシ
但豫定金額千圓ヲ超エサル工事ニ付テハ工事仕樣書經費内譯書及圖面ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第八十一條　御料地ノ利用上ニ必要ナル公道又ハ私道等ニ對シ企業者ニ補助金ヲ下付シテ新營若クハ修繕ノ工事ヲ執行セシムヘキ場合ニハ當局ノ工事ニ準シテ之ヲ豫定簿ニ記載スヘシ

第八十二條　營繕事業ニ要スル敷地及土地ノ定著物ニシテ買上クヘキモノハ其ノ價額ヲ朱書スヘシ

第八十三條　營繕豫定總括表ハ第三十二號樣式ニ據リ調製スヘシ

第十九章　物件買上豫定簿

第八十四條　物件買上豫定簿ハ經常費ニ屬スルモノト臨時費ニ屬スルモノトヲ分テ別冊トシ第三十三號樣式ニ據リ調製スヘシ

第二十章　附則

第八十五條　各地方部局ハ主要ナル御料地ノ位置、形狀及各年度ニ於ケル伐本、造林ノ箇所並ニ擁路、徑路設置ノ位置等ヲ記入シタル事業一覽圖ヲ調製シテ事業豫定簿ニ添附スヘシ
但事業一覽圖ニシテ施業案編成地ニ係ルモノハ林業圖ノ副本ヲ應用シ施業案編成外地ニ係ルモノハ二萬分ノ一乃至十萬分ノ一ノ縮尺ヲ用ヒテ之ヲ調製スヘシ

第八十六條　臨時費ニ屬スル營繕事業及重要ナル事業ノ創始ハ其ノ設計前事業ノ要領ヲ具シ豫メ本局長ノ認可ヲ受クヘシ

第八十七條　各地方部局長ハ收入ニ關スル事業豫定簿ヲ前年五月末日迄ニ、支出ニ關スル事業豫定簿ヲ前年六月末日迄ニ本局長ニ進達スヘシ

●水產事業ニ關スル諸簿表調製方ノ件

明治四十三年六月十六日第三五五八號
主事ヨリ日光箱根雨出張所へ通牒

水產事業ニ關スル豫定簿、處分簿及實行簿並ニ實行報告表等ノ樣式ハ逐テ御制定ノ筈ニ候得共當分別冊調製心得草案ニヨリ御調理相成度尚ホ調理上ニ關シ御意見モ有之候ハヽ御申出相成候樣致度

追テ雜種物又ハ營繕等ニ關スル豫定簿、實行簿、處分簿、報告表ハ明治三十九年四月十六日御料局第一八三五號達御料地事業豫定簿編成心得、同年三月十五日御料局第一四八三號達御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿及實行簿調製心得、同年四月十一日御料局第一八五三號甲達御料地ノ事業施行ニ關スル處分及實行報告心得ニヨリ調理可相成筈ニ候

水產事業ニ關スル豫定簿處分簿及實行簿竝實行報告表調製心得草案

第一章　豫定簿

第一條　豫定簿ヲ分テ左ノ二種トス
一　水產物收額豫定簿
二　水產事業豫定簿

第二條　水產物收額豫定簿ハI漁獲物及魚卵魚兒II游漁料III鑑札料IV雜ノ四類ニ分チ第一號樣式ニ據リ調製スヘシ

第三條　水產事業豫定簿ハI養魚II漁撈III游漁IV雜ノ四部ニ分チ更ニ養魚ヲ設備養魚及雜ニ漁撈ヲ設備漁撈及雜ニ雜ヲ人夫鑑札及雜ニ小別シ第二號樣式ニ據リ調製スヘシ

第二章　處分簿及實行簿

第四條　處分簿及實行簿ハ左ノ二種トス
一　水產物處分簿
二　水產事業實行簿

第五條　水產物處分簿ヲ第一部第二部ニ分チ第一部ハ魚種毎ニ第二部ハ游漁料鑑札料及雜ニ口座ヲ設ケ第三號樣式ニ據リ調製スヘシ

第六條　水產事業實行簿ハI養魚II漁撈III游漁IV雜ニ區分シ第四號樣式ニ據リ調製スヘシ

第三章　處分及實行報告表

第七條　報告表ヲ分テ左ノ二種トス
一　水產物處分報告表
二　水產事業實行報告表

第八條　水產事業施行ニ關スル成績ハ前條ノ報告表ニ據リ報告スヘシ

第九條　報告表ハ處分簿及實行簿ニ基キ水產物處分報告表ハ第五號樣式ニ水產事業實行報告表ハ第六號樣式ニ據リ調製スヘシ

附則

本心得ニ附帶スヘキ必要ノ事項及進達並報告期限等ハ凡テ明治三十九年四月十六日御料局第一八三五號達御料地事業豫定簿編成心得同年三月十五日御料局第一四八三號達御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿及實行簿調製心得及同年四月十一日御料局第一八五三號甲達御料地ノ事業施行ニ關スル處分及實行報告心得ニ準據スヘシ

（樣式略）

●造林成績ヲ施業簿ニ記入方ノ件（要旨）

大正十五年九月廿三日榮
第六三六號次長通牒

御料林施業簿ニ於ケル造林ノ部ニハ擇伐其ノ他天然更新ニヨル伐採跡地ニ付テモ之ヲ造林地トシテ取扱ヒ關係事項ヲ同部ニ掲載相成度又造林地ノ成績ニ付テハ人工造林地ハ手入ヲ要セザルニ至ルマデ天然更新地ハ成林ノ見込相立ツ時期マデ年々實地調査ヲ行ヒ其ノ成績ノ大要ヲ備考欄ニ記入置相成度

●處分簿取扱方ノ件（要旨）

大正四年四月十二日
第九二六號主事通牒

收得木及誤伐木其他ノ物件ヲ處分セル場合ニ於ケル處分簿ノ登掲方ニ付テハ左ノ通取扱相成度

一、收得木ニシテ拂下當時ノ狀態ニ在ルモノ又ハ收得木誤伐木及盜伐木等ニシテ伐倒シアルモノ若クハ圓角材ニ造成セルモノハ木竹處分簿ニ掲記スルコト

二、雜種物ニ屬スヘキモノヽ收得物件ニシテ拂下當時ノ狀態ニ在ルモノ又ハ收得物件、誤採物件及盜採物件等ニシテ加工ヲ施サヽルモノハ雜種物處分簿ニ掲記スルコト

三、前二項ノ物件ニシテ製板、製炭、其他加工ヲ施シタルモノハ處分簿ニ掲記スルヲ要セス

●御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿及實行簿調製心得

明治三十九年三月十五日
第一四八三號局長達
（改正）明治四十三年十二月十五日第七三八號達ニヨリ處分簿及實行簿中削除

第一條　御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿及實行簿ヲ分テ左ノ各種トス

第一　處分簿

一　木竹處分簿
二　雜種物處分簿
三　貸地處分簿
四　建物貸與處分簿
五　農產物處分簿
六　（消滅）
七　（消滅）
八　（消滅）
九　木材留置處分簿
十　運材收入處分簿

第二　實行簿

十一　造林實行簿
十二　營農實行簿
十三　造材及運材實行簿
十四　製品實行簿
十五　產物貯藏實行簿
十六　木材留置實行簿
十七　營繕實行簿
十八　物件買上實行簿

第二條　農產物ノ處分ニ關シテハ別ニ處分原簿ヲ又造林、營農、造材及運材、製品及產物貯藏ノ實行ニ關シテハ別ニ實行原簿ヲ設クヘシ

第三條　建物貸與處分簿、運材收入處分簿及物件買上實行簿ハ各地方部局ニ於テ適宜ニ之ヲ調製シ其ノ他ノ處分簿、實行簿及處分原簿、實行原簿ハ各樣式ニ據リ調製シ其ノ記載方ハ樣式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ

第四條　處分簿及實行簿ニ掲記セル面積ハ歩ニ、數量ハ各種類ノ總額ニ於テ單位以下一位ニ、金額ハ厘位ニ止メ其ノ所要ノ數位以下ハ四捨五入スヘシ

第五條　一旦拂下又ハ貸下等ノ處分ヲナシタルモノニ對シ爾後契約ノ解除ヲナシ該拂下又ハ貸下等ヲ取消シタルトキハ其ノ處分簿ニ記載セル事項ヲ朱線ヲ以テ抹消シ且之ニ關スル月末又ハ年度末ノ計ヲ訂正シ各其ノ要領ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第九類　事業ノ設計、豫定及實行　一　諸事業ノ設計、豫定、實行

第六條　處分簿及實行簿ハ直接ニ事業ヲ施行スル當該部局（地方支部局若クハ地方部局）ニ於テ之ヲ調理スヘシ

第七條　處分簿及實行簿ニ掲載スル收支ノ關係ハ精確ニ會計書類ト照合一致セシムルヲ要スルモノトス

●御料地ノ事業施行ニ關スル處分及實行報告心得

明治三十九年四月十一日
第一八五三號甲局長達
（改正）四十三年十二月十五日第七三八號達ヲ以テ處分報告表中削除

御料地ノ事業施行ニ關スル處分及實行報告心得別紙ノ通リ相定メ明治三十九年度ヨリ施行ス

（別紙）

御料地ノ事業施行ニ關スル處分及實行報告心得

第一條　御料地ノ事業施行ニ關スル成績ハ本心得ニ依リ之ヲ報告スヘシ

第二條　前條ノ報告ニ關スル簿表ヲ分テ左ノ各種トス

第一　處分報告表

一　木竹處分報告表　第一號樣式
二　雜種物處分報告表　第二號樣式
三　貸地處分報告表　第三號樣式
四　建物貸與處分報告表　第四號樣式
五　農產物處分報告表　第五號樣式

六　（消滅）
七　（同）
八　（同）
九　木材留置處分報告表　第九號樣式
十　運材收入處分報告表　第十號樣式
　第二　實行報告表
十一　造林實行報告表　殖林ノ部　第十一號樣式
十二　同上　苗圃ノ部　第十二號樣式
十三　營農實行報告表　第十三號樣式
十四　造材及運材實行報告表　第十四號樣式
十五　製品實行報告表　第十五號樣式
十六　產物貯藏實行報告表　第十六號樣式
十七　木材留置實行報告表　第十七號樣式
十八　營繕實行報告表　經常ノ部　第十八號樣式
十九　物件買上實行報告表　經常ノ部　臨時ノ部　第十九號樣式

第三條　處分及實行報告表ハ處分簿及實行簿ニ基キ之ヲ調製スヘシ
第四條　處分及實行報告表ノ記載方ハ各樣式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ
第五條　處分報告表ハ翌年四月末日迄ニ實行報告表ハ翌年五月末日迄ニ本局長ニ進達スヘシ

○御料林土木豫定案編成手續

明治四十五年五月十一日訓令第九號
（改正）大正十三年訓令第八號

第一條　土木豫定案ハ御料林施業規程ニ基ツキ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ編成スヘシ
第二條　土木豫定案ハ毎年豫測ヲ終了シタル線路ニ對シ之ヲ編成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　名稱
二　種別
三　起終點
四　延長
五　幅員
六　施工年度
七　工費
八　摘要

第三條　土木豫定案ニハ線路毎ニ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ
一　線路說明書
二　工費概算書
三　線路豫測圖

第四條　線路說明書ニハ搬路又ハ軌道ノ開設ヲ要スル趣旨及線路ノ概況ヲ記載スヘシ
第五條　工費概算書ニハ工費ノ概算內譯ヲ記載シ施工ノ數年ニ涉ル工事ニ在リテハ各年度ニ割當テタル見込額ヲ示スヘシ
第六條　線路豫測圖ハ左ノ三種トス

一　地圖　縮尺隨意
二　平面圖　縮尺二千五百分ノ一
三　縱斷面圖　縮尺（縱二百分ノ一又ハ四百分ノ一　橫二千分ノ一）

地圖ニハ線路利用ノ區域及連絡線路等ノ位置ヲ示スヘシ
第七條　土木豫定案及線路豫測圖ノ樣式ハ帝室林野局長官之ヲ定ムヘシ

●土木事業設計手續

明治三十三年二月二十八日第八二六號局長達

第一章　通則

第一條　土木工事ヲ分テ新營及修繕ノ二トス
第二條　新營トハ新設又ハ增設ヲ要スル搬路、河川、家屋其ノ他ノ營造物ニ關スル工事並ニ營造物ノ購買及工事ニ要スル土地ノ購買ヲ云フ
第三條　修繕トハ搬路、河川、家屋其ノ他ノ營造物ニ關スル復舊工事ヲ云フ
第四條　搬路、河川其ノ他ノ工事ニシテ行政廳ノ承諾ヲ要スヘキモノハ豫メ當該官廳ト妥協スヘシ

第二章　搬路

第五條　搬路ノ設計順序ヲ分テ左ノ三項トス
一　路線測量
二　築造計畫
三　經費豫算

第一節　路線測量

第六條　路線測量ヲ分テ豫測及實測ノ二トス
第七條　路線ノ選定又ハ比較ノ爲簡易ナル方法ニ據リ豫測ヲ行ヒ左ノ圖面及書類ヲ調製スヘシ
一　路線平面圖　縮尺二千分ノ一乃至二萬分ノ一
一　同　高低圖　縮尺適宜
一　橋梁箇數及延長調書
一　暗渠箇數調書
一　土石坪概算調書其ノ他所要ノ工事調書
一　經費調書

本書ハ前三項ノ書類ニ據リ工費ノ概算及實測費其ノ他所要ノ經費ヲ取調フヘシ

一　路線說明書

本書ハ搬路ノ新設若ハ路線變更ノ必要アル理由、利用ノ目的、運輸ノ便否得失ヲ比較シタル說明及築造ノ規模並ニ施工順序等ヲ說明スヘシ

第八條　豫測ノ成蹟ニ依リ路線ヲ決定シタルトキハ實測ヲ行ヒ左ノ圖面及書類ヲ調製スヘシ但實測ニ於テハ路線ノ中心線ヲ測定シ長拾間毎ニ中心杭ヲ打チ中心線ノ高低及橫斷面ヲ測ルモノトス

一　平面圖　縮尺一千分ノ一乃至五千分ノ一
一　縱斷面圖　縮尺（長一千分ノ一乃至五千分ノ一　高百分ノ一乃至五百分ノ一

一　横斷面圖縮尺百分ノ一又ハ二百分ノ一
一　橋梁暗渠其ノ他建造物ノ詳細圖
一　土坪表
一　用地表
一　工事仕樣書
一　計畫說明書

第九條　平面圖ハ路線ノ中心線ヲ赤線ニテ顯ハシ其ノ近傍ノ地形ヲ示スニ必要ナル諸地物ノ位置境界等ヲ詳記シ且其ノ中心線ニ距離又ハ測點ノ名稱等ヲ記載スヘシ

第十條　縱斷面圖ハ中心線ニ於ケル地面ノ高低施工基面ノ高及勾配、各測點（長拾間毎ノ中杭）ニ於ケル切取ノ深、盛土ノ高、橋梁暗渠等ノ位置並ニ境界、地名、河川名等ヲ記載スヘシ（第二圖參照）

第十一條　横斷面圖ハ中心杭毎ニ之ヲ製シ土坪計算等ノ用ニ供スヘシ

第十二條　橋梁、暗渠等ノ詳細圖ハ平面、斷面、側面其ノ他構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面ヲ調製スヘシ
但構造ノ略同樣ナルモノ數箇所アルトキハ其ノ內一ケ所ノ圖面ヲ調製シテ他ハ之ヲ省略シ又構造ノ簡單ナルモノハ圖面ヲ省略スルコトヲ得

第十三條　土坪表及用地表ハ第一號及第二號書式ニ據リ調製スヘシ

第十四條　仕樣書ニハ各工事施工方法並ニ施工上ニ付設計書ト實地トノ關係等ヲ記載スヘシ

第十五條　計畫說明書ニハ線路ノ位置狀況、在來道路ト接續ノ關係收益ノ關係及程度並ニ築造規模撰定ノ理由、施工時期等ヲ記入スヘシ

第二節　築造計畫

第十六條　主要林道ノ幅員ハ二間以內トシ其ノ築造定規ハ第一圖ニ準シテ設計スヘシ

第十七條　主要林道ノ勾配ハ其ノ最急制限ヲ十二分一（壹間ニ付五寸勾配）トス

鐵路ノ勾配ハ其ノ最急制限ヲ十五分一（壹間ニ付四寸勾配）トス

第十八條　主要林道及鐵路ニ於テ最急制限ノ勾配ヲ用ユル場合ハ成ルヘク其ノ長サヲ百五十間以內トナスヘシ

第十九條　土工ノ斜面勾配ハ凡左ノ割合ニ據リ設計スヘシ

土質ノ部		一割
切取	岩石ノ部	三分以內
	高六尺以內	一割二分乃至一割五分
盛土	高六尺以上	一割五分以上

第二十條　切取及盛土ノ傾斜面ハ張芝、筋芝若ハ筋粗朶等ヲ以テ築造シ崩壞ヲ防クヘシ
但切取斜面ハ土質堅硬ナルカ又ハ一割勾配ヨリ緩ナルトキハ斜面被覆工ヲ要セス

第二十一條　路面ハ割石又ハ砂利ヲ以テ築造スヘシ但地質堅硬ナルカ又ハ車輛ヲ通スヘキ必要ナキトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十二條　割石ノ厚サハ道路ノ中央ニ於テ四寸以上トシ兩端ニ向ヒ漸次減却二寸以上トナスヘシ

第二十三條　割石敷設ノ方法ハ地盤ヲ固メタル上割石一層ヲ成ルヘク間隙ナキ樣ニ敷キ並ベ石屑又ハ小砂利ヲ散布シテ目込ミヲ爲シ一ロ

ーラー」又ハ蛸木ヲ用ヒテ固メ更ニ第二層ノ割石ヲ敷キ前法ノ如ク施行スヘキモノトス

第二十四條　砂利敷ノ方法ハ道幅ノ兩端一尺乃至一尺五寸ツヽヲ除キ平均厚二寸乃至三寸ノ砂利ヲ楕圓形ニ撒布シ「ローラー」又ハ蛸木ニテ之ヲ固ムルヲ要ス

第二十五條　橋梁ノ構造ハ橋上滿面ニ橋面一坪ニ對シ少クトモ四百貫目ノ重量ヲ積載シ得ルモノトナスヘシ

第二十六條　長四間未滿ノ橋梁ハ其ノ幅（左右欄干又ハ地覆木ノ中心ヨリ中心マテ）ヲ道幅ト同一トナスヘシ
長四間以上ノ橋梁ハ其ノ幅ヲ九尺以上トナスヘシ但道幅九尺以內ナル場合ニハ其ノ幅ト同一トナスヘシ

第二十七條　道路屈曲部等ニ於テ地勢危險ノ虞アル箇所ニハ木柵若ハ小土手ヲ設ケ車馬ノ通行ヲ安全ニスヘシ

第二十八條　鐵路ノ軌條ハ鋼鐵及木製（鐵張）ノ二種トシ其ノ軌間ハ二尺以內トナスヘシ

第二十九條　鐵路曲線ノ半徑ハ最小限ヲ三十尺トナスヘシ
但曲線ノ半徑三十尺ニ布敷シ難キ場合ハ其ノ屈曲部ニ轉車臺ヲ据付ケ車輛ノ方向ヲ變換セシムル設備ヲナスヘシ此場合ニ於テハ轉車臺ノ前後拾間以上ノ軌條ハ之ヲ水平ニ布設スヘシ

第三節　經費豫算

第三十條　經費豫算ハ工事設計書ニ基キ經費調書ヲ作ルヘシ

第三十一條　工事設計書ハ御料地事業豫定簿編成心得第三十號樣式ニ據リ調製スヘシ

第九類　事業ノ設計、豫定及實行　一　諸事業ノ設計、豫定、實行

但設計ノ繁雜ニ涉ルモノハ別ニ工事內譯書或ハ計算表ヲ作リ其ノ要領ヲ豫定簿ニ揭記スヘシ

第三十二條　經費調書ニハ前條設計工費及其ノ工事ニ關スル諸費ヲ取調記載スヘシ

第三章　河川

第三十三條　河川ニ關スル工事ハ第二章ニ準シテ設計シ必要ノ圖面及書類ヲ調製スヘシ

第三十四條　河川工事ノ計畫說明書ニハ新設又ハ改修ノ必要ナル理由ノ外流量計算ノ說明ヲ爲シ新水路ニ在テハ所要水量ニ對シ分水流量ノ關係等ヲ說明シ改修工事ニ在テハ河水ノ最高最低兩水位ノ查定、河幅ノ算定及理由等ヲ說明スヘシ

第四章　家屋

第三十五條　家屋ノ設計順序ヲ分テ左ノ三項トス

一　製圖
二　仕樣書
三　經費豫算書

第一節　製圖

第三十六條　製圖ハ計畫ノ規模ヲ示スニ必要ナルモノヲ第一種トシ建物各部ノ構造ヲ示シ工費計算上必要ナルモノヲ第二種トシ第二種圖面ニテ明瞭ヲ缺ク場合ニ調製スヘキモノヲ第三種トシ第三十七條乃至第三十九條ニ據リ調製スヘシ

第三十七條　第一種圖面ハ左ノ各種ニ分チ如何ナル建築ト雖モ之ヲ調製スヘシ

一　配置圖　縮尺三百分ノ一六百分ノ一又ハ千二百分ノ一
本圖ハ新營建物ト在來建物或ハ道路等ノ關係ヲ明ラカニスルモノニシテ其ノ方位及直接關係アル地物ノ距離等ヲ記載スヘシ
一　平面圖　縮尺五十分ノ一又ハ百分ノ一
本圖ニハ各室名及其ノ廣狹並ニ概略仕上ケ仕樣ヲ記載スヘシ
一　側面圖　縮尺二十分ノ一又ハ五十分ノ一
本圖ハ出來上リノ外觀ヲ記載スヘシ
一　斷面圖　縮尺二十分ノ一又ハ五十分ノ一
本圖ハ內部各所ノ構造ノ概略ヲ記載スヘシ
一　矩計圖　縮尺十分ノ一又ハ二十分ノ一
本圖ハ建物外廻リノ斷面圖ニシテ床、窓、天井等ノ位置寸法ヲ記載スヘシ

第三十八條　第二種ノ圖面ハ建物ノ性質ニ依リ左記各圖面ノ內必要ナルモノヲ調製スヘシ
一　地形平面圖　縮尺五十分ノ一又ハ百分ノ一
一　同斷面圖　縮尺同上
一　床伏圖　縮尺同上
一　屋根伏圖　縮尺同上
一　小屋組ノ圖　縮尺十分ノ一又ハ二十分ノ一
一　窓、入口詳細圖　縮尺同上
一　天井ノ圖　縮尺同上
一　右ノ外建築ノ性質ニ依リ必要ニ應シ緊要ナル部分ノ詳細圖　縮尺同上

第三十九條　第三種圖面ハ左ノ如シ
一　窓、入口枠及額緣繰形止寸圖
一　唐戶、窓障子組子正寸圖
一　幅木、腰羽目正寸圖
一　煙突焚口前飾ノ圖
一　天井中心飾ノ圖
一　軒蛇腹正寸圖
一　天井蛇腹正寸圖
一　右ノ外彫刻物及外觀上緊要ナル各部ノ正寸圖

第二節　仕樣書

第四十條　仕樣書ハ最初ニ建築箇所ノ位置及建物ノ名稱ヲ揭ケ廉書及仕樣本文ヲ記載シ一棟每ニ編成スヘキモノトス（第三號書式）
但同樣ノモノ數棟建築ノ場合ニハ此限リニアラス

第四十一條　仕樣書ノ廉書ニハ左ノ各項ヲ記載スヘシ
一　建築ノ樣式（卽チ和式洋式假建等ノ區別）
一　建築ノ性質（木製、煉瓦造等ノ區別）
一　建物ノ狀形（平家、二階三階並ニ家根葺材料及屋根ノ形狀）
一　建物ノ廣狹（卽チ梁間、桁行又ハ不規則ナルモノハ圖面ノ通リト記スルモ差支ナシ）
一　建物ノ高サ（卽チ軒高ニシテ普通地盤ヨリ桁峠迄ヲ以テス）
一　建坪（木製ナレハ普通眞坪ナレトモ煉瓦造ナレハ眞坪或ハ外法坪等ヲ明記スヘシ）
一　棟數
一　附隨工事ノ要領（窓、入口、煙突、爐、便所等ノ數量）

第四十二條　仕樣書ノ本文ハ實地施工ノ順序ニ從ヒ大凡左ノ各項ニ區別シ各工事所要材料ノ品質寸法及其ノ用量並ニ其ノ施工方法等ヲ詳記スヘシ
一　水盛遣方
一　土工
一　地形工學
一　石工
一　煉瓦工
一　足代方
一　大工
一　鳶
一　鍛冶職
一　家根方
一　瓦職
一　錺職
一　壁方
一　建具方
一　金物
一　塗師
一　經師
一　疊、敷物
一　硝子方
一　雜（敲キ、土管伏、垣、塀、門等並ニ便所用器、井戶等ノ類）

第四十三條　仕樣書ニ因リ工事ヲ實施スル場合ニハ左ノ如キ事項ヲ仕樣本文ノ末ニ附記スヘシ
一　工事著手及落成ノ期日
一　一式受負又ハ材料渡手間受負ノ區別
一　材料物品ノ內渡品アル場合ニハ其ノ品目及所在ヲ詳細ニ揭クルコト
一　圖面及現場トノ關係ノコト

第四十四條　仕樣書ノ內使用材料及工法ニ於テ地方ニ依リ習慣上普通賣買ノ形體及稱呼等ニ特殊ノモノアル場合ニハ便宜上之レヲ採用スルモ差支ナシト雖モ是等ハ總テ別紙ヲ以テ明カニ其ノ解說ヲナスヘシ

第三節　經費豫算書

第四十五條　家屋新營經費內譯書ハ左ノ四種ニ區別シ仕樣書編成ノ順序ニ從ヒ別紙第四號書式ニ據リ調製スヘシ
一　材料費
二　一式費
三　職工費
四　雜費

第四十六條　前條經費ノ種別ハ左ノ各項ニ據リ區別スヘシ
一　新規購入ヲ要スル物品代價又ハ有合品ノ價格ヲ材料費トスヘシ
一　壁方、塗師方等習慣上材料ト工手間ト分割シ難キモノヲ一式費トスヘシ
但工事實施ノ場合ニハ一式費ヲ以テ受負ハシムルモノト雖モ豫

算書ニハ成ルヘク材料ト工手間ヲ區別シテ掲ケ審査上不明瞭ノ廉無キ樣編成スヘシ

一　受負及定雇諸職工賃並ニ人夫賃ヲ職工費トスヘシ

一　前三項ニ屬セサル費途ニシテ工事中臨時ニ要スル費用ヲ雜費トスヘシ

第四十七條　御料地事業豫定簿編成心得第三十號樣式ニハ第四十五條ノ經費內譯書ニ基キ各種別ノ計金及其ノ要領ヲ記載シ一棟毎ニ小計ヲ爲スヘシ

第五章　雜類工事

第四十八條　雜類工事ハ其ノ工事ノ性質ニ從ヒ前各條ニ準シテ設計シ必要ノ圖面及書類ヲ調製スヘシ

第六章　附　則

第四十九條　小修繕工事ハ從來ノ慣例ニ依リ調査シ其ノ設計書ハ御料地事業豫定簿編成心得第三十號樣式ニ據リ調製スヘシ

但設計ノ繁雜ニ涉ルモノハ別ニ工事內譯書或ハ計算表ヲ作リ其ノ要領ヲ豫定簿ニ掲記スヘシ

第五十條　御料地事業豫定簿編成心得第九十九條ニ據リ本局長ノ認可ヲ受クルニハ搬路及河川ニ關スル工事ニ在テハ本手續第七條ノ圖書ヲ家屋其ノ他ノ工事ニ在テハ設計ノ大要ヲ示スヘキ圖書及經費概算書ヲ調製進達スヘシ

（別紙書式及圖面略ス）

●造材及製品ノ出納ニ關スル帳簿調製心得

明治四十三年十二月十五日第七三八八號長官達

（改正）大正十三年十二月二十五日12第二六三ノ三號達ニ依リ貯材ニ關スル事項削除

造材及製品ノ出納ニ關スル帳簿調製心得別冊ノ通リ相定メ明治四十四年度ヨリ施行ス

但明治三十九年十二月二十八日御料局第六八七〇號達貯藏產物ノ出納ニ關スル諸簿表、同年三月十五日御料局第一四八三號達御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿、及實行簿中造材處分原簿、造材處分簿、製品處分原簿、製品處分簿及貯藏產物處分原簿、貯藏產物處分簿並同年四月十一日御料局第一八五三號甲達御料地ノ事業施行ニ關スル處分及實行報告表中造材處分報告表、製品處分報告表及貯藏產物處分報告表ハ本心得施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別冊）

造材及製品ノ出納ニ關スル帳簿調製心得

第一條　造材及製品ノ出納ハ左ノ帳簿ヲ設ケテ之ヲ經理スヘシ

第一　造材ニ關スル帳簿

一　造材假納簿

二　造材收納原簿

三　造材處分簿

四　造材出納簿

五　造材出納總括簿

第二　製品ニ關スル帳簿

六　製品資材原簿

七　製品資材出納簿

八　製品挽立簿

九　製品收納原簿

十　製品處分簿

十一　製品出納簿

第二條　前條ノ諸帳簿ハ伐木又ハ製材事業ヲ直營スル地方部局又ハ地方支部局ニ於テ之ヲ調理スヘシ

第三條　諸帳簿ノ記載方ハ各其ノ樣式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ

製材ノ諸帳簿ニ記載スヘキ材積ハ立方尺ヲ用ウヘシ

第四條　造材假納簿ハ第一號樣式ニ據リ調製シ當該年度ニ收納スヘキ造材ニシテ貯藏場ニ到着シタル場合ニ於テ之カ檢知前其ノ假納材ヲ掲記スヘシ

第五條　造材收納原簿ハ第二號樣式ニ據リ調製シ山元ニ於ケル造材又ハ貯藏場ニ於ケル假納材ノ檢知ヲ終了シタルモノヲ掲記スヘシ

第六條　造材處分簿ハ第三號樣式ニ據リ調製シ造材處分ノ都度之ヲ掲記スヘシ

第七條　造材出納簿ハ第四號樣式ニ據リ調製シ造材收納原簿及造材處分簿ニヨリ造材ノ收納、處分及殘高ヲ掲記スヘシ

第八條　造材出納總括簿ハ第五號樣式ニ據リ調製シ造材出納簿ノ結果ヲ掲記スヘシ但伐木地ノ異ナラサル造材ヲ取扱フ部局ニ於テハ本簿ヲ省略スルコトヲ得

第九條　製品資材原簿ハ第六號樣式ニ據リ調製シ資材ノ引渡ヲ受ケタル都度之ヲ掲記スヘシ

第十條　製品資材出納簿ハ第七號樣式ニ據リ調製シ製品資材原簿及製品挽立簿ニ據リ資材ノ受入拂出、及殘高ヲ掲記スヘシ

第十一條　製品挽立簿ハ第八號樣式ニ據リ調製シ製品資材原簿ヨリ受入レタル原料材ニ就キ挽立高ヲ掲記スヘシ

第十二條　製品收納原簿ハ第九號樣式ニ據リ調製シ挽立材ノ分類結束ヲ終了シタルトキ又ハ他地方部局ヨリ製材ノ交付ヲ受ケタルトキ之ヲ掲記スヘシ

第十三條　製品處分簿ハ第十號樣式ニ據リ調製シ製品處分ノ都度之ヲ掲記スヘシ

第十四條　製品出納簿ハ第十一號樣式ニ據リ調製シ製品出納原簿及製品處分簿ニヨリ製品ノ收納處分及殘高ヲ掲記スヘシ

第十五條　製材以外ノ製品ノ出納ハ第六號乃至第十一號樣式ニ準シ必要ナル帳簿ヲ設ケテ之ヲ記帳スヘシ

附　則

第十六條　造林及製品ノ出納ハ第十二號樣式ニ據リ其ノ月分ヲ翌月末日迄ニ長官ニ報告スヘシ但製材以外ノ製品ノ出納ハ其ノ年分ヲ翌年四月末日迄ニ前項ノ樣式ニ準シ報告表ヲ調製シテ報告スヘシ

第十七條　他地方部局ヨリ引受タル造材ニシテ再檢知ヲ爲シタル場合ハ檢知終了ノ都度其ノ結果ヲ第十三號樣式ニ依リ長官ニ報告シ同時

ニ引渡ヲ爲シタル地方部局長ニ通知スヘシ

（様式略）

●貯材ノ出納ニ關スル帳簿調製心得

大正十三年十二月二十五日
12第二六三ノ三號長官達

貯材ノ出納ニ關スル帳簿調製心得別冊之通相定メ大正十四年度ヨリ施行ス

但明治四十三年十二月十五日第七三八號達造材及製品ノ出納ニ關スル帳簿調製心得中貯材ニ關スル事項ヲ削除ス

（別冊）

第一條　貯材ノ出納ハ左ノ帳簿ヲ設ケテ之ヲ經理スヘシ

一　貯材收納原簿
二　貯材處分簿
三　貯材出納簿

第二條　前條ノ諸帳簿ハ貯材事業ヲ直營スル出張所ニ於テ之ヲ調理スヘシ

第三條　諸帳簿ノ記載方ハ各其ノ様式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ

第四條　貯材收納原簿ハ第一號様式ニ據リ調製シ貯藏場ニ於ケル假納材ノ檢知ヲ終了シタルモノヲ掲記スヘシ

第五條　貯材處分簿ハ第二號様式ニ據リ調製シ貯材處分ノ都度之ヲ掲記スヘシ

第六條　貯材出納簿ハ第三號様式ニ據リ調製シ貯材收納原簿及貯材處分簿ニヨリ貯材ノ收納、處分及殘高ヲ掲記スヘシ

第七條　貯材ノ出納ハ第四號様式ニ據リ其年度分ヲ翌年四月末日迄ニ長官ニ報告スヘシ

第八條　他支局ヨリ引渡ヲ受ケタル貯材ニシテ再檢知ヲ爲シタル場合ハ檢知終了ノ都度其結果ヲ第五號様式ニ據リ當該支局長ニ通知スヘシ

附　則

第九條　貯材ノ貯藏場ニ到著シタル場合ハ其發送票ヲ伐出地毎ニ編綴シ之レニ本數及材積ノ目計及累計ヲ付シテ整理スヘシ

（様式）

（點線ハ朱線ヲ示ス）

記入番號	産出地方部局	造材地名	造材年度	樹種	材種	本數	材積 石	備考

記入番號	産出地方部局	造材地名	造材年度	樹種	材種	本數	材積 石	備考
1	木曾	王滝	11 12	ヒノキ 〃	圓 〃			
2	〃	小川	9 10 11 11	小計 ヒノキ 〃 ネズコ	圓 〃 〃 〃			
				小計				
3	名古屋	小坂	11 12	計 ヒノキ 〃				
4	〃	川上	11 12	小計 ヒノキ 〃				
				小計				
				計				
				合計				

第五號樣式

大正何年度

貯材檢知報告表

帝室林野局

（何支局）

何出張所

貯木場名	造材地	造材年度	樹種	納 本數	納 材積	納 原價	出 本數	出 材積	出 原價	出 賣價	殘 本數	殘 材積	殘 原價	檢知未濟	備考
						前年	度ヨ	リ繰	越						
白鳥	〃	〃	ヒノキ	〃	〃	〃									
	〃	〃	サハラ	〃	〃	〃									
	〃	〃	ネズコ	〃	〃	〃									
桑名	〃	〃	小計	〃	〃	〃									
	〃	〃	ヒノキ	〃	〃	〃									
			サハラ	〃	〃	〃									
			小計	〃	〃	〃									
			計	〃	〃	〃									
						本	年	度	分						
白鳥	〃	〃	ヒノキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
	〃	〃	サハラ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
	〃	〃	アスナロ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
桑名	〃	〃	小計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
			ヒノキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
			サハラ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
			小計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
			計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
						累		計							
白鳥	〃	〃	ヒノキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
	〃	〃	サハラ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
	〃	〃	アスナロ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
	〃	〃	ネズコ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
桑名	〃	〃	小計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
	〃	〃	ヒノキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			サハラ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			小計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
						樹	種	別	再	掲					
			ヒノキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			サハラ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			アスナロ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			ネズコ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
						造材	年度	別再	掲						
		9		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
		10		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
		11		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
		計		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		

貯木場名	造材地	造材年度	樹種	納 本數	納 材積	納 原價	出 本數	出 材積	出 原價	出 賣價	殘 本數	殘 材積	殘 原價	檢知未濟	備考

第四號樣式

大正何年度

貯材出納報告表

帝室林野局

（何支局）

何出張所

（造材地）小川（樹種）ヒノキ（材種）圓材

記入番號	貯藏場	貯藏年度	造材年度	納 本數	納 材積	納 原價	出 本數	出 材積	出 原價	出 賣價	殘 本數	殘 材積	殘 原價	備考
	白鳥	9	7	〃	前年度ヨリ繰越	〃								
		9	8	〃	〃	〃								
		10	9	〃	〃	〃								
		10	10	〃	〃	〃								
		10	8	〃	〃	〃								
		11	10	〃	〃	〃								
		11	11	〃	〃	〃								
	小計			〃	〃	〃								
	小桑名	9	8	〃	〃	〃								
		10	9	〃	〃	〃								
		11	10	〃	〃	〃								
	小計			〃	〃	〃								
	計			〃	〃	〃								
	白鳥	12	12	〃	一月	〃								
		12	11	〃	〃	〃								
		10	9				〃	〃	〃	〃				
		11	11				〃	〃	〃	〃				
	小計			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
	桑名	12	11	〃	〃	〃								
		12	10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
		9	8				〃	〃	〃	〃				
		11	10				〃	〃	〃	〃				
	小計			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
	計			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
	累計			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
	白鳥	〃	〃	〃	貯藏場ヲ別ニ造材年度ヲ別ニ再掲	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	小計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	桑名	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	小計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	

備考　本簿ハ收納又ハ處分ノ月ヲ記載スベシ

記入番號	貯藏場	貯藏年度	造材年度	納 本數	納 材積	納 原價	出 本數	出 材積	出 原價	出 賣價	殘 本數	殘 材積	殘 原價	備考

第三號樣式

大正　年度　貯材出納簿

帝室林野局
支局
出張所

凡例　(1) 本簿ハ造材地、樹種、材種毎ニ口取ヲ設ケ記載スベシ
(2) 本簿ハ年度毎ニ調製シ繰越材ヲ轉載整理スルモノトス
(3) 本簿ハ別ニ總括ノ口取ヲ設ケ毎月各樹種別ノ總計ヲ記載スベシ
但年度ノ最終ニ於テ造材年度別ノ再掲ヲナスコト

（ス示ヲ線朱ハ線點）

原價	賣價	納入期限 月日	拂受人 住所	拂受人 名氏	引渡 月日	備考
圓	圓					
1,626 560	1,629 00	2 10	何市何町	何某	2 15	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	

ヲ小計ヲ朱記　シテ價格ヲ載記ニ其ノ　ノ口毎モノハ　ノ度一タルシ　ノ都シ渡ヘ引ヲ處分ヘ簿ハ局支ノ本　(1)　(2)　他　備考

毎シナスベシ　月計及累計ヲ揭グベシ

記入番號	指令 月日	指令 番號	處分(入札) 月日	處分(入札) 番號	拂下事由	貯藏場	造材地名	造材年度	貯藏年度	椪積番號	樹種	材種	長	直徑又ハ角邊	本數	材積
																月
1	25/1	25	28/1	27	公賣	熱田	小川	38	39	3	ネズコ	圓	2間	一寸一尺	158	207.20
											小計					
2	〃	〃	〃	〃	特賣	〃	〃	〃	〃	〃					〃	〃
											小計					
											計					
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		二 〃	〃	〃	月 〃
											累計					
															〃	〃

第二號樣式

簿分貯材

年度　大正何年度

帝室林野局

（何支局）

何出張所

造林地名　小　川　　　　(點線ハ朱線、ゴジックハ朱書ヲ示ス)

記入番號	收納(日次)	椪積番號	處分濟否	椪積場所	造材年度	樹種	材種	長	直徑又ハ角邊(幅厚)	上				中				並				下				計			備考
										本數	材積	原價 單價	原價 總額	本數	材積	原價 單價	原價 總額	本數	材積	原價 單價	原價 總額	本數	材積	原價 單價	原價 總額	本數	材積	原價	
											石	円	円		石	円	円		石	円	円		石	円	円		石	円	
						一			月																				
1	13	1	變更椪積	東堀	38	ヒノキ	圓	二間	七寸以上	23	17.50	7.00	122.500	15	11.80	6.00	70.800	191	136.00	5.00	680.000	201	198.00	4.00	792.000	430	363.30	1,665.300	
									小計																				
2	16	2	(公)(取消)	西堀	〃	サハラ	〃	一丈	尺五寸以上					4	6.30	6.00	37.800	2	3.20	5.0	16.000	15	23.70	4.00	94.00	21	33.20	148.600	
									尺一寸以上	7	5.30	7.00	37.100	2	1.70	6.00	10.200	8	6.80	5.00	34.000	20	17.00	3.00	51.000	37	30.80	132.300	
									七寸以上	3	1.00	6.00	6.000	3	1.00	6.00	5.000	10	3.40	4.00	13.600	19	6.500	3.000	19.500	35	11.90	44.100	
									六寸以下	1	.30	5.00	1.500	1	.30	4.00	1.200	7	1.80	3.00	5.400	31	7.800	3.000	23.400	40	10.20	31.500	
								一間	六寸以下									9	1.60	3.00	4.800	8	1.400	2.900	4.060	17	3.00	8.860	
									尺一寸以上	3	1.80	5.80	10.440					7	4.30	4.90	21.070	25	15.30	4.30	65.790	35	21.40	97.300	
								半間	尺五寸以上	4	2.20	7.40	16.280					2	1.10	5.00	5.500	81	45.40	3.70	167.980	87	48.70	189.760	
									尺八寸以上													1	.80	6.30	5.040	1	.80	5.040	
									小計	18	10.60		71.320	10	9.30		54.20	45	22.20		100.370	200	117.90		431.570	273	160.00	657.460	
3	25	3	(特)	〃	〃	ネズコ	〃	二間	七寸以上	36	17.60		91.52	41	20.10	4.60	92.460	12	5.90	4.00	23.600	10	4.90	3.40	16.660	99	48.50	224.240	
									尺五寸 尺六寸	35	78.80		717.08									5	11.30	6.00	67.800	40	90.10	784.880	
									尺九寸 二尺									19	68.60	9.00	617.400					19	68.60	617.400	
									小計	71	96.40		808.600	41	20.10		92.460	31	74.50		641.000	15	16.20	4.00	84.460	158	207.20	1,626.520	
4		**1**		**東堀**	**38**	**ヒノキ**	**圓**	**二間**	**七寸以上**	**23**	**17.50**	**7.00**	**122.500**	**15**	**11.80**	**6.00**	**70.800**	**191**	**136.00**	**5.00**	**680.000**	**201**	**198.000**	**4.00**	**792.000**	**430**	**363.30**	**1,665.300**	**記入(1)ハ椪積變更ニ付取消**
5	29	1.一		〃	〃	〃	〃	〃	〃	10	7.50	7.00	52.500	10	7.00	6.00	42.000	101	90.00	5.00	450.000	51	50.000	4.00	200.000	172	154.50	744.500	
									小計																				
6	29	1.二		〃	〃	〃	〃	〃	〃	13	10.00	7.00	70.000	8	4.80	6.00	28.800	90	46.00	5.00	230.000	150	148.000	4.000	592.000	258	208.80	920.800	
									小計																				
									計	112	124.50		1,002.420	66	41.20		217.460	267	232.70		1,421.370	416	332.10		1,308.030	861	730.50	3,949.280	
									造材年度樹種及材種別再揭																				
					38	ヒノキ	圓			23	17.50		122.500	15	11.80		70.800	191	136.00		680.000	201	198.00		792.000	430	263.30	1,665.300	
					〃	ネズコ	〃			71	96.40		898.600	41	20.10		92.460	31	74.50		641.000	15	16.20		84.460	158	207.20	1,626.520	
					〃	サハラ	〃			18	10.60		71.320	10	9.30		54.200	45	22.20		100.370	200	117.90		431.570	273	160.00	657.460	
									計	112	124.50		1,002.420	66	41.20		217.460	267	232.70		1,421.370	416	332.10		1,308.030	861	730.50	3,949.280	

(以下此例ニ做ヒ二月以降ハ計ノ次ニ累計ヲ附スベシ)

備考
(1) 貯材ノ長サ直徑品位毎ニ分類シタル本數及材積ヲ記載シタル檢知簿ヲ設クルトキハ本簿ニ於ケル直徑ノ又ハ角邊ノ欄ニハ價格ヲ異ニスル階級毎ノ計ヲ記入スヘシ
(2) 本簿ハ樹種別ニ口別ヲ設ケ整理スルモ妨ケナシ
(3) 毎月ノ終リニ於テ造材年度樹種及材種別再揭ヲナスヘシ
(4) 椪積ヲ變更シタル場合ハ舊椪積事項ヲ朱書シ更ニ新設椪積欄ニ關スル事項ヲ黑書スベシ
(5) 本簿ニハ他ノ出張所等ニ交付シタルモノト雖モ之ヲ記入スベシ
(6) 處分濟否ノ欄ニハ公賣ナルトキハ(公)特賣ナルトキハ(特)他支局ニ讓與シタルトキハ(讓)ノ朱印ヲ押捺スベシ

（貯材ノ出納ニ關スル帳簿様式）

第一號様式

大正何年度

貯材收納原簿

（何貯藏場）

帝室林野局

（何支局）

出張所

凡例　(1) 本簿ハ貯藏場毎ニ別冊トナシ造材地毎ニ各口取ヲ設ケ記載スベシ

(2) 本簿ハ年度毎ニ調製シ貯材ノ處分ヲ終了スル期間之ヲ保存記載スベシ但シ五ケ年後ニ於テハ別ニ帳簿ヲ設ケ繰越材ヲ轉載整理スルモ妨ケナシ

○造材及貯材ノ受拂ニ關スル件（要旨）

大正十一年三月九日審發第七一號
帝室會計審査局長官ヨリ木曾支局長ヘ、審發第七二號名古屋支局長ヘ通牒

木曾御料林及裏木曾御料林ヨリ伐出ニ係ル造材及貯材ノ受拂ニ關シ大正十年度分以降別紙書式ニ依リ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ出納計算書ヲ調製シ翌年五月三十一日迄ニ御提出相成度

大正十一年三月九日審發第七〇號
帝室會計審査局長官ヨリ長官ヘ通牒、四月十三日第一六八五ノ四號
長官ヨリ豐住出張所ヘ達

木曾御料林及裏木曾御料林ヨリ伐出ニ係ル豐住出張所貯材受拂ニ關シ大正十年度分以降別紙書式ニ依リ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ出納計算書ヲ調製シ翌年五月三十一日迄ニ御提出相成度（豐住出張所ハ其所貯材出納計算書ヲ翌年四月三十日迄ニ本局ニ提出ノコト）

（別紙書式）

何部局長官職氏名印

大正　年　月　日

帝室會計審査局長官宛

伐出 出張所	伐出 事業區	伐出 年度	前年度末現在 本數	前年度末現在 材積	受 送檢局部ノ通知ニ依ル 本數	受 送檢局部ノ通知ニ依ル 材積	受 荷檢局部ノ通知ニ依ル 本數	受 荷檢局部ノ通知ニ依ル 材積
				石		石		石
（經常費）								
王瀧	王瀧	8	30,000	46,000 00	30,000	42,000 00	30,024	41,820 00
		小計	30,000	46,000 00	30,000	42,000 00	30,024	41,820 00
	八年度	材計						
	九年度	材計						
	十年度	材計						
	總計							
（神宮御造營材）								

入 受入事由	拂出 本數	拂出 材積	拂出 事由	現在 本數	現在 材積
		石			石
木曾支局上松運輸出張所ヨリ受入	50,000	77,000 00	拂下處分		
	500	600 00	何々工事何々部局ヘ引繼		
	3,000	4,000 00	名古屋支局熱田出張所ヘ引繼	6,524	6,220 00
	53,500	81,600 00		6,524	6,220 00

大正何年度

貯材出納計算書

何枚何數紙

凡例

一　本計算書ハ木曾御料林及裏木曾御料林伐出ノ貯材ニ付其出納ヲ記載スヘシ

一　受入拂出ハ各其ノ事由ヲ異ニスル毎ニ區別シテ之ヲ記載スヘシ

一　本計算書ノ用紙ハ礬沙引厚實ノ美濃紙二ツ折トシ曲尺約一寸ノ綴代ヲ存スヘシ

帝室林野管理局（何支局）

苗木栽培成績調査簿樣式

明治四十二年四月八日
第一六〇〇號長官達

苗木栽培成績調査簿樣式別冊ノ通相定ム

但本簿ハ直接苗圃事業ヲ施行スル部局又ハ支部局ニ於テ調理スル義ト心得ヘシ

（別冊）

（點線ハ朱線ヲ示ス）

記入番號	樹種	年度	記入番號實行簿	苗圃班	摘要	種苗數量	經費 直接費	經費 間接費 部合 %	經費 間接費 金額	經費 計	經費 種子壹升又ハ苗木千本ニ對スル單價	備考
				何	苗圃（所在地）	升	円		円	円	円	
1	スギ	37	何	何	種子購入	10	8000			8000	一升ニ付 800	種子産地何々
		38			播種		47300	30	14190	61490	〃 6149	
					此成績	本 160,000				69490	千本ニ付 434	發芽數壹升ニ付平均18,000本内不良苗棄却床替數16,000本計ノ朱書（ゴチック）ハ前年迄ノ所要經費ナリ以下同斷
					第一回床	〃				69490		
		39	何	何	替	160,000	56200	25	14050	70250	〃 439	
					此成績	〃 120,000				139740	〃 1165	枯損 25%
		40			山出二年	〃				34935		
					生	30,000	3000	27	810	3810	〃 127	何事業區區劃班林相班何々ヘ新植
					此成績					38745	1292	
		〃			第二回床	〃				104805		
					替	90,000	35200	27	9504	44704	497	
					此成績	〃 70,000				149509	2136	何々ノ事由ニ依リ枯死約 22%
		41			山出三年	〃				149509		
					生	70,000	8000	26	2080	10080	144	何御料地字何ヘ新植
					此成績					159589	2280	
					山出合計	〃 100,000						

記入番號	樹種	年度	記入番號實行簿	苗圃班	摘要	種苗數量	經費 直接費	經費 間接費 部合 %	經費 間接費 金額	經費 計	經費 種子壹升又ハ苗木千本ニ對スル單價	備考
2	スギ	38	何	何	二年生一回床替苗木購入又ハ受入	本 100,000	150000			150000	千本ニ付 1500	某地ヨリ購入又ハ何々苗圃受入
					同上床替		42000	30		12600	〃 546	
					此成績	90,000				204600	〃 2273	枯損 10% 山出ニ適セサルヲ以テ何々ノ事由ニ依リ尚一回床替ノ爲メ何々苗圃ヘ移出ス
		39			移出三年					68 20		
					生	30,000	3000	25	750	3750	〃 125	
					此成績					71950	〃 2400	
		〃			山出三年					136 40		内何萬本ハ何々ヘ新植
					生	60,000	9000	25	2250	11250	〃 188	何萬本ハ何々ヘ補植
					此成績					147600	〃 2450	
3	カツマアツ	38		何	種子採收	升 10	9000			9000	一升ニ付 900	何々御料地ヨリ採收
					播種		42200	30	12660	54860	〃 549	
					此成績	本 300,000				63860	千本ニ付 213	記入番號1ト同シク詳細ニ說明スヘシ
		39			第一回床	本 300,000	127000	25	31750	63860 158750	〃 529	
		40			替据置	270,000	38000	27	10260	48260	〃 179	枯損 10%
					此成績	240,000				270870	〃 1129	枯損約 12%
		41			山出三年					270870		
					生	240,000	32000	26	8320	40320	168	何々ヘ新植
										311190	1297	

簿　査　調　績　成　培　栽　木　苗

廳　支　々　何　局　理　管　野　林　室　帝

所　張　出　々　何

凡例

1. 本簿ハ造林實行簿苗圃ノ部ニ據リ累次栽培ノ成績ヲ記載スルモノトス
2. 苗圃毎ニ口座ヲ設ケ樹種毎ニ小口ヲ別ツヘシ樹種同一ナリト雖播種年度ヲ異ニスルモノ及他苗圃ヨリ受入タル苗木又ハ購入苗木ヲ床替シタルモノハ更ニ小口ヲ再別スヘシ
3. 直接費トハ播種、床替、及山出ニ關スル經費ヲ謂ヒ間接費トハ雜（借地料御料地使用ノ分朱書共）ニ關スル經費ヲ謂フ間接費ハ直接費ニ按分シ其部合（%）ヲ定メテ之ヲ計算スヘシ
但種子及購入又ハ受入ノ苗木代ニハ間接費ヲ賦課セス
4. 民地ヲ借入シ新墾シタル場合ハ借入契約年限ヲ以テ新墾費ヲ除シ其年額ヲ當該年度ノ間接費ニ加算スヘシ

●疎伐試驗地設置ノ件

大正二年六月十三日
第三〇二八號主事通牒

御料林中從來ノ新植地等ニシテ既ニ疎伐ノ執行ヲ要スル場所少ナカラスト被認候處其ノ疎伐事業ハ林業上最モ重要ナル事項ニシテ之カ程度及實行方法等ノ適否ハ直接林業ノ成績ニ多大ナル影響ヲ及ホスヘキモノニ有之候間各支廳管内ニ疎伐試驗地ヲ設ケ其ノ試驗成績ヲ以テ實行ノ標準タラシメ度就テハ貴管内ニ於ケル伐齡十五年生以上ノ適當ナル林地ニ對シ別紙疎伐試驗施行方法ニ準シ本年度ヨリ疎伐試驗ニ着手相成度

（別紙）

疎伐試驗施行方法

第一　疎伐試驗ハヒノキ、スギ、マツ類等ノ林地ニシテ林齡拾五年以上ニ達シタルモノニ對シテ各樹種毎ニ地位ノ良否及植栽本數ノ多少ニ應シ各別ニ試驗地ヲ設ケ之レヲ執行スヘシ
但シ二樹種以上混合セル場合ハ混合林トシテ試驗ヲ行フヘシ

(一)　地位ハ上中下ノ三種ニ區別スヘシ

(二)　植栽本數ハ三千本以下、四千五百本以下、六千本以下及六千本以上ニ區別スヘシ

(三)　疎伐ノ程度ハ弱度、中度、强度ノ三種ニ區別スヘシ

第二　各試驗地ノ境界ノ四隅ニハ木杭ヲ以テ境界標ヲ設置シ之ニ試驗地番號ヲ記入スヘシ

第三　各試驗地ノ周圍ニ於テ概ネ其ノ立木ノ高ニ等シキ幅員ヲ有スル區域内ニ其ノ試驗地ト同一程度ノ疎伐ヲ行フヘシ

第四　各試驗地ハ其ノ地勢、土性、地位、植栽、補植、手入、保護等ノ事項ヲ調査スヘシ

第五　各試驗地ハ疎伐ヲ執行シタル年度及其ノ林齡五ノ倍數ニ達シタル年度ニ於テ其ノ本數、直徑、高サ及材積等ヲ調査シ第一號樣式ノ調査表ヲ調製スヘシ

第六　各試驗地ニ於ケル調査ノ成績ハ調査ノ都度第一號調査表ニ基キテ第二號樣式ノ疎伐試驗成績表ヲ調製シ調査表ヲ添付シテ之ヲ長官ニ報告スヘシ

（樣式略）

●木曾川流域山地作業取締ニ關スル件

大正二年三月五日第二六三ノ六號主事ヨリ名古屋、木曾兩支廳長ヘ通牒

山地作業取締ニ關スル件ニ付内務省土木局長ヨリ別紙甲號ノ通リ照會有之候處別紙乙號ノ通リ回答相成候間木曾川流域ニ於ケル御料林ノ作業ニ對シテハ左ノ各項ニ依リ關係地方廳ニ通知相成度將又右ノ作業ニ對シ地方廳ニ於テ治水上支障アリト認メタル場合ハ意見ヲ附シ御指揮ヲ仰カレ度

別記

一　施業案ヲ編成シタル御料林ニ於ケル研伐事業ハ施業案ニ依リ第一施業期前半期間ニ主伐スヘキ位置面積見積材積作業法及研伐期

間等ヲ通知スルコト

二　施業案未編成ノ御料林ニ於ケル斫伐事業ハ翌年度ニ主伐スヘキ位置面積見積材積及作業法等ヲ通知スルコト

三　開墾及土石ノ採掘等ノ作業又ハ臨時ニ起ル主伐ハ作業執行前ニ其位置面積及作業ノ方法等ヲ通知スルコト

四　前各項ノ通知ニハ作業スヘキ位置ヲ記入シタル圖面（成ヘク二萬分ノ一ノ地形圖）ヲ添付スルコト

（別紙）

甲號（大正二年一月十四日内務省元土第一八三號ノ内ノ二内務省土木局長ヨリ本局長官ヘ照會）

木曾川及淀川流域山地ニ於ケル御料地ノ作業ニ付テハ明治十三年當省達甲土第八五七號ノ旨趣ニ基キ從來貴局支廳ヨリ當省土木出張所ニ御協議相成居候處今般右山地ニ於ケル私人ノ作業ニ付テハ所轄地方廳ヲシテ專ラ之ヲ處理セシムルコトヽシ當省土木出張所ニ對スル協議ノ手續ハ廢止致候條御料地ノ作業ニ付テモ今後貴局支廳ヨリ地方廳ヘ協議セラレ候樣御取計相成度

乙號（大正二年三月五日第二六三ノ六ノ土木局長ヨリ土木局長ヘ回答）

本年一月十四日土第一八三號ノ内ノ二ヲ以テ山地作業取締ニ關スル件ニ付御照會ノ趣了承右ハ木曾川流域ニ於ケル御料林ノ作業ニ對シ其都度地方廳ニ協議ノ義ハ差支有之候間施業案ヲ編成シタル御料林ノ斫伐事業ハ十ケ年間ニ主伐スヘキ位置面積見積材積及施業方法等ヲ其他ノ作業ハ毎年施行前ニ其位置及作業方法等ヲ當局支廳ヨリ地方廳ニ通知可致候間右ニ御承知相成度

（追書略）

二　委託林

○社寺上地御料地委託方ノ件

明治二十四年五月七日内事課
甲第八〇號大臣ヨリ局長ヘ達

御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ルモノニシテ本年五月本省第九號告示ニ從ヒ其ノ委託ヲ出願スルモノアルトキハ本年農商務省令第五號社寺上地官林委託規則ヲ適用シ之ヲ委託スルコトヲ得

但該規則中適用シ難キ場合アルトキハ經伺ノ上取扱フヘシ

（參照）二十四年宮内省告示第九號

御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ルモノハ該社寺ノ出願ニ依リ本年四月農商務省令第五號社寺上地官林委託規則ヲ適用シ之ヲ委託スルコトアルヘキニ付委託ヲ請ハントスル社寺ハ左ノ區別ニ從ヒ出願スヘシ

一　御料局支廳又ハ事務所ノ所管ニ屬スル御料地ニ對シテハ該支廳長又ハ事務所長

一　地方廳ニ委託シタル御料地ニ對シテハ總テ御料局長

一　以上列記外ノ御料地ニ對シテハ該地方長官

（參照）二十四年農商務省令第五號

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及産物特別處分規則第三條ニ據リ社寺上地官林委託規則左ノ通之ヲ定ム

社寺上地官林委託規則

第一條　社寺ニ於テ上地官林ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ願書ニ其ノ創立ノ年代由緒資格出願地ノ字名區域段別樹種別本數（竹ハ三寸廻リ以上ノ數量）維持方法氏子檀徒信徒ノ概數等ヲ詳記シ年限ヲ定メ圖面ヲ添ヘ神官住職及ヒ氏子檀徒總代（氏子檀徒ナキモノハ信徒總代）三名以上連署シ寺院ハ管長ノ奥書ヲ經テ所轄大林區署長ニ差出スヘシ

第二條　社寺上地官林ノ委託ハ此ノ規則中特ニ定メタル場合ノ外十五年ヲ以テ限度トス委託年限ヲ經過シ尚ホ引續キ其ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　社寺ハ委託前他人ニ於テ採取ノ許可ヲ得其ノ期限内ニ係ルモノヲ除クノ外委託官林内ノ副産物（即チ樹實菌蕈落枝落葉下草晩菊ノ類）ヲ無代價ニテ收得スルコトヲ得

第四條　社寺ハ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ委託官林内ニ建造物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ栽植シ若クハ林地ヲ使用スルコトヲ得

前項ニ據リ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植地ノ委託ハ新植ノ年度ヨリ起算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補植ニ就テモ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許サス

第五條　社寺ハ風致其ノ他水源涵養土砂扞止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ栽植ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社寺ハ其ノ伐採シタル竹木相當價格ノ二分ノ一ヲ所轄大林區署ニ納付スヘシ

第六條　社寺ハ其ノ建築又ハ修繕用ニ供セントスルトキハ委託官林内在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂扞止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ特賣ヲ所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得

第七條　社寺ハ其ノ委託官林保護ノ責ニ任シ且ツ四至ニ境界標ヲ建設スヘシ

前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ請ケタル委託官林タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第八條　社寺ハ第四條ニ據リ委託官林内ニ竹木栽植ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其ノ栽植地ノ四至ニ標杭ヲ建設シ栽植地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ請ケタル委託官林内ノ栽植地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第九條　社寺ニ於テ委託官林内ノ竹木ヲ斫伐シ副産物ヲ採取スルトキハ凡テ所轄大林區署長ノ指示スル方法ニ據ルヘシ

第十條　社寺ニ於テ委託官林ノ手入ヲ爲サントスルトキハ所轄大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願書ニハ神官住職及ヒ氏子檀徒若クハ信徒總代ノ連署ヲ要ス

第十二條　斫伐ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ引渡ヲ受クルニアラサレハ伐採スルコトヲ得ス

但シ引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其ノ根株ハ特ニ許可シタルモノヽ外掘採スルコトヲ得ス

第十三條　社寺ハ其ノ委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十類　産物處分

第十四條　左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ速ニ所轄大林區署長ニ届出ヘシ

但シ第二第三第四及ヒ第五ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ノ檢査ヲ受クヘシ

一　看守人ヲ置キ又ハ之ヲ廢シタルトキ

二　委託官林ニ係ル犯罪其ノ他異狀ノ事故アリタルトキ

三　道路電線耕地宅地家屋等ニ對スル障害木アリタルトキ

四　林地ノ使用若クハ栽植ヲ終ハリタルトキ但シ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植實費取調書ヲ添付スヘシ

五　竹木ヲ斫伐シ及ヒ運搬ヲ終ハリタルトキ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ハ委託期限中ト雖モ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

一　官用又ハ公用ノ爲メ必要アルトキ但シ此ノ場合ニ於テハ委託中社寺ノ費用ヲ以テ栽植シタル竹木ニ就テハ其ノ栽植實費ヲ賠償ス

二　此ノ規則ニ定メタル制限及ヒ條件ニ違背シタルトキ但シ社寺ノ栽植ニ係ル竹木ハ之ヲ官沒ス

第十六條　竹木及ヒ副産物ノ斫伐採取其ノ他林地使用ノ爲メ若クハ故意怠慢ニ依リ委託官林ニ傷害ヲ生シ又ハ生セントスルトキハ所轄大林區署長ハ其ノ斫伐採取使用ヲ停止若クハ禁止シ尚ホ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ社寺ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任スヘシ

第十七條　社寺ニ於テ此ノ規則ヲ履行スルニ因リテ生スル費用ハ社寺ノ負擔トス

○社寺上地御料地委託取扱方ノ件

明治二十四年五月三十日内事課
甲第八九號大臣ヨリ局長ヘ達

其局支廳長ニ於テ本年五月本省第九號告示社寺上地ノ御料地委託ニ係ル取扱方左ノ通相定ム

一　農商務省令社寺上地官林委託規則第一條第二條第十五條及ヒ第十六條ノ場合ニ限リ意見ヲ具シテ指揮ヲ請フヘシ

二　同規則第三條ノ規定ニ從ヒ無代價ニテ收得セシメタル副産物ノ數量ハ社寺ヲシテ毎年報告セシムヘシ

三　同規則第十四條第三障害木ノ處分方ハ緊急差置キ難キモノニ限リ其ノ取除方ヲ社寺ニ委任スルコトヲ得但シ委任シタル場合ニ於テハ處分後報告セシムヘシ

四　同規則第十四條第四但書ノ場合ニ於テ其ノ届書ヲ領シタルトキハ神官住職看守人及ヒ氏子檀徒總代ヲ立會ハセ實地ヲ檢査シ若シ其ノ植栽シタル竹木ノ種類員數等調書ニ違ヒタルトキハ更ニ調書ノ通栽植ヲ爲サシムル可シ

五　同規則第十四條第五ノ場合ニ於テ其ノ届書ヲ領シタルトキハ前項記載ノ者ヲ立會ハセ其ノ伐跡ヲ檢査スヘシ

（備考）六月一日本局第一〇〇二ノ四號ヲ以テ諸縣度會廳事務所ヘ同第一〇〇二ノ六號ヲ以テ各支廳長ヘ傳達

第十類　産物處分

○帝室林野局産物賣拂規程

昭和七年一月十一日6
監第七一四ノ二號長官達

第一節　總則

第一條　本規程ニ於テ産物ト稱スルハ帝室林野局ノ保管ニ屬スル土地ノ産物、貯材及生産品ヲ謂フ

第二條　産物ノ賣拂ハ皇室會計令及附屬令ノ規定ニ依ルノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第三條　産物ノ買受ニ關スル書類ハ當該産物所管ノ帝室林野局出張所ニ提出スヘシ但シ時宜ニ依リ關係分擔區員ヲ經由スルコトヲ妨ケス

第四條　二人以上共同シテ買受ヲ爲ス場合ニ於テハ買受人ハ各自連帶シテ其ノ債務ヲ負擔スルモノトス

第五條　買受人ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書類ヲ提出スヘシ

第六條　賣拂ニ關スル承諾、通知、催告其ノ他ノ書類ノ送達ハ買受人又ハ其ノ代理人ノ申込當時ノ居住地若ハ其ノ後ノ屆出居住地ニ對シ之ヲ行フ

第七條　隨意契約ニ依リ買受ヲ爲サムトスル者ハ第一號書式ノ買受申込書ヲ提出スヘシ

第八條　明治四十五年宮内省令第七號第一條第二號乃至第六號ニ依リ買受ヲ爲サムトスル者ハ前條ノ買受申込書ニ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　工事ノ材料及數量ノ必要ヲ認ムルニ足ルヘキ書類

二　工事ニ付官廳其ノ他ノ機關ノ認可、承認又ハ決議ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ認可、承認又ハ決議ヲ證スヘキ書類

三　工事又ハ其ノ材料ノ供給ヲ請負ヒタル者ニ於テ買受ヲ爲サシムトスル場合ハ之ヲ請負ハシメタル者ノ證明書

第九條　賣拂物件ノ數量及材積ノ計算方法ハ帝室林野局ノ定ムル所ニ依ル

第十條　契約ハ入札又ハ買受ノ申込ニ對シ落札ノ通知又ハ賣拂ノ承諾ヲ發シタルトキ確定ス但シ條件ヲ付シテ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ買受人之ニ對スル請書ヲ發シタルトキ、又契約書ノ作製ヲ要件トシタル場合ニ於テハ之カ作製アリタルトキ確定スルモノトス

第十一條　契約確定ノ後ハ其ノ産物ニ付種類數量又ハ品質ニ於テ差異アリ若ハ隱レタル瑕疵アリトモ特約ヲ爲シタル場合ノ外買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二節　代金ノ納付及物件ノ引渡

第十二條　賣拂代金ハ契約確定ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ次條ノ規定ニ依リ代金後納ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　賣拂代金後納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ契約確定ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ手續ヲ爲シ許可アリタルトキハ同ク六十日以内ニ擔保ヲ提供スヘシ

賣拂代金ノ後納ハ競爭契約ノ場合ニ於テハ公告又ハ指示ニ明示セル

リシトキハ之ヲ許可セス

第一項ノ擔保ハ利札付無記名國債證券ニシテ賣拂代金ト同額以上ノ時價ヲ有スルコトヲ要ス

第十四條　賣拂代金ノ納付又ハ代金後納擔保ノ提供アリタルトキハ其ノ納付又ハ提供アリタル日ヨリ二十日以内ニ賣拂物件ノ引渡ヲ爲スモノトス

買受人ハ皇室會計令第五十八條ニ規定スル領收書ヲ提出シ代金ノ納了ヲ證スルコトヲ得

第十五條　貯材又ハ生産品ヲ賣拂フ場合ニ於テハ賣拂代金又ハ代金後納擔保ハ之カ分割納付又ハ提供ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ賣拂代金二萬圓ヲ超ユルトキニ限リ買受人ハ第十二條及第十三條第一項ノ規定ニ拘ラス最終ノ分割代金又ハ擔保ハ契約確定ノ日ヨリ百日以内ニ於テ之ヲ納付又ハ提供スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テハ納付又ハ提供シタル分割代金又ハ擔保ニ對スル相當價格ノ物件ノ分割引渡ヲ爲スモノトス

第十六條　賣拂物件ノ引渡ハ買受人ニ豫メ通告ヲ爲シタル日ニ於テ實地ニ付之ヲ行フ但シ双方ノ間ニ於テ物件ノ所在範圍等明確ナルトキハ次條ニ規定スル授受書ニ依リ引渡ヲ了スルコトアルヘシ

買受人正當ト認ムヘキ事由ナクシテ前項ノ實地引渡ニ立會ハサルトキハ其ノ期日ニ於テ引渡ヲ了シタルモノト看做ス

第十七條　賣拂物件ノ引渡ヲ了シタルトキハ第二號書式ノ引渡授受書ヲ作製スヘシ

第十八條　買受人代金ノ後納許可期間内ニ代金ヲ納付セサルトキハ契約擔任官吏ハ其ノ擔保ヲ適宜ノ方法ヲ以テ換價シ之ヲ以テ代金及換價費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ、過剰アルトキハ之ヲ還付ス

買受人ハ後納許可期間經過後十日以内ハ仍代金ヲ納付シテ擔保ノ還付ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ其ノ遲延日數ニ應シ一日ニ付代金ノ一萬分ノ三ノ割合ヲ以テ延滯料ヲ前納スルコトヲ要ス

第三節　物件ノ採取、撤出及轉賣

第十九條　買受人ハ買受物件ノ引渡ヲ受クルニ非サレハ之カ採取、加工又ハ撤出ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　立木竹ノ根株ハ特約ヲ爲シタル場合ノ外賣拂外トス

第二十一條　賣拂立木ニシテ根株ニ極ノ鎚記アルトキハ買受人ハ該極印ノ上部ヨリ伐採スヘシ若シ過テ極印ヲ滅失毀損シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第二十二條　買受人ハ契約ニ定メタル撤出期間内ニ買受物件ヲ所在地ヨリ撤出スヘシ

貸付地内ニ在ル産物ヲ其ノ借地人ニ賣拂ヒタル場合ニ於テハ特約ヲ爲シタル場合ノ外其ノ貸付期間ヲ以テ撤出期間ト看做ス

第二十三條　買受人撤出期間内ニ買受物件ノ撤出ヲ終ラサルトキハ撤出期間ノ延長ヲ出願スヘシ

前項ノ出願ニ對シテハ其ノ延長期間ニ付左ノ延期料ヲ前納スルニ非サレハ之ヲ許可セス但シ天災事變其ノ他ノ不可抗力ニ基因シ撤出ヲ爲スコト能ハサリシ場合ハ其ノ期間ニ對スル延期料ヲ免除スルコトアルヘシ

一　賣拂代金百圓以下ノ場合ハ一日ニ付五錢

二　賣拂代金百圓ヲ超ユル場合ハ一日ニ付其ノ二千分ノ一

第二十四條　撤出期間ノ再延長ハ之ヲ許可セス但シ天災事變其ノ他ノ不可抗力ニ基因シ又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ採取加工又ハ撤出ヲ中止セシメラレタル爲買受物件ヲ撤出スルコト能ハサリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　買受人撤出期間ノ滿了後許可ナクシテ買受物件ヲ撤出シタルトキハ第二十三條ニ規定シタル延期料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ違約金トシテ徵收ス

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ買受人ハ撤出未濟ノ物件ヲ抛棄シタルモノト看做シ當該官吏ニ於テ收得シ尚損害アル場合ニ於テハ其ノ賠償ヲ求ムルコトアルヘシ

一　撤出期間滿了ノ翌日ヨリ起算シ十日以内ニ期間延長ノ出願ヲ爲ササルトキ

二　撤出期間再延長ニ付許可ヲ得サルトキ

第二十七條　買受人ハ買受物件ノ採取、加工又ハ撤出等ノ爲特ニ御料地内ニ設備ヲ施ス必要アル場合ハ當該官吏ニ申出其ノ指揮ニ從フヘシ必要ノ事由止ミタルトキ之カ撤去ニ付亦同シ

當該官吏ノ指示シタル期間内ニ於テ前項設備ノ撤去ヲ爲ササル場合ハ之ヲ抛棄シタルモノト看做シ收得スルコトアルヘシ

第二十八條　買受人ハ其ノ代理人、使用人、請負人其ノ他ノ關係者ニ對シテモ入林中御料地又ハ其ノ産物ノ保護ニ付注意セシメ若シ被害又ハ其ノ虞アルコトヲ發見シタル場合ハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

第二十九條　買受人又ハ其ノ代理人、使用人、請負人其ノ他ノ關係者ニ於テ入林中御料地又ハ其ノ産物ニ損害ヲ與ヘタルトキハ買受人ニ於テ之カ賠償ノ責ニ任スヘシ

前項ノ損害ニシテ故意ニ基クモノト認メタルトキハ買受物件ノ爾後ノ採取、加工又ハ撤出等ヲ中止セシムルコトアルヘシ買受人ハ之カ爲損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十條　買受人未タ撤出ヲ終ラサル買受物件ヲ他ニ讓渡セムトスルトキハ第三號書式ノ願書ヲ當該契約擔任官吏ニ提出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ得スシテ讓渡ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ當該官吏ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十一條　明治四十五年宮内省令第七號第一條乃至第十號ノ規定ニ依リ用途ヲ限定シ隨意契約ヲ以テ買受ケタル物件ハ當該契約擔任官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ目的外ニ使用シ又ハ讓渡若ハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

買受人前項ノ規定ニ違背シタルトキハ賣拂代金ノ三割ニ相當スル金額ヲ違約金トシテ徵收ス許可ヲ得テ讓受ヲ爲シタル者ニ付亦同シ

第三十二條　買受人買受物件ノ撤出ヲ終リタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十三條　買受人ハ當該官吏ヨリ跡地檢査ニ立會ヲ求メラレタルトキハ故ナク之ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第四節　契約ノ解除

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ契約擔任官吏ハ別段ノ催告ヲ爲サスシ

チ契約ヲ解除スルコトヲ得

一　買受人指定ノ期間内ニ代金ヲ納付セス又ハ代金後納ノ擔保ヲ提供セサリシトキ

二　前號ノ外買受人契約事項ニ違反シタルトキ

三　法令關係ニ依リ産物ノ採取ヲ制限スル必要ヲ生シタルトキ

前項ノ契約解除ハ解除當時既ニ採取ヲ了シ又ハ搬出ヲ終リタル物件ニ對シテハ其ノ效力ヲ及ホスコトナシ

第三十五條　前條ニ規定スル契約解除ノ場合ニ買受人ニ於テ採取又ハ搬出ヲ爲スコトヲ得サルニ至リタル物件ニ付テハ契約擔任官吏ノ計算シタル相當金額ヲ既納代金中ヨリ還付ス

第一號書式　買受申込書

道
何府何町
縣郡何村大字何

何御料地
一何々
此材積何程

右買受申込代金何程

右ハ何々ノ爲隨意契約ヲ以テ買受仕度御許可ノ上ハ帝室林野局産物賣拂規程及左記條件遵守可致候

年　月　日

道
何府何町
縣郡何村大字何　何　某㊞

帝室林野局何支局何出張所長何某殿

記

一　物件搬出期限ハ何年何月何日限リトス

一　何々

（備考）買受物件ノ用途ハ明治四十五年宮内省令第七號第一條第二號乃至第十號ニ依リ賣拂フ場合ノ外記入スルコトヲ要セス

官國幣社以外ノ神社又ハ寺院其ノ他ノ宗教團體買受ヲ爲ス場合ニ於テハ氏子總代、信徒總代又ハ之ニ準スル者連印シテ申込ヲ爲スヘシ

第二號書式　引渡授受書

道
一　何府何町
縣郡何村大字何

何御料地區劃班何々内産物何々　合計何本

但シ㊞極印ヲ鎚記セル調査番號自第何號至第何號計何本

同調査番號第何號、第何號及第何號計何本

道
一　何府何町
縣郡何村大字何

何御料地區劃班何々内産物何々　何石（棚）

但シ㊞極印ヲ鎚記セル調査番號第何號立木　第何號標柱、第何號根株及第何號立木ヲ直線ニテ結ヒタル區域内ニ在ル物件トス

追テ右區域ヲ示ス目標物件ハ賣拂外トス

右引渡ヲ了シタルニ付本書二通ヲ作製シ双方各一通ヲ領置スルモノトス

年　月　日

道
何府何町
縣郡何村　契約擔任官吏何出張所長代
　何分擔區員　何　某㊞
　買受人　何　某㊞

（備考）引渡物件ノ調査番號列記ハ必要ニ應シ別紙ト爲スコトヲ得

貯材及生産品ノ場合モ本樣式ニ準シ作成スヘシ

第三號書式　買受物件讓渡願

道
何府何町
縣郡何村大字何

何御料地内
一　何々
此材積何程

右買受代金　何程　買受人　何某

右物件何某ニ讓渡致度御許可ノ上ハ買受人ニ於テ負擔セシ一切ノ義務ニ付テハ讓渡人及讓受人双方ニ於テ連帶責ニ任スヘク此段相願候

年　月　日

道
何府何町
縣郡何村　讓渡人　何　某㊞

道
何府何町
縣郡何村大字何　讓受人　何　某㊞

帝室林野局契約擔任官吏何某殿

●産物賣拂代金後納期間ニ關スル件

昭和七年一月十二日監第二六號
監理課長業務課長依命通牒

土地以外ノ物件ヲ賣拂ヒタル場合其ノ代金後納ノ許可期間ハ皇室會計令施行規則第百二十四條ノ三ノ規定ニ依リ一年以内ト相成居候處土地ノ産物、貯材及生産品ノ賣拂ニ關スル後納期間ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ左記ノ通御處理相成度

一　貯材ノ場合ハ賣拂許可ノ日ヨリ七月以内

二　其ノ他ノ場合ハ賣拂許可ノ日ヨリ一年以内但シ翌年三月二十五日ヲ超エサルコト

●産物賣拂ニ關スル件

昭和二年十一月三十日業第六〇四ノ二號甲次長通牒

産物貯材及生産品賣拂規程第三十八條（現産物賣拂規程第二十二條）ノ所在地ニ付テハ從來御料地全區域ト解釋シ賣拂關係書類ニ其御料地名ヲ以テ表示シ來リタル向モ有之候處右ハ廣大ニ失シ同規定ノ精神ニモ副ハサル嫌有之候ニ付産物賣拂ノ場合ニ在リテハ其賣拂區域ニ當ル林相班區劃班又ハ字名ニ依ルコト而シテ賣拂物件ニシテ前記ノ地域ヲ離レタルモノハ搬出濟トシテ取扱相成度尤モ當局運材設備ヲ利用シテ搬出スル場合其運材設備用地ニ隣接シ當局ノ指定セル積込箇所等ニ集材ヲ了リタルトキハ假令前記ノ地域内ト雖モ之ヲ搬出濟トシテ處理相成

差支無之候

●間伐木造材拂下豫約ニ關スル件

（要旨）

昭和三年十一月十九日業第二五七號林業試驗場長心得ヨリ協議
昭和四年二月十三日3業第七三〇ノ二號次長回答

間伐事業ヲ實行スルニ於テ間伐必要度ノ緩急ニ應シ官行造材前ニ拂下豫約方法ニヨルトキハ比較的安全且有利ニ處分シ得ト認メラルヽ場合ニハ別紙ニヨリ最初買受申込者ニ對シ賣拂豫約ヲナシ賣拂物件ノ數量、金額等確定ノ上賣買契約ヲ締結處理スルコト

但シ希望者少數ニシテ且不當見積價格ノ場合ニハ間伐繰伸ヘ他日好機會ヲ捉ヘテ處分スルコト

（別紙）

賣買豫約書

何縣何郡何村大字何字何御料地區劃班
林相班何ノ内

一、何年度施行何間伐木造材　豫定造材々積　石　棚
此賣拂單價ハ別表ノ通リ（別表トシテ樹種、材積、長、徑級及品位別單價表ヲ添付ノコト）

右物件造材終了材積確定ノ上ハ左記條件承諾ノ上別紙契約書案ニ基キ賣買契約ヲ締結スルモノトス

本契約ノ履行ヲ確保スル爲メ買受申込人ハ保證金　圓ヲ賣人ニ提供ス

本書ハ雙方署名捺印ノ上各自壹通ヲ領置ス

年　月　日

賣人　何　某印
買受申込人　何　某印

記

一、買受申込人ハ本契約ノ履行ヲ爲サヽルトキハ前記保證金ハ違約金トシテ賣人ニ於テ之ヲ收得スルモノトス

二、別紙賣買契約ハ造材終了ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ締結スルモノトス

三、造材ノ仕樣ハ賣人ノ定ムル所ニ依ル

四、物件引渡場所ハヽヽヽヽトス

賣買契約書案

何縣何郡何村大字何字何御料地區劃班
林相班何ノ内

一、何間伐木造材　此材積　石　棚
此賣拂代金
此契約保證金

右賣買ヲ爲シタルニ付テハ帝室林野局產物、貯材及生產品賣拂規程（現行帝室林野局產物賣拂規程）ハ勿論尙左記ノ條項ヲ遵守スヘク雙方署名捺印ノ上各自壹通ヲ領置候也

年　月　日

賣人　（印）
買人　（印）

記

一、造材ノ材價調査方法ハ賣人ノ施行スル所ニ從ヒ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス

二、買人ハ本契約締結ノ日ヨリ起算シ六十日内ニ賣人ノ指定シタル方法ニ依リ賣拂代金ヲ納入スルモノトス

三、買人ハ賣拂物件ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ起算シ何日限リ其ノ所在地ヨリ搬出スルモノトス

四、買人ハ賣拂物件ノ搬出ニ關シ賣人ヨリ其ノ方法ヲ指示セラレタルトキハ異議ヲ申立テサルモノトス

○神社寺院又ハ佛堂ノ境内地トシテ貸與シアル御料地内ノ產物下付ノ件

明治四十三年八月四日訓令第二十五號

現ニ神社寺院又ハ佛堂ノ境内地トシテ貸付シアル御料地ニシテ從前官有地タリシモノニ付テハ境内地ノ下草及枯損木竹ニ限リ其ノ社寺佛堂ノ出願アルトキハ無代價ニテ全部又ハ一部ヲ下附スルコトヲ得

●木材商況報告ノ件（要旨）

昭和二年一月二十日業第四六號次長ヨリ名古屋支局長ヘ通牒
昭和六年一月十日業第七號業務課長ヨリ東京、名古屋支局長ヘ通牒

名古屋支局管内名古屋及大阪市場、東京支局管内東京市場ニ於ケル木材商況報告ハ毎月一回トシ一般的景況ノ外別紙木材ニ對スル記載事項ニ付調査シ當該出張所ヨリ支局ヘ報告スル調書寫ヲ直接本局ヘ翌月五日迄ニ送付シ支局ニ於テ其報告ニ修正ヲ要スルモノアルトキハ直チニ其旨報告相成度

（別紙）

米材			
米　檜	丸太	毎月入荷（概）量及品位別石當價格	
	大		
米　松	角中小	同	
米　栂	角、丸太	同	
米　杉	丸太	同	
各樹種			
フリツチ（板子）	其他	同	
米　杉	四分板	正厚　品位別　坪又ハ枚　價格	
北洋材	毎月入荷（概）量		
エゾ松	丸太	石當價格	
落葉松	同	同	同
臺灣材	毎月入荷（概）量		
檜	品位別　石當價格		
内地材	毎月入荷（概）量		
檜、杉	丸太	產地及石當價格	
松、樅、栂	角	同	同
	丸太	同	同
主要製品	種類別	價格	
北海道材	毎月入荷（概）量		
栓、桂、タモ、檜、樺	角　石當價格		
朴	角及丸太、エゾ松	丸太　同	

木曾材（從前ノ例ニヨル）

●賣拂貯材ノ移動狀況報告ノ件（要旨）

昭和四年五月二日業第三一六號次長ヨリ東京、名古屋、木曾支局長ヘ通牒昭和六年一月三十日業第七ノ三號業務課長回答

豐住、熱田及大阪出張所ニ於テ處分セラレタル貯材及木曾支局管內土場賣處分ノ造材賣拂（人工植栽林ノ間伐材ヲ除ク）ノ需用地關係ヲ調査シ配材、賣拂等ノ參考ニ供シ度ニ付左記ニ依リ毎月ヒノキ、サハラノ搬出材ニ付可及的詳細ニ貯材移動ノ狀況ヲ調査ノ上一ヶ月遲レトシ商況報告（木曾支局ハ商況報告ヲ除ク）ト併セテ翌月五日迄ニ報告相成度

記

一、賣拂圓材ノ出張所所在地方ニ於ケル消費量並ニ同所在地方外移出量

二、同上移出量ニ付テハ送先（府縣別）、各送先別移出材積並ニ其用途ノ概況

三、前記以外製材トシテ移出セラルルモノニ付テハ其主ナル材種（柱、板等）、送先並ニ送先別見込數量

四、他貯木場處分ノモノニシテ移入セラルルモノアラハ其樹種、徑級、數量

●帝室林野局產物調查規程

昭和七年十二月二十八日業第五五八號
長官達（八年一月一日ヨリ施行）

第一條　產物ヲ賣拂フ爲之カ數量其ノ他ヲ調查スルハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

立木調查

第二條　立木ノ長ハメートル、直徑、周圍ハセンチメートル、材積ハ立方メートルヲ以テ單位トス但シ長ハ一メートル、直徑又ハ周圍ハ二センチメートル未滿ノ端數ヲ切捨テ材積ハ各品位徑級每ニ單位以下一位ニ止メ二位以下四捨五入ス尙箇々ノ計算ニ當リテハ單位以下二位ニ止メ三位以下四捨五入スヘシ

第三條　立木ノ材積ハ地上ヨリ梢頭マテノ幹材々積ト枝條ノ材積トニ區分シテ調查スヘシ但シ枝條ニシテ價格ヲ有セサルモノハ調查ヲ省略スルコトヲ得

第四條　立木ハ每木調查ヲ爲シ夫々番號ヲ付シ之ヲ第一號書式ノ實查野帳ニ揭記シ第二號書式ノ計算表ニ依リ其ノ本數及材積ヲ集計スヘシ但シ伐採後材積調查ヲナスヘキ立木又ハ燃材トナスヘキ立木ハ每木調查ヲ省略シ標準地法ニ依リ本數及材積ヲ調查スルコトヲ得

第五條　每木調查ノ場合ニ於ケル立木ノ幹材々積ハ全長及胸高（地上ヨリ一・二メートルノ位置）直徑若ハ周圍ヲ測リ別表ノ立木幹材積表又ハ形數表ニ依リ之ヲ算定スヘシ但シ胸高直徑六センチメートルヲ超エサルモノハ適宜ノ方法ニ依リ其ノ材積ヲ算定スルコトヲ得

胸高斷面不整形ナル立木ニ付テハ長短兩直徑ヲ測定シ之ヲ平均スヘシ

立木ニシテ空洞、腐朽其ノ他缺材部ヲ有スルモノハ其ノ部分ヲ控除シタル實材積ヲ算出スヘシ

立木ノ枝條又ハ根株ノ材積ハ其ノ幹材々積トノ歩合ヲ推算シ之ニ據リ適宜算出スヘシ

第六條　標準地調查法ニ依ル標準地ハ調查スヘキ區域中ニ於テ疎密及成長ノ狀態中庸ヲ得タル場所ニ就キ概ネ左ノ制限ニ依リ之ヲ選定スヘシ但シ調查スヘキ區域中林相著シク異ナルモノアル場合ハ各別ニ調查區域ヲ定メテ標準地調查ヲ行フヘシ

一　調查區域十ヘクタール未滿ナルトキハ其ノ五十分ノ一乃至二十分ノ一ノ面積ヲ有スル標準地二箇所以上

二　調查區域十ヘクタール以上ナルトキハ其ノ百分ノ一乃至五十分ノ一ノ面積ヲ有スル標準地三箇所以上

第七條　標準地內ノ立木材積ハ第五條ノ每木調查法又ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ調查スヘシ但シ特ニ精密ヲ要スル場合若ハ別表立木幹材積表又ハ形數表ニ依リ難キ場合ハ標準地內ニ於テ各徑級每ニ標準木ヲ伐採シテ材積又ハ形數ヲ求メ之ニ基キテ標準地內ノ材積ヲ算出スヘシ

一　每木ニ就キ胸高直徑ヲ測定シテ之ヲ第三號書式ノ實查野帳ニ揭記シ同樹種ニシテ同徑ノ立木ノ數ヲ集計スヘシ

二　各直徑每ノ立木中ニ於テ各數本ノ標準木ヲ選定シ其ノ長ヲ測定シテ平均長ヲ算定シ別表立木幹材積表又ハ形數表ニ依リ其ノ材積ヲ求メ之ニ各直徑ノ本數ヲ乘シ其ノ和ヲ標準地ノ材積トス

第八條　標準地內ノ立木材積ヲ算定シタルトキハ第四號書式ノ計算表ニ依リ各標準地每一ヘクタールニ對スル樹種別本數及材積ヲ算出シ更ニ之ヲ平均シタル本數及材積ニ基キ全區域ノ本數及材積ヲ算出スヘシ

第九條　末木又ハ倒木ノ材積ハ穗付丸太ニ準シテ算定スヘシ但シ中央直徑ヲ測定シ得サル場合又ハ燃材トナスヘキモノノ材積ハ立木ニ準シテ算定スルコトヲ得

第十條　立竹ノ太ハ胸高周圍ヲ調查シセンチメートルヲ單位トシテ之ヲ表ハシ數量ハ本又ハ束（一メートル繩〆）ヲ以テ表ハス

生產品調查

第十一條　造材及製材ノ調查ハ左ノ各項ニ定ムルモノノ外ハ大正十五年十月二十六日商工省告示第三十號ニ揭クル木材ノ規格ノ定ムル所ニ依ル

一　造材ノ長ハメートルヲ單位トシ單位以下一位ニ止メ以下端數ヲ切捨テ直徑、周圍、厚、幅ハセンチメートルヲ單位トシ且ツ二センチメートル每ニ止メ未滿ノ端數ヲ切捨ツ

造材ノ長ニシテ別ニ定尺ヲ定メタルモノハ其ノ長ニ依ル

造材ノ材積ハ立方メートルヲ以テ單位トシ單位以下二位ニ止メ三位以下四捨五入ス

二　穗付丸太ノ檢尺徑ハ元口ヨリ一・二メートルノ部分ニ於テ最小徑トス

多數ノ穗付丸太ニシテ檢尺徑二十センチメートル未滿ノモノノ材積ヲ計算スル場合ニハ檢尺徑每ニ總本數ヲ區分シ各徑級每ニ數本

ノ標準木ヲ選定シテ平均中央徑並ニ長ニ依リ平均材積ヲ求メ之ニ各本數ヲ乘シテ總材積ヲ算定スルコトヲ得

三　造材ニシテ突割ノ爲著シク直徑ヲ減シタル部分アルトキハ其ノ缺材部ヲ切斷遺棄シタルモノト看做シテ材長トナスコトヲ得

一空洞材又ハ引拔材ハ其ノ利用シ得ル部分ノ材積ヲ算定シ其ノ材積ニ相當スル圓材ノ檢尺徑ヲ以テ其ノ檢尺徑ト看做スコトヲ得

四　大割材ノ太ハ檢尺徑ニ於ケル最大最小兩直徑ノ相乘積ノ平方根ト同一ノ檢尺徑ヲ有スル圓材ト看做ス其ノ他異形ノ造材ハ其ノ形狀ニ從ヒ適宜算定スヘシ

第十二條　燃材ハ層積立方メートルヲ以テ單位トシ單位以下一位ニ止メ二位以下四捨五入ス

第十三條　層積ヲ實積ニ又ハ實積ヲ層積ニ改算スルニハ枝條麁朶及之ニ準スヘキモノハ〇・四立方メートル、其ノ他ハ〇・七立方メートルヲ以テ層積一立方メートルト推定ス但シ特ニ實積ト層積トノ係數ヲ實驗シタル場合ニ於テハ其ノ係數ニ依リ改算スルコトヲ得

第十四條　丸太、穗付丸太及柚角ハ各其ノ直徑又ハ厚幅及長等ヲ第一號書式ノ實査野帳ニ揭記シ第二號書式ニ依リテ其ノ本數及材積ヲ計算スヘシ

燃材ハ椪積毎ニ番號ヲ付シ第一號書式ノ實査野帳ニ揭記シテ材積ヲ計算スヘシ

第十五條　木炭ハ俵又ハキログラムヲ以テ單位トシ單位以下ハ之ヲ切捨ツ木炭ノ調査ハ昭和四年四月十日商工省告示第十三號ニ揭クル木炭規格ノ定ムル所ニ依ル

第十六條　農產物ハキログラムヲ以テ單位トシ單位以下四捨五入ス但シ必要アル場合ハ單位以下一位ニ止メ二位以下四捨五入ス

第十七條　雜種物ハ左ノ單位ヲ用フ

一　柴草、樹葉ハ束（一メートル繩〆）又ハキログラム（單位以下四捨五入）

二　菌茸ハキログラム（單位以下四捨五入）

三　樹實ハキログラム又ハリツトル（單位以下四捨五入）

四　樹皮ハ束（一メートル繩〆）キログラム又ハ平方メートル（單位以下四捨五入）

五　石類ハ立方メートル（單位以下一位ニ止メ二位以下四捨五入）但シ轉石ハ個

六　土類ハ立方メートル（單位以下四捨五入）

第十八條　產物ノ調査ニシテ本規程ニ定メナキモノハ從來ノ慣例又ハ適宜ノ方法ニ依リ調査ヲ行フヘシ

附　則

第十九條　貯木場ニ收容スヘキ造材並ニ之ト同一伐出地ノ造材ノ品等標準並ニ定尺ハ當分ノ內左記各項ノ定ムル所ニ依ル

前項以外ノ造材ニシテ業務上又ハ賣拂上直ニ商工省告示木材規格品等區分ニ依リ難キモノアルトキハ當分ノ內從來ノ慣行ニ依ルコトヲ得

品　等

第一　造材ノ品等ハ節及曲ノ狀況ニ依リ左表ノ通上中並下ノ四等ニ

節＼曲	直材	小曲材	大曲材	重曲材
無節	上	上	並	並
三方無節　一方小節 同　一方大節 二方無節　二方小節	上	中	並	下
一方無節　三方小節 二方無節　二方大節	中	並	並	下
一方無節　三方大節	並	並	並	下
四方小節 三方小節　一方大節	並	並	下	下
四方大節	下	下	下	下

第二　節ヲ定ムル標準ハ次ノ如シ

一　直徑二十センチメートル未滿ノ材ニアリテハ長徑一・五センチメートル以內ノ節ヲ小節トス

二　直徑三十センチメートル未滿ノ材ニアリテハ長徑二センチメートル以內ノ節ヲ小節トス

三　直徑六十センチメートル未滿ノ材ニアリテハ長徑二・五センチメートル以內ノ節ヲ小節トス

四　直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以內ノ節ヲ小節トス

第三　曲ハ根張ヲ含マサル內曲面ノ最大矢高カ最小徑又ハ最小邊ニ對スル百分率ヲ以テ之ヲ表ハシ五%以下ノモノハ曲ナキモノト看做シ二十五%以下ノモノヲ小曲材、二十五%ヲ超ユルモノヲ大曲材トシ二方面ニ五%ヲ超ユル曲アルモノヲ重曲材トス但シ小曲材ノ重曲材ハ大曲材ト看做ス尙曲材ナルモ特種ノ用材ニ充ツヘク特ニ造材シタルモノハ直材ト看做ス

第四　角材ノ丸身ハ材ノ最小斷面ニ於ケル各邊ノ丸身厚ノ和ノ四邊ノ和ニ對スル百分率ヲ以テ之ヲ表ハス丸身ノ等級ハ次ノ通トス

等級	丸身
丸身ナシ	五%以下ノモノ
丸身二割	二〇　同
丸身四割	四〇　同
丸身六割	六〇　同
大丸身	六〇%ヲ超ユルモノ

第五　直材ニシテ節三個以內ノモノハ品等一等ヲ上ス

第六　左ノ各號ノ場合ハ品等ヲ下スコトヲ得

一　直徑二十センチメートル未滿ノ小曲材ハ相當等級ヨリ一等、大曲材又ハ重曲材ハ二等以內

二　腐朽、「あて」、胴打又ハ突割材ハ腐朽、損傷等缺點ノ程度ニ應シテ三等以內

三　目廻材ハ目廻ノ程度ニ應シ二等以內

四　木口割材又ハ引拔材ニシテ深サ材長ノ十分ノ一以上ニ及フモノハ一等

五　顯著ナル入皮、空洞、捩、虫喰、干割材又ハ之ニ準スル缺點アルトキハ其ノ程度ニ應シテ二等以內

第七　品等ヲ下シタル爲品位下以下トナルモノハ次品トス

第八　業務上又ハ賣拂上品等ヲ區別セサルヲ有利ト認メタル場合ハ之ヲ省略シ品位込トシテ處理スルコトヲ得

定尺

造材ノ定尺ハ左ノ如ク定ム但シ注文ニ依リタルトキ又ハ造材上或ハ賣拂上有利ト認メタルトキハ定尺ニ依ラサルコトヲ得

定尺	樹種
m 一・〇	一般樹種
一・九	ヒノキ、カウヤマキ、サハラ以外ノ樹種
二・二	ヒノキ、サハラ、カウヤマキ
二・四	主トシテ濶葉樹
三・一	一般樹種
三・七	主トシテ濶葉樹並ニ關東向製板用モミ、タウヒ、ヒメコマツ、ネズコ等
四・〇	一般樹種
四・六	同
五・五	ヒノキ、アスナロ、カウヤマキ、ケヤキ
六・三	同
七・三	同
八・二	同
九・一	同

以上〇・九m毎ニ階級ヲ設ク

尚造材ノ定尺ニ對シテハ兎角代其ノ他ヲ除キ六メートル未滿ノ材ハ十センチメートル以内、六メートル以上ノ材ハ二十センチメートル以内ノ延寸ヲ付スルコトヲ得

第二十條　木炭ノ調査ハ當分ノ間左記標準ニ依ルコトヲ得

第一　木炭ハ其ノ製造法ニ依リ之ヲ次ノ二種ニ區分ス

一、白炭、白消法（通常窯外消火法即チ炭窯又ハ炭窯ト看做スヘキ裝置ヨリ取出シテ消火スル方法）ニ依リ製造シタルモノ

二　黒炭、黒消法（通常窯内消火法即チ炭窯又ハ炭窯ト看做スヘキ裝置内ニテ消火スル方法）ニ依リ製造シタルモノ

第二　木炭ハ其ノ形狀ニ依リ之ヲ次ノ四種ニ區分ス

一　丸、横斷面圓狀ニシテ長六センチメートル以上ノモノ但シ徑八センチメートル以上ハ割炭ト看做ス丸炭ハ其ノ徑ニ依リ更ニ次ノ如ク區分ス

黒炭ニシテ徑三センチメートル以上八センチメートル以下ハ丸トシ徑三センチメートル未滿ハ小丸トス白炭ニシテ徑二センチメートル以上八センチメートル以下ハ丸トシ徑二センチメートル未滿ハ小丸トス

二　割、横斷面缺圓狀ニシテ長六センチメートル以上ノモノ但シ製炭ノ各横斷面各邊ハ一〇センチメートルヲ超エサルコト

三　荒、長六センチメートル未滿ノモノニシテ二センチメートル角ノ孔ヲ有スル金篩ニ止マリタルモノ

四　粉、二センチメートル角ノ孔ヲ有スル金篩ヨリ落チタルモノ

第三　木炭ハ其ノ品質ニ依リ之ヲ次ノ二種ニ區分ス

上　いぶり、はね、たちぎえ、しめり、其ノ他ノ缺點ナキモノ

並　前記ノ缺點少ナキモノ

第四　木炭ノ取引ニ用フル重量ノ單位ハキログラムトス包裝シタルモノニ在リテハ其ノ一箇ノ正味重量ハ一五キログラムトス但シ製産地地元ノ習慣ニ依リ一〇キログラム、二〇キログラム、二五キログラム又ハ三〇キログラムトスルコトヲ得

第五　包裝シタル木炭ニシテ輸送中ニ生シタル破碎量一割ヲ超ユルモノハ之ヲいたみト稱スルコトヲ得

第六　木炭ノ稱呼ハ原料樹種名ヲ冠シ第一及第二ノ種別名ヲ併稱ス但シ場合ニ依リ雜ヲ以テ樹種名ニ代フルコトヲ得

樹種又ハ種別ノ混合シタルモノハ其ノ込ト稱ス

第七　木炭ノ包裝ニハ燒印其ノ他ノ方法ニ依リ製産地名、稱呼、品質、正味重量及出張所名ヲ表示スルモノトス

第八　賣拂上木炭ノ形狀區分ヲ必要トセサル場合ハ之ヲ區分セサルコトヲ得

（書式）

第一號書式甲　　實査野帳

番號	樹種	材積	直徑 cm	長 m	品位	造材歩合	備考
1	スギ		20	20	上		
2	ヒノキ		18	15	並		
3	〃		22	20	〃		

第一號書式乙　　實査野帳

1.	スギ
	20 cm
	20 m
	上

第二號書式甲　　材積計算補助表

樹種　スギ

直徑 cm / 長 m	20			22			24			備考
	上	中	並	上	中	並	上	中	並	
4	正									
5		正			丁	下				
6			正				正			
7				丁		正		一	下	

第二號書式乙　　材積材價計算表

豫定簿記入番號 ―――　事業區 ―――　區劃班 ―――　研伐面積 ―――ha

樹種	材種	直徑	長	品質	本數	材積		材價		備考
						每木	總額	單價	總額	

第三號書式　　標準地實査野帳

胸高直徑 cm	樹種スギ　平均林齢20　面積 ―――ha							總木數	平均 長 m	平均 材積 m³	總材積 m³	備考
10	正	丅	一					8	―――	―――	――――	
12	正	正	下	丅				16	―――	―――	――――	
14	正	正	正	下	一			19	―――	―――	――――	
16	下	下	丅					9	―――	―――	――――	
18	下	一						5	―――	―――	――――	
20	丅							2	―――	―――	――――	

第四號書式　　標準地材積計算表

豫定簿記入番號 ―――事業區 ―――區劃班 ―――林相班 ―――研伐面積 ―――ha

標準地番號	標準地面積 ha	樹種	胸高直徑 cm	長 m	本數	材積 m³	平均1ha當 本數	平均1ha當 材積	研伐面積ニ對スル 本數	研伐面積ニ對スル 材積	備考
1	200	ザツ	自――― 至――――	自――― 至――――	200	―――	―――	―――			
		マツ	自―― 至――	自――― 至――――	50	―――	―――	―――			
計					250	―――	―――	―――			
2	253	ザツ	自―― 至――	自――― 至――――	150	―――	―――	―――			
		マツ	自―― 至――	自――― 至――――	80	―――	―――	―――			
計					230		―――	―――			
平均		ザツ					―――	―――	―――	―――	
		マツ					―――	―――	―――	―――	
計							―――	―――	―――	―――	

●造材高報告ノ件

大正五年五月十二日第一二五四號主事ヨリ名古屋、木曾支局長ヘ通牒

配材ノ計畫上必要有之候條貴支局管内木曾御料地ニ於ケル伐木事業ニシテ造材終了ノ場合ハ其都度各伐木所現在ノ造材高ヲ左ノ區分ニ從ヒ報告相成度候

記

第一號表　鐵道輸送、土場處分及製材資料トナスヘキ見込ノ分

伐出地	造材年度	樹種	長	末徑	材積	備考

記載例

(1) 造材年度毎ニ小計、伐出地毎ニ計、各伐出地ヲ通シテ合計ヲ付スルコト

(2) 末徑ハ六寸以下、中目、尺一上ノ三階級ニ區分記入スルコト

(3) 最後ニ伐出地毎ニ鐵道輸送、土場賣、又ハ製材資料ノ豫定ヲ樹種別毎ニ再掲スルコト

第二號表　大川狩、山元處分及越木トナスヘキ見込ノ分

伐出地	造材年度	種別	樹種	材積	備考

記載例

(1) 種別ニハ大川狩、山元處分又ハ翌年度ヘ越木トスヘキモノヲ順次口取ヲ設ケテ記入スルコト

(2) 種別毎ニ小計、造材年度毎ニ計、伐出地毎ニ合計、各伐出地ヲ通シテ總計ヲ付スルコト

○御料地ノ立木又ハ木材ニ用ユル極印ノ件

明治二十六年一月十六日宮内省告示第一號

御料地ノ立木又ハ木材ニ用ユル極印左ノ通相定メ本年一月ヨリ使用ス

極印雛形

第一號

第二號

一　第一號極印ハ檢査ヲ爲シタル立木根株及木材ニ黒色ニテ鎚記ス
但盜誤伐ニ罹リタル殘存木材及其根株ニハ朱色ニテ鎚記ス

二　第二號極印ハ賣渡譲與ノ爲メ引渡ヲ爲セシ立木根株及木材ニ黒色ニテ鎚記ス

●同上ノ件

明治二十六年一月十六日25第三四四六號局長ヨリ地方部局ヘ達

御料地ノ立木又ハ木材ノ檢査及引渡等ニ用ユル極印雛形之通一定候條本年一月ヨリ左ノ區別ニ據リ使用スヘシ

極印雛形（前揭本省告示雛形ニ同シ）

徑壹寸字體圖ノ如シ

極印使用區別

一　左ノ場合ニ於テハ第一號雛形極印ヲ黒色ニテ立木及木材等ヘ鎚記スヘシ

一　賣渡譲與ヲ爲スニ當リ豫メ其立木及木材ノ調査ヲ爲セシトキ

二　伐跡檢査ヲ爲セシトキ

三　賣渡木ノ根株、境界木、境界標其他區域ヲ定メ産物ヲ賣渡シタル御料地中存置ヲ要スヘキ立木及其境木等アルトキ

四　以上ノ外ニ於テ使用ヲ要スルトキ

二　盜誤伐ニ罹リタル殘存木材及其伐根ニハ第一號雛形極印ヲ朱色ニテ鎚記スヘシ

三　賣渡譲與ノ爲メ引渡ヲ爲セシ立木及木材ニハ第二號雛形極印ヲ黒色ニテ鎚記スヘシ

四　極印ヲ誤鎚セシトキハ朱色ノ場合ニハ黒色ノ同印ニテ又黒色ノ場合ニハ朱色ノ同印ニテ消印スヘシ

（備考）　御料地委託シアル各地方廳（滋賀靜岡鹿兒島ノ三縣ハ除ク）ヘハ二十六年二月二十一日付第三九六ノ二號ヲ以テ局長ヨリ第一號第二號雛形共徑一寸字體告示ノ通リ調製ノ義使用區別添圖答又ハ通知セリ

○御料林伐出木材切判ノ件

昭和三年三月十日宮内省告示第一號

帝室林野局ニ於テ御料林ヨリ伐出スル木材ニ使用スル切判ノ形式左ノ如ク定メ大正二年宮内省告示第三號ハ之ヲ廢止ス

一年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
二年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
三年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
四年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
五年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
六年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
七年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
八年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
九年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
十年	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク

下部ノ切判（伐木年度ヲ識別スル爲附スルモノ）ハ十年毎ニ回歸シテ元號ニ拘ラス當該年度ニ相當スル切判ヲ使用シ又上部ノ切判（御料材タルコトヲ識別スル爲附スルモノ）ノ直下ニ別ニ伐木地ヲ識別スル爲適宜ノ切判ヲ加フ

○日光中宮祠湖漁業其他取締規程等ノ件

明治四十年十一月十二日39第二〇六二ノ五號大臣ヘ伺定

日光中宮祠湖水産事業經營方法ニ就テハ既ニ御決裁ヲ經居候處同湖漁業取締上必要有之候ニ付遊漁者心得、漁業及舟艇取締、漁獲物賣却ニ關シ別紙ノ通リ各規程ヲ設ケ實施致度且又同方法中漁場ノ一部タル各溪流ハ鱒類ノ增殖顯著ナルニ至ルマテ禁漁シ及雜魚捕獲ヲ一般ニ許可スルコトハ事業著手初期ノ方法トシテハ適切ナルモノト認メラレ候ニ付實施候樣致度

追テ本文御決裁ノ上ハ其各規程中ノ料金額等ノ決定其他本規程ノ運用ニ處理スヘキ事項ハ總テ當局限リ決行ノ事ニ致度將又本規程ハ地元村役場ニ依賴シテ掲示シ其他當局日光孵化場内ノ見易キ適所ヘ掲示スル等簡便ノ方法ヲ以テ廣示スル事ニ致度候條併テ御聽許相成候樣致度

（別紙）

日光中宮祠湖漁業取締規則

第一條　漁業ノ許可ヲ受クヘキ資格ヲ有スル者ハ元漁業組合員ニ限ルモノトス

第二條　漁業ノ許可期間ハ三ケ年トス

但シ期間滿了ノトキハ更新スルコトヲ得

第三條　漁業ヲ爲サムトスルモノハ左ノ事項ヲ揭記シタル願書ヲ提出シテ許可ヲ受クヘシ

一　漁船　隻數　大サ

二　漁具　名稱　員數

第四條　漁場ハ各溪流ヲ除キ湖水面一圓トス

第五條　漁具ハ左ノ三種ニ限ルモノトス

一　釣具

二　投網

三　筌

第六條　鱒類ノ體長五寸以下ノモノハ之ヲ禁漁ス

第七條　鰕ハ全湖水面ニ於テ鱒類ハ指定區域内ニ於テ左ノ期間之ヲ禁漁ス

但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一　鰕　七、八ノ貳ケ月間

二　鱒類　九、拾、拾壹ノ參ケ月間

第八條　前二條ノ禁漁ニ係ル魚類ヲ捕獲シタルトキハ直ニ湖中ニ放ツヘシ

第九條　漁業ノ許可ヲ得タルモノニハ條件ヲ指示シテ同業組合ヲ設ケシムルコトアルヘシ此場合ニハ漁業者ハ之ニ加入スルノ義務アルモノトス

第十條　組合ヲ設ケサル場合ニ於テハ漁業ニ關シ帝室林野管理局ヨリ指示スル事項ヲ處理スル爲メ漁業者ハ同業者中ヨリ總代參名ヲ撰ミ其ノ氏名ヲ届出ツヘシ

第十一條　漁業ノ許可ヲ得タルモノハ毎年別ニ定ムル所ノ漁業料金ヲ納メ鑑札ヲ受クルモノトス漁業ノ許可ヲ得タルモノト雖モ鑑札ヲ携帶セサルモノハ漁業スルヲ得ス

第十二條　漁業鑑札ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十三條　漁業鑑札ヲ亡失、毀損シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ若シ再度鑑札ノ下付ヲ請フトキハ別ニ定ムル所ノ手數料ヲ納ムヘシ

第十四條　漁業鑑札ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ直ニ返納スヘキモノトス

第十五條　漁業者ハ其ノ氏名住所ヲ變更シ又ハ漁船漁具ヲ增減シタル場合及ヒ廢業シタル場合ニハ其ノ旨届出ツヘシ

第十六條　漁業者ハ帝室林野管理局直營ノ漁業及ヒ遊漁ノ舟夫ニ雇用セラルヽノ義務アルモノトス

但シ別ニ定ムル賃金ヲ受クルモノトス

第十七條　第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十一條、第十二條、第十六條ニ違背シタルモノアルトキハ漁業ヲ停止シ若クハ漁業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十八條　漁業者廢業セシトキ又ハ漁業ヲ停止セラレ若クハ許可ヲ取消サレタルトキハ漁業鑑札ハ將來效力ヲ失フモノトス

日光中宮祠湖舟艇取締規則

第一條　日光中宮祠湖ニ於テ舟艇ノ賃貸若クハ旅客物品ノ運送ヲ營業スル爲メ湖水面ヲ使用セムトスルモノハ其ノ使用スヘキ舟艇ノ隻數大サヲ揭記シタル願書ヲ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條　水面使用ノ許可期間ハ三ケ年トス

但シ期間滿了ノトキハ更新スルコトヲ得

第三條　第一條ニ依リテ水面使用ノ許可ヲ得タルモノ又ハ日光中宮祠湖漁業取締規則第三條ニ依リ漁業ノ許可ヲ得タルモノハ其ノ使用スル舟艇各隻ニ付キ毎年別ニ定ムル所ノ料金ヲ納メ鑑札ヲ受クヘシ

第四條　鑑札ハ舟艇中見易キ個所ヘ釘付シ置クモノトス

第五條　鑑札ヲ亡失、毀損シタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ若シ再度鑑札ノ下付ヲ請フトキハ別ニ定ムル所ノ手數料ヲ納ムヘシ

第六條　鑑札ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ直ニ返納スヘキモノトス

第七條　水面使用又ハ漁業ノ爲メ使用スルノ目的ヲ以テ新ニ舟艇ヲ造ラムトスルモノハ豫メ其ノ隻數、大サ、構造、使用目的ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ構造ニシテ不都合ノ箇所アル場合ニハ改訂又ハ制限ヲ附スルコトアルヘシ

第八條　舟艇所有者ニシテ其ノ所有隻數ノ變更及ヒ毀損廢棄ノ際ハ其ノ都度届出ツヘシ

第九條　各營業者ハ毎年一定ノ賃料額ヲ定メ許可ヲ受クヘシ

前項ノ賃料額ハ見易キ所ニ揭示シ置クヘシ

第十條　何等ノ名稱ヲ附スルモ許可ヲ受ケタル以外ノ賃料ヲ要求シ若クハ收受シタルモノアルトキハ水面使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條　第一條ニ依リテ水面使用ノ許可ヲ得タルモノ又ハ日光中宮

第十一類　土地拂下

祠湖漁業取締規則第三條ニ依リ漁業ノ許可ヲ得タルモノニシテ鑑札ヲ受ケサル舟艇ヲ使用スルモノアルトキハ水面使用ノ許可若クハ漁業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條　水面使用ノ許可又ハ漁業ノ許可ヲ取消サレタルトキハ舟艇鑑札ハ將來其ノ效力ヲ失フモノトス

第十三條　自家用舟艇ト雖モ湖水面ヲ使用スルトキハ本則ヲ準用ス

日光中宮祠湖漁獲物賣却規程

第一條　漁獲物ハ漁獲ノ都度時價ニ依リ魚商ニ賣却ス

但シ特殊ノ場合ニ限リ直接需用者ニ賣却スルコトアルヘシ

第二條　一時ニ多數ノ漁獲アリタルトキハ一般競爭入札ニ付シ賣却スルコトアルヘシ

第三條　賣却代金ハ漁獲物引渡前收納スルモノトス

第四條　漁獲物引渡後ニ至リ腐敗、毀損等ノ故障アルモ一切其ノ責ニ任セス

第五條　魚商ニシテ漁獲物ヲ購入セントスルモノハ豫メ魚商タルヲ證明シ承認ヲ受ケ置クヘシ

日光中宮祠湖遊漁者心得

遊漁セラルヽ方ハ左ノ事項ヲ心得ラルヘシ

一　漁場ハ全湖水面トス

但シ鱒類ハ其ノ産卵期九、拾、拾壹ノ參ケ月間ハ水面ノ一部ヲ限リ禁漁ス其ノ區域ハ現場ニ掲示ス

一　漁法ハ釣漁トシ魚類ハ何種ヲ問ハスト雖モ體長五寸以下ノ鱒類ハ釣獲ヲ禁ス若シ釣獲セラレタルトキハ直ニ湖中ニ放還セラルヘシ

一　遊漁者ハ釣漁料トシテ別ニ定ムル料金ヲ拂込ミ釣漁券ヲ受取ラルヘシ

一　遊漁用ノ舟艇、釣具ハ常設シアルニヨリ希望ノ方ハ申出テラレタシ

但シ別ニ定ムル料金ヲ申受クヘシ

一　貸貸物ヲ亡失又ハ毀損セラレタルトキハ實費ヲ申受クヘシ

一　舟夫ヲ使用セラルヽ場合ニハ適當ノモノヲ附隨セシム

但シ別ニ定ムル雇賃ヲ支拂ハルヘシ

一　終漁ノトキハ釣漁券ヲ還付セラルヘシ

●湯湖遊漁者心得及舟艇取締規則ニ關スル件

大正七年六月七日業第一七二六ノ一號東京支局長上申

本年度ヨリ奥日光入湯元所在湯湖（中略）其ノ性質ニ於テ日光中宮祠湖ト何等差違ノ點モ無之候ニ付中宮祠湖ト同一方法ニヨリ取締候方利便ト被認候條日光中宮祠湖遊漁者心得並ニ日光中宮祠湖舟艇取締規則ヲ準用致度候間御認可相成度候

（指令　大正七年六月十九日第一六三五ノ二號ヲ以テ認可）

第十一類　土地拂下

○不要存御料地處分令

大正七年十二月二十
七日皇室令第十六號

（改正）大正十年皇室令第六號、十二年同第十三號、十三年同第八號、十四年同第九號、昭和五年同第十二號

第一條　御料地整理ノ爲ニ行フ土地ノ賣拂ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　土地ノ賣拂ハ一般入札ノ方法ニ依リ競爭ニ付スヘシ

第三條　土地ノ賣拂ハ左ニ揭ケタル場合ニハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公共用公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二　本令公布前ヨリ引續キ年期ヲ以テ貸付スル土地若ハ其ノ換地トシテ貸付スル土地及其ノ殘地ヲ其ノ借受人又ハ土地ノ使用者ニ賣拂フトキ

三　開墾又ハ植樹ノ爲年期ヲ以テ貸付スル土地及其ノ殘地ヲ其ノ事業ノ成功者ニ賣拂フトキ

三ノ二　保安林ヲ其ノ直接利害關係者ニ賣拂フトキ

四　產物特賣ノ慣行アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ特賣ヲ受クル者ニ賣拂フトキ

五　放牧ノ慣行アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ放牧人ニ賣拂フトキ

六　本令公布前ヨリ部分木ノ仕付アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ仕付人ニ賣拂フトキ

六ノ二　委託林野ヲ其ノ受託者ニ賣拂フトキ

六ノ三　道路、鐵道、軌道、溜池、水路、堤塘又ハ發電所ノ敷地トシテ貸付スル土地ヲ其ノ借受人ニ賣拂フトキ

七　小面積ノ土地ヲ其ノ隣地ノ所有者ニ賣拂フトキ

八　地方團體ニ其ノ所在ノ土地ヲ賣拂フトキ

九　競爭ニ付シタルモ競爭者ナキトキ又ハ競爭價格豫定價格ニ達セサルトキ

十　競落人ニ於テ義務ヲ履行セサルニ因リ賣拂ヲ爲スコトヲ得サル土地ヲ落札金額ヲ下ラサル價格ヲ以テ賣拂フトキ

第四條　前條第二號乃至第七號ノ關係アル土地ハ其ノ各號ノ一ニ該當スル資格者ニ賣拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ限リ之ヲ隨意契約ニ依リ宮內大臣ノ定ムル所ニ從ヒ當該資格者ニ準スヘキ者ニ賣拂フコトヲ得

第五條　賣拂代金ノ納付ヲ怠リタルニ因リ賣拂契約ヲ解除シタルトキハ買受人ヲシテ宮內大臣ノ定ムル所ニ依リ違約金ヲ納付セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ既納ノ賣拂代金アルトキハ之ヲ違約金ニ充當ス

第六條　賣拂代金ハ事情ニ依リ其ノ分納ヲ許可スルコトヲ得

賣拂代金ノ分納ヲ許可シタル場合ニ於テハ買受人ヲシテ擔保ヲ提供セシムヘシ但シ立木ナキ土地ノ賣拂代金又ハ國若ハ地方團體ニ對スル土地ノ賣拂代金ニ付テハ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

第六條ノ二　立木地ノ賣拂代金ニ付テハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ土地代金ト分離シテ立木代金ノ納付ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ立木地ノ立木代金ヲ完納シタル場合ニ於テハ前條

第二項ニ規定スル擔保ノ提供ニ關シテハ之ヲ立木ナキ土地ト看做ス

第七條　分納ヲ許可シタル賣拂代金ニハ利子ヲ附シ年賦又ハ半年賦ノ方法ニ依リテ之ヲ納付スヘシ但シ公共用公用又ハ公益事業ノ爲土地ヲ賣拂フ場合ニ於テ宮内大臣必要アリト認ムルトキハ利子ヲ附セサルコトヲ得

第八條　賣拂地ノ所有權ハ賣拂代金ヲ完納シタル時又ハ擔保ヲ提供シタル時ニ於テ買受人ニ移轉ス但シ國又ハ地方團體ニ對シ擔保ヲ提供セシメサル場合ニ於テハ賣拂地ノ所有權ハ賣拂代金納付ノ割合ニ從ヒ之ヲ移轉スルコトヲ得

立木地ニ於ケル立木ノ所有權ハ立木代金ヲ完納シタル時買受人ニ移轉ス

擔保ヲ提供セシメスシテ賣拂代金ノ分納ヲ許可シタル場合ニ在リテハ買受人ハ最初ノ分納金ヲ納付シタル後ハ無償ニテ其ノ土地ノ用方ニ從ヒ使用收益ヲ爲スコトヲ得

第九條　（削除）

第十條　皇室會計令及附屬法令ノ規定ハ本令及附屬法令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ノ賣拂ニ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年皇室令第十二號附則

本令ハ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ世傳御料ヲ解除セラレタル土地ニ付テハ不要存御料地處分令第三條第二項ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

參照

舊第三條第二項

世傳御料ヲ解除セラレタル御料地ニ付テハ世傳御料解除公告ノ日ヲ以テ前項第二號及第六號ノ本令公布ノ日ト看做ス

○不要存御料地處分令施行規則

大正七年十二月二十八日宮内省令第十號

（改正）大正十年宮内省令第一號、同第九號、十二年同第七號、十三年皇室令第八號、十四年宮内省令第五號、昭和五年同第七號

第一章　總則

第一條　御料地整理ノ爲不要存御料地ヲ賣拂ハムトスルトキハ帝室林野局長官ハ其ノ所在、面積其ノ他必要ナル事項ヲ官報及其ノ土地所在地方ノ新聞紙又ハ適當ナル方法ニ依リ公告スヘシ但シ不要存御料地處分令第三條ノ規定ニ依リ賣拂ヲ爲ス場合ニ於テ公告ノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ公告シタル事項ノ外其ノ土地ニ關スル諸般ノ事項ハ公告ニ於テ指定シタル帝室林野局ノ支局又ハ出張所ニ就キ承合スヘシ

第二條　本令ニ依リ帝室林野局長官ニ提出スヘキ書類ハ買受人出頭シテ之ヲ提出スル場合ヲ除クノ外書留郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ帝室林野局ニ提出スヘシ

第三條　書類ニシテ公告又ハ指定シタル期限内ニ帝室林野局ニ到達セサルモノハ之ヲ無效トス但シ帝室林野局長官已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　（削除）

第五條　地方團體ヨリ提出スル拂下願書ニハ其ノ議決機關ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第六條　官國幣社以外ノ神社ヨリ提出スル拂下願書ニハ神職ハ氏子又ハ信徒總代三人ト連署シ之ニ地方長官ノ許可書ヲ添附スヘシ

寺院ヨリ提出スル拂下願書ニハ住職ハ檀徒又ハ信徒總代三人ト連署シ之ニ市町村長及宗派管長ノ奥書ヲ受クヘシ

第七條　代理人ヨリ提出スル拂下願書ニハ代理權ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八條　二人以上連署シテ共同ニ拂下ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ一人ノ代理人ヲ定メ之ヲ帝室林野局長官ニ屆出ツヘシ

第九條　買受人又ハ代理人氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ之ヲ帝室林野局長官ニ屆出ツヘシ代理人ノ變更又ハ代理權ノ變更若ハ消滅アリタルトキ亦同シ但シ氏名變更ノ屆出ニ付テハ戸籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ

前項ノ屆出ナキトキハ其ノ變更又ハ消滅ヲ以テ帝室林野局長官ニ抗スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ相續ニ因ル權利承繼ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　本令ニ依リ提出スヘキ書類ニ不備又ハ錯誤アルトキハ帝室林野局長官ハ期限ヲ指定シテ其ノ訂正ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　拂下ヲ爲シタル土地附帶ノ義務ハ買受人ニ於テ之ヲ承繼スヘシ

第十二條　買受人ハ拂下ノ確定シタル後ニ於テハ買受ニ係ル土地ノ面積又ハ立木ノ蓄積ニ錯誤アリタルトキト雖帝室林野局長官ニ異議ヲ述フルコトヲ得ス拂下ノ確定シタル後ニ於テ不可抗力其ノ他帝室林野局ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ生シタル土地又ハ立木ノ亡失毀損ニ付亦同シ

第十三條　買受人ハ所有權移轉前ニ在リテハ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ拂下物件ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二章　隨意契約

第十四條　隨意契約ニ依ル土地ノ賣拂ニ付テハ第一條ノ規定ニ依ル公告中ニ不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當スル者ノ出願期限ヲモ揭クヘシ

第十五條　不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當スル者土地ノ拂下ヲ受ケムトスルトキハ帝室林野局長官ニ第一號書式ノ拂下願書ヲ出願期限内ニ提出スヘシ

一團地トシテ公告シタル區域内ニ於ケル土地ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當スル他ノ同一資格者ノ全部又ハ一部ト共同ニ拂下願書ヲ提出スルコトヲ得一團地内ノ一部ノ土地ノ拂下ヲ受ケムトスル者ニ付亦同シ

第十六條　不要存御料地處分令第三條第二號乃至第八號ノ關係アル土地ハ其ノ各號ノ一ニ該當スル資格者ヨリ拂下ノ出願アリタルトキト雖之ヲ同第一號ニ該當スル資格者ニ賣拂フコトヲ得

第十七條　不要存御料地處分令第三條第二號ノ規定ニ依ル土地使用者ニ土地ヲ拂下クルコトヲ得ルハ同號ノ規定ニ依ル借受人出願期限内

ニ拂下願書ヲ差出ササルトキ、拂下ノ願書若ハ請書ヲ取下ケタルトキ、借受人ニ對シテ拂下ヲ許可セサルトキ又ハ拂下許可其ノ效力ヲ失ヒタルトキニ限ル

前項ノ規定ハ不要存御料地處分令第三條第二號乃至第六號ノ三ニ掲ケタル土地ヲ同第七號又ハ同第八號ニ掲ケタル者ニ拂下クル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　同一ノ土地ニ付出願者二人以上アル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ難キ特殊ノ事情アルトキハ帝室林野局長官ハ前條ノ規定ニ拘ラス更ニ期限ヲ指定シ各出願者ヲシテ協議ヲ爲サシメ第二號書式ノ拂下願書ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ協議調ハサルトキハ帝室林野局長官ハ其ノ土地ノ處分ヲ決定ス

第十九條　帝室林野局長官ハ一團地トシテ公告シタル區域内ニ於ケル土地ノ拂下ヲ受ケムトスル者ニ對シ區域及期限ヲ指定シテ不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當スル他ノ同一資格者ノ全部又ハ一部ト共同ニ拂下願書ヲ提出セシムルコトヲ得一團地内ノ一部ノ土地ノ拂下ヲ受ケムトスル者ニ付亦同シ

第二十條　一團地ノ一部ニ付拂下ノ出願アリタル場合ニ於テ地形其ノ他ノ關係上必要アリト認メタルトキハ帝室林野局長官ハ區域及期限ヲ指定シ更ニ拂下願書ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十一條（削除）

第二十二條　帝室林野局長官拂下ヲ許可シタルトキハ土地所轄帝室林野局ノ支局又ハ出張所ニ經テ指令書ヲ出願者ニ交付スヘシ

第二十三條　出願者ハ拂下許可ノ指令書發送ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ土地所轄帝室林野局ノ支局長又ハ出張所長ニ第三號書式ノ拂下請書ヲ提出スヘシ

拂下ハ前項ノ請書ヲ提出シタルトキニ確定シタルモノトス

第二十四條　特定ノ目的ヲ以テ拂下ヲ受ケタル土地ヲ拂下ヲ受ケタル後十年以内ニ其ノ目的以外ニ使用シ又ハ之ヲ讓渡シ若ハ擔保ニ供セムトスルトキハ帝室林野局長官ノ承認ヲ受クヘシ

買受人前項ノ規定ニ違反シタルトキハ帝室林野局長官ノ指示スル所ニ從ヒ違約金トシテ拂下代金ノ半額以内ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第三章　競爭契約

第二十五條　拂下地トシテ公告シタル土地ニシテ一般入札ノ方法ニ依リ賣拂ヲ爲サムトスル部分ニ付テハ帝室林野局長官ハ入札期日ヨリ少クトモ三十日前ニ適當ナル方法ヲ以テ左ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

一　土地ノ所在及面積

二　契約ノ締結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

三　入札手續書及契約書案ヲ示スヘキ場所

四　入札ノ場所及年月日時

五　入札保證金ノ率

六　前各號ノ外必要ナル事項

第四章　代金納付

第二十六條　拂下代金ニシテ一時ニ納付スヘキモノハ拂下ノ確定シタル日ヨリ六十日以内若ハ指定期限内ニ又分納金ハ毎回其ノ金額ヲ一時ニ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ノ指示ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

第二十七條　拂下代金分納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ拂下代金分納願書ヲ帝室林野局長官ニ提出スヘシ

前項ニ掲ケタル者不要存御料地處分令第六條第二項但書ノ規定ニ依リ擔保提供ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ前項ノ願書提出ト共ニ其ノ旨ヲ出願スヘシ

第二十八條　不要存御料地處分令第七條ノ規定ニ依ル分納ノ期間ハ拂下代金ニ利子ヲ附スル場合ニ在リテハ十五年以内、之ニ利子ヲ附セサル場合ニ在リテハ五年以内トス

前項ノ規定ニ依ル年數ハ分納許可ノ日ヨリ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十九條　帝室林野局長官拂下代金ノ分納ヲ許可シタルトキ又ハ拂下代金分納ニ對スル擔保ノ提供ヲ免除シタルトキハ土地所轄帝室林野局ノ支局又ハ出張所ヲ經テ指令書ヲ出願者ニ交付スヘシ

第三十條　拂下代金分納ノ許可ヲ受ケタル買受人擔保ヲ提供セムトスルトキハ分納許可ノ日ヨリ六十日以内又ハ特ニ期限ヲ指定シタルトキハ其ノ期限内ニ每回ノ分納金每ニ擔保證券ノ種類、記號番號、額面金額及數量ヲ記載シタル第五號書式ノ擔保品納付書ヲ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ニ提出スヘシ

第三十一條　拂下代金分納ノ擔保タルヘキ證券ハ無記名國債證券トス

第三十二條（削除）

第三十三條　擔保品ハ分納金額以上ノ價格ヲ有スルコトヲ要ス

第三十四條　分納ノ利率及擔保品ノ擔保價格ハ帝室林野局長官官房内大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第三十五條　分納金ヲ納付シタルトキハ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ハ之ニ對スル擔保ヲ還付スヘシ

第三十六條　買受人已ムコトヲ得サル事由ニ依リ拂下代金ヲ其ノ納期ニ納付スルコト能ハサルトキハ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ハ買受人ノ出願ニ依リ相當期間ヲ指定シテ其ノ納付ヲ猶豫スルコトヲ得但シ拂下代金ニシテ一時ニ納付スヘキモノノ納付ヲ猶豫スル場合ニ在リテハ一年、分納金ノ納付ヲ猶豫スル場合ニ在リテハ其ノ最後ノ納期ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ納付ヲ猶豫シタルトキハ其ノ猶豫期間ニ對シテ利子ヲ徵收スヘシ

第三十七條　買受人納期ニ分納金ヲ納付セサルトキハ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ハ其ノ擔保品ノ全部又ハ一部ヲ賣却シ其ノ賣却代金ヲ以テ順次ニ賣却費用、前條ノ利子及分納金又ハ違約金ニ充當スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ過剩アルトキハ之ヲ買受人ニ還付スヘシ但シ納期未達ノモノアルトキハ擔保品賣却代金ノ過剩ハ納期到來ノ際其ノ代金ニ充當スルコトヲ得

第三十八條　不要存御料地處分令第五條ニ規定スル違約金ハ帝室林野局長官ノ指示スル所ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

前項ニ規定スル違約金ノ額ハ拂下代金ノ百分ノ十以上百分ノ三十以下トス

拂下代金分納ノ場合ニ於テハ分納金ノ總額ヲ以テ前項ノ拂下代金ト

第十一類　土地拂下

ス

附　則

本令ハ不要存御料地處分令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年宮内省令第九號附則

本令ハ大正十年皇室令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年宮内省令第七號附則

本令ハ昭和五年皇室令第十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附錄書式）

第一號

御料地拂下願

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地

一段別何程

此ノ土地立木代金何程

右御料地ハ何何（拂下ヲ受クヘキ關係ヲ詳記スヘシ）ニシテ不要存御料地處分令第何條第何號ニ該當スルモノニ付御拂下被成下度此段奉願候也

大正何年何月何日

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地

出願者　氏　名　印

帝室林野局長官氏名殿

第二號

御料地拂下願

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地

一段別何程

此ノ土地立木代金何程

右御料地ハ何何（拂下ヲ受クヘキ關係ヲ詳記スヘシ）ニシテ不要存御料地處分令第何條第何號ニ該當スルモノニ付御拂下相願候處同地ニ對シ他ニ出願者有之ニ付不要存御料地處分令施行規則第何條ニ依リ御指示ノ趣敬承則チ右出願者ヘ協議ノ上本書更正更ニ御拂下ノ儀相願候條許可被成下度此段奉願候也

大正何年何月何日

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地

出願者　氏　名　印

帝室林野局長官氏名殿

前書御料地ノ儀ハ先般御拂下出願仕候處今回御指示ニ依リ協議相調ヒ前記ノ者ヨリ御拂下出願仕候ニ付テハ異議無之依テ奥印仕候也

大正何年何月何日

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地

氏　名　印

第三號

（印）
收入印紙
參　錢

御料地拂下請書

大正何年何月何日ヲ以テ出願仕候何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（外何筆合）段別何程（土地立木共）御拂下ノ件ニ對シ大正何年何月何日帝室林野局第何號ヲ以テ許可相成候ニ付テハ不要存御料地處分令並同令施行規則ヲ遵守可仕候

右御請仕候也

大正何年何月何日

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地

出願者　氏　名　印

帝室林野局長官氏名殿

第四號

御料地拂下代金分納願

今般何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（外何筆合）段別何程（土地立木共）御拂下出願仕候ニ付御許可ノ場合ニハ其ノ拂受代金（立木代金ヲ即納シ土地代金）ハ不要存御料地處分令施行規則第何條ニ依リ何箇年間ニ年賦（半年賦）ノ方法ヲ以テ分納ノ儀許可被成下度此段奉願候也

大正何年何月何日

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地

出願者　氏　名　印

大正帝室林野局長官氏名殿

第五號

（印）
收入印紙
參　錢

擔保品納付書

一無記名何國債證券額面何圓也

内　譯

何號　何番　何圓券　何枚

何號　何番　何圓券　何枚

右第一回分納金何程ニ對スル擔保

一無記名何國債證券額面何圓也

内　譯

何號　何番　何圓券　何枚

何號　何番　何圓券　何枚

右第二回分納金何程ニ對スル擔保

（以下之ニ倣フ）

前記無記名何國債證券ハ大正何年何月何日帝室林野局第何號ヲ以テ拂下被成下候何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番御料地（外何筆合）段別何程ニ對スル拂受代金ノ擔保トシテ質權設定仕候ニ付テハ期限ニ至リ萬一拂受代金ノ納付ヲ怠リ候節ハ不要存御料地處分令施行規則第何條ニ依リ御處分被成下度納付書仍テ如件

大正何年何月何日

何府縣何郡（市）何町（村）大字何字何何番地

出願者　氏　名　印

帝室林野局長官氏名殿

○東京市京都市及其ノ附近所在御料地ノ賣拂ニ關スル件

大正十四年六月二十四日皇室令第十號

東京市京都市及其ノ附近所在御料地ノ整理ニ付宮内大臣必要アリト認

メタルトキハ不要存御料地處分令第二條第三條及第四條ノ規定ニ拘ラス隨意契約又ハ指名入札ニ依リ之ヲ賣拂フコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●不要存御料地處分ニ關スル件

大正九年十月十五日第二九四八號主事依命通牒

不要存御料地ノ借地權讓渡及賣拂代金分納金ノ納付期ニ關シテハ左ノ通御取扱相成度候

一　處分令第三條第二號ノ借受人トハ同令公布前ヨリ引續キ年期貸付中ノ者ノミナラス公布以後其借地權ヲ讓受ケタル者ヲモ包含スヘキニ付借地權讓渡ノ場合ハ其都度手續ヲ履行セシメ御料地拂下願書ハ讓受人タル現借地者ヨリ提出スル樣致度且ツ右權利移轉ハ拂下處分前ナレハ之ヲ拒止スヘキニアラサルモ實際取扱上ノ希望トシテハ拂下願書ノ訂正ヲ終リタル後ハ出願人ノ變更無之樣致度追テ現ニ借地權移轉者ニシテ未手續ノモノニ付テモ亦前同樣御調査ノ上相當御整理相成候樣致度爲念申添候

二　分納金納付期ニ關シテハ自今（既ニ分納許可指令濟ノモノヲ除ク）實受人ヲシテ最初ノ年割分納金ハ分納許可ノ日ヨリ六十日以內又ハ特ニ期限ヲ指令シタルトキハ其期限內ニ之ヲ納付セシメ第二回以降年賦金ハ每年曆ニ從ヒ分納許可ノ日ニ相當スル日ニ於テ之ヲ納付セシムヘキモノト御承知相成度

追テ分納願ハ可成拂下願書ト同時ニ提出セシムル樣致度候

○不要存御料地處分ノ際治水上ノ關係ヲ有スル土地協議方ノ件

（一）內務大臣ヨリ宮內大臣ニ照會要旨

（明治三十三年六月十八日土警第五三號、明治三十三年八月三日秘乙第三三號、明治四十年五月二十一日土甲第二四號、明治四十二年五月二十五日土甲第一〇九七號、明治四十三年五月四日土第一〇一四號、明治四十四年五月四日土第一〇一四號）

不要存御料地トシテ拂下處分セラルヘキモノヽ內治水上必要ナル關係ヲ有スル部分ハ河川ノ管理上民有ニ歸セシメサル方得策ト存セラルヽヲ以テ爾今河川附近並堤外地等ヲ拂下處分セラルヽ場合ハ左記區分ニ依リ協議ノ上內務省所管ニ移サレタシ

記

(1)內務省土木局ヘ協議ヲ要スル分

利根川ノ內　左岸群馬縣佐波郡名和村
　　右岸同　縣同　郡芝根村以下海ニ至ル
木曾川ノ內　左岸愛知縣中島郡祖父江村以下海ニ至ル
　　右岸岐阜縣羽島郡八神村
揖斐川ノ內　岐阜縣本巢郡呂久村以下海ニ至ル
同支川
長良川ノ內　左岸岐阜縣羽島郡大須村以下揖斐川合流ニ至ル
　　右岸同縣安八郡墨俣村
淀　川ノ內　左岸滋賀縣滋賀郡石山村以下海ニ至ル
　　右岸同縣栗太郡瀨田村
渡良瀨川ノ內　左岸栃木縣足利郡足利町以下利根川合流ニ至ル
　　右岸同　縣同　郡山邊村

同支川
秋山川ノ內　栃木縣安蘇郡植野村以下渡良瀨川合流ニ至ル
同
思川ノ內　栃木縣下都賀郡穗積村以下渡良瀨川合流ニ至ル
同
巴波川ノ內　左岸栃木縣下都賀郡寒川村
　　右岸同　縣同　郡部屋村以下思川合流ニ至ル
北上川ノ內　左岸宮城縣登米郡錦織村
　　右岸同　縣同　郡上沼村以下海ニ至ル

(2)地方廳ヘ協議ヲ要スル分

內務省土木局ヘ協議ヲ要スル分ヲ除キタル河川

（二）宮內大臣ヨリ內務大臣ニ回答要旨

（明治三十三年八月三十日第四五一七ノ五號甲局長達、明治三十三年八月十七日第四五一七ノ四號、明治四十年六月五日第九七ノ二號局長達、明治四十二年六月六日第二三ノ二號長官達、明治四十三年五月二十三日第二九二ノ二號長官達）

不要存御料地トシテ賣却處分ヲ要スルモノヽ內帝室林野局ニ於テ河川附近並堤外地ト認メタル土地アルトキハ豫メ同局ヨリ協議セシメ其ノ要否ニ由リ夫々處理致スヘク

（三）長官ヨリ地方部局ニ達要旨

（明治三十三年八月三十日第四五一七ノ五號甲局長達、明治四十年六月五日第九七ノ二號局長達、明治四十二年六月六日第二三ノ二號長官達、明治四十三年五月二十三日第二九二ノ二號長官達）

（一）（二）ノ照會應答寫ヲ送付シ右ニ依リ取扱フヘキ旨達セラル

（備考）　明治三十三年八月三十日本局第四五一七ノ五號乙ヲ以テ右局長ノ御達旨ハ今後新ニ不要存地トナリ其處分ヲ要スヘキ場合ニ適用スルモノニシテ明治三十一年本省告示第一號拂下豫定地ニハ適用セサル旨主事ヨリ地方部局長ヘ通牒アリ

●不要存御料地上ノ立木竹處分ニ關スル件（通牒要旨）

大正十五年九月八日整第一二〇〇ノ二號
同　年十月二日整第一二〇〇ノ五號
同　年十月四日整第一四五五號
昭和五年十一月十八日整乙第七四二ノ四號
同七年三月四日整乙第一九八號

不要存御料地上ノ立木竹ハ不要存御料地處分令ニ據リ土地ト共ニ處分スヘキ義ナルモ產物處分ヲ別途遂行スルノ已ムヲ得サルモノハ其ノ都度理由ヲ具シ協議スルコト但シ左記立木竹ハ支局限處分スルコトヲ得別途處分ノ場合ハ不要存御料地處分令ニ據ルヘキモノニアラス其ノ代金モ經常收入ニ歸スルモノトス

記

一、枯損木及被害木
二、賣拂立木搬出ニ要スル少量ナル立木
三、家屋、交通、通信及送電線路ノ危險竝障碍木竹
四、貸地、測量及耕地等ノ僅少ナル障碍木
五、造林撫育ニ因ル伐倒木

●不要存御料地上ノ立木竹處分令書送付後地方部局ニ於ケル取扱方ノ件

大正九年一月十七日不第一八五九號長官達

不要存御料地處分令施行規則ニ依リ拂下出願者ニ交付スヘキ指令書ヲ送付シタルトキハ左ノ通リ取扱フヘシ

一、指令書ハ書留郵便ヲ以テ出願者ニ送付スヘシ但該拂下處分ニ關シ故障アリト認メタルトキハ其事由ヲ本局ニ報告シ何分ノ指揮ヲ待ツヘシ

二、指令書ヲ出願者ニ送付スル場合ニハ不要存御料地處分令施行規則附錄第三號書式ニ依リ請書用紙ヲ調製シ指令書ト共ニ交付シ署名捺印ノ上提出セシムヘシ且請書ハ同規則第二十三條ニ依リ其ノ部局ニ於テ指令書ヲ發送シタル日ヨリ三十日以內ニ提出スヘキ旨ヲ付箋其他ノ方法ヲ以テ出願者ニ注意スヘシ

三、拂下許可指令後相續又ハ氏名變更等ノ爲メ指令書ハ請書トノ人名等相違ナルモノアリタルトキハ請書記名ノ肩ニ其事由ヲ記載シ戶籍謄本又ハ抄本ヲ添付セシムヘシ

四、出願者ヨリ請書ヲ提出シタルトキハ直チニ代金收入又ハ擔保品領收ノ手續ヲ爲シ且其請書ヲ本局ニ囘付スヘシ

五、左ノ場合ニ於テハ別紙書式ニ依リ直チニ報告スヘシ

一、買受人ニ於テハ代金又ハ擔保品及年賦分納金ヲ納付シタルトキ

一、不要存御料地處分令施行規則第三十六條ニ依リ分納金ノ納付ヲ猶豫シタルトキ

（消滅）

一、右ノ外重要ナル事項ハ隨時報告スヘシ

六、拂下請書ヲ提出セス又ハ代金不納等ノ爲メ拂下處分ヲ遂行シ難キトキハ其ノ事由ヲ詳具シ且意見ヲ付シ上申スヘシ

七、拂下許可指令ノ失效トナリタルモノハ之ヲ返還セシメ便宜取纏メ囘付スヘシ

○大正十五年十二月二十四日整第一九四九號次長ヨリ各支局長ヘ依命通牒

出願人ニ於テ御料地貸付料ノ滯納アルモノニ對シテハ右料金徵收ノ上指令書送付ノコト

（書式省略）

●不要存御料地拂下許可書分割ニ關スル件（要旨）

昭和三年七月二十一日名整第三四四號名古屋支局長協議八月二十二日整乙第八五二ノ二號次長回答及各支局長ヘ通牒

不要存御料地拂下許可書ハ原則トシテ分割セサル方針ナルモ自作農創設維持資金借入ノ必要其ノ他不得已モノニ限リ分割詮議可致詳細情ヲ具シ上申ノコト

○拂下代金分納利率及擔保價格ノ件

大正九年一月九日不第一八四五號大臣ヘ伺定

不要存御料地處分令施行規則第三十四條ノ規定ニ依ル拂下代金分納ノ利率ハ年五分トシ又擔保品ノ擔保價格ハ當分ノ內左ノ通定メ度

一、五分以上ノ利附國債證券　額面ノ一割引

二、五分未滿ノ利附國債證券　額面ノ二割引

三、大藏省調査ニ係ル東京株式取引所前月取引平均價格カ前二號ノ價格ヨリ下ルトキハ該取引平均價格ニ依ル

○不要存御料地拂下代金ノ納付期ニ關スル件

昭和五年四月四日整乙第三二三號大臣ヘ伺定

不要存御料地拂下代金ノ納付ハ一時納付ノモノニ在リテハ契約確定後六十日以內分納ニ在リテハ第一回分ハ分納許可ノ日又ハ請書提出ノ日ヨリ六十日以內第二回分以降ハ毎年分納許可ノ日ニ相當スル日ニ納付セシムルコトニ取扱來リ候處買受人等ハ自己ノ經濟狀態ヨリ納付期日ヲ其ノ收入時期ニ指定セラレタキ旨願出ル者往々有之不得已義ト思料セラレ候ニ付自今特ニ納付期日ヲ指定スルモノニ對シテハ分納金ノ利息計算ハ指定納期日ヨリ起算スルコトニ致度

●不要存御料地拂下代分納金納付猶豫期間ニ對スル利子及分納金繰上納付金ニ關スル件

（通牒要旨）

大正十二年十二月十七日不第一〇三七ノ三號
同十四年六月二十三日12不第一〇三七ノ四號
昭和二年七月一日整第八一四ノ四號
昭和三年九月二十四日整乙第九八三ノ三號

一、分納金納付猶豫期間ニ對スル利子ハ年五分トス

二、分納金納付猶豫期間カ一箇年未滿ナルトキハ前項ノ利率ニ相當スル日歩ヲ以テ利子ヲ計算スルモノトス

三、猶豫利子ハ納入告知書ニ指定シタル納期滿了ノ翌日ヨリ起算シ猶豫期間ノ末日迄ノ分ヲ計算スルモノトス

四、分納金繰上納付出願（買受人名義變更其ノ他ノ拂下變更出願ト同時ニ繰上納付出願ヲ含ム）ノ場合ニ於ケル繰上納付金額ハ該願許可ノ日ニ於ケル現在價額トス

●不要存御料地買受人名義變更ノ件

大正十二年六月二十二日不第三〇二四ノ六號事務官依命通牒

不要存御料地買受人ニシテ分納期間中名義變更ヲ出願スルモノハ相續其ノ他不得止場合ヲ除ク外殘金ヲ卽納スルニアラサレハ許可サレサルコトト相成候ニ付若シ讓渡シノ爲メ名義變更出願ノ際卽納シ能ハサルモノハ讓受人ノ資產狀態等詳細調査ノ上事情不得止モノト認ムルモノニ限リ進達相成度

●不要存御料地處分統計ニ關スル件

昭和二年六月四日15整第八〇七ノ一一號次長通牒(抄)

不要存御料地賣拂處分成績月末現在額ヲ甲號樣式ニ依リ翌月十五日迄ニ御報告相成度

尙從來ノ不要存御料地賣拂代金收入報告ニ付テハ自今乙號樣式ニ依リ其ノ月分ノ收入ハ翌月十日迄ニ全部報告相成度

樣式甲號

第　　號

昭和　年　月　日

帝室林野局長官殿

支局長

報告

不要存御料地處分成績調（年度月末現在）

出張所別	賣拂處分					代金收入		未收入		備考
	面積	拂下代金	利子	即納	分納	即納	分納	即納	分納	
	町	円	円	円	円	円	円	円	円	

備考

一、本表中卽納トハ一時納付金及之ニ對スル利子ヲ計上シ分納トアルハ分納金及分納金ニ對スル利子ヲ計上スヘシ

二、賣拂處分ノアリタル場合ハ指令ノ月ヲ以テ加算計上スヘシ

三、賣拂契約解除ノ場合ハ解除通知ノ月ニ於テ其額ヲ減スヘシ

四、代金收入ハ總ヘテ歲入計算簿ニ合致セシムヘシ

五、拂下面積代金其他分納金ニ異動ヲ生シタル場合ハ變更許可指令ノ月ヲ以テ之ヲ加減スヘシ

六、一月ヨリ四月迄ノ間ニ於テハ前年度ト當年度收入金額トヲ割書區分計上スヘシ

七、分納ヲ卽納ニ變更ノ場合ハ卽納トシ分納ノ途中ニ於テ繰上納付ノ場合ハ分納トシテ計上シ尙猶豫ニ付テハ卽納ニ附セラレタル利子ハ卽納ニ分納ニ附セラレタル利子ハ分納ニ計上シ總ヘテ收入年月ニ依リテ集計加減スヘシ

八、過誤納金處理ノ場合ハ訂正ノ上備考欄ニ其旨ヲ記スヘシ

九、處分後管轄出張所ノ變更アリタル場合ハ元何々出張所トシテ掲記スヘシ

樣式乙號ノ一

第　　號

昭和　年　月　日

支局長

帝室林野局長官殿

不要存御料地賣拂代金收入報告(出張所)昭和　年度　月分

團地番號	指令		納入		拂受人	備考
	年月日	番號	金額	月日		
			円			

樣式乙號ノ二

第　　號

昭和　年　月　日

帝室林野局長官殿

支局長

不要存御料地賣拂代金收入報告(出張所)昭和　年度　月分

團地番號	指令		分納許可年數	納入			拂受人	備考
	年月日	番號		金額	回次	月日		
				円				

備考

一、乙號樣式ノ(一)ヲ卽納金ノ收入報告トシ同號ノ(二)ヲ分納金ノ收入報告トス

二、出張所別、收入年度月別ニ適宜取纒メ報告スヘシ
但シ納入金ノ月別區分ハ歲入計算簿ニヨル

三、分納金ヲ卽納ニ分納ノ途中繰上變更納入或ハ猶豫利子納入等異例ニ依ル收入ノ場合ハ總ヘテ計算ノ根據等備考欄ニ於テ說明ヲ附スヘシ